

大分県埋蔵文化財年報8

平成10（1998）年度版



2000

大分県教育委員会

県指定有形文化財「其ノ田板碑」(豊後高田市)

大分県埋蔵文化財年報 8

平成10（1998）年度版

2000

大分県教育委員会

序 文

本書は、平成10年度に大分県内で実施された発掘調査や埋蔵文化財に係わる事業の概要をまとめたものです。

近年、開発に伴い発掘調査件数が急増するとともに、マス・メディアを通じて、埋蔵文化財への関心が急速に高まってきています。

こうした情勢のなかで、大分県教育委員会は埋蔵文化財保護の拠点である文化課文化財資料室の整備を行い、出土遺物の保管・管理とともに、各種研修会の実施や巡回展の開催、資料の貸し出しなど、教育普及の分野でも活動を行なっているところであります。

また、今回、掲載した発掘調査等の概要の内容をみますと県内各地で各時代の貴重な遺構・遺物が発見されているほか、埋蔵文化財の保護に係る諸活動が積極的に行なわれていることがわかります。

今後、本書が埋蔵文化財保護行政の資料としてのみならず、学術・教育資料として活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、刊行に際し、ご協力をいただきました関係各位に対して、衷心より感謝申し上げます。

平成12年3月31日

大分県教育委員会教育長

田 中 恒 治

例 言

1. 本書は平成10年（1998）年度に大分県内で行なわれた発掘調査の基礎データと埋蔵文化財に係わる資料を掲載したものである。
2. 平成10年度に県内で行なわれた本調査については、調査概要の一部を取り上げるとともに、試掘調査については取り扱い結果を含めて一覧表で掲載した。
3. 「Ⅹ.大分県内遺跡発掘調査概報」は大分県教育委員会が平成11年度に国庫補助金を得て実施した大分県内遺跡発掘調査事業の調査概報で、県内で実施されている農業基盤整備事業及び林業事業に対し事前の分布調査並びに試掘調査を行い、その概要を記すものである。なお、調査の実施にあたり、大分県農政部、同林業水産部、同各地方振興局、県内各市町村農業基盤整備関係事業担当課、各市町村教育委員会の協力をえた。
4. 本文中に使用した遺跡番号は「大分県遺跡地図」大分県教育委員会 1993 に用いた台帳番号と同一である。
5. 新発見遺跡については「大分県遺跡地図」の掲載様式に従い、従前の台帳（台帳番号）に追加したものである。
6. 本書中の地形図は国土地理院「2万5分の1地形図」を使用した。
7. 巻頭カラー写真（県指定有形文化財「具ノ田板碑」）については文化写真家 長谷川 正美 氏より提供を受けた。
8. 「Ⅰ.埋蔵文化財保護行政の現状」は大分県教育庁文化課 主幹 坂本 嘉弘、「Ⅲ.各遺跡の調査概要」・「Ⅳ.遺跡別時代一覧」・「Ⅵ.新発見遺跡一覧」・「Ⅶ.周知遺跡変更一覧」・「Ⅷ.現地説明会・展示会・講演会・シンポジウム・研修・指定物件一覧」は各担当者、「Ⅴ.中世城館調査概要」は同文化課 主査 小柳 和宏、「Ⅷ.平成10年度埋蔵文化財関係文獻一覧」は同文化課 主査 田中 裕介、「Ⅹ.大分県内遺跡発掘調査概報」は同文化課 副主幹 宮内 克己 他がそれぞれ執筆した。その他の執筆と編集は同文化課 主任 染矢 和徳が行なった。

目 次

I. 埋蔵文化財保護行政の現状	1
II. 埋蔵文化財発掘一覧	2
III. 各遺跡の調査概要	7
IV. 遺跡別時代一覧	99
V. 中世城館調査概要	106
VI. 新発見遺跡一覧	107
VII. 周知遺跡変更一覧	110
VIII. 現地説明会・展示会・講演会・シンポジウム・研修・指定物件一覧	111
IX. 平成10年度埋蔵文化財関係文獻一覧	114
X. 大分県内遺跡発掘調査概報	117

I. 埋蔵文化財保護行政の現状

平成10年度、文化課埋蔵文化財資料室は埋蔵文化財第2係と共に、プレハブ造りで手狭な市街地の舞鶴町から、郊外の中判田に移転して2年目を迎えた。この体制は、前年度と同様で、本課に埋蔵文化財第1係、中判田に埋蔵文化財第2係を配したものである。しかし、その内容は若干異なり、前年度の第1係は県事業関係の試掘調査を実施するため4名の体制であったが、平成10年度からこの事業を第2係が担当することとなったため、第1係の業務は、国庫補助金の取りまとめ、市町村教育委員会や開発関係機関との連絡調整などが主となり2名体制となった。一方第2係は、24名の大所帯であるため、前年同様、班体制をとったが、スポーツ公園事業の現場業務がほぼ終了したため、資料整理班、建設省や道路公団事業に対応する受託班、県道建設及び河川改修と国庫補助事業である県内遺跡調査に対応する県事業班、事業予算のとりまとめや全体の調整を行なう庶務班の4班体制で、開発事業に対応した。

また、市町村教育委員会の体制は、大分県下58市町村のうち30市町村に58人の埋蔵文化財の担当職員が配置され、埋蔵文化財の保護と民間をはじめ各種開発事業との調整を図っている。

さて、埋蔵文化財資料室の中判田移転に伴い、70～80人規模の会議や研修が可能になり、平成10年度もいくつかの研修会が開催された。ひとつは県下の市町村職員を対象とした「大分県文化財行政担当者研修会」を開催した。今回は、これまで文化課の埋蔵文化財係と文化財管理係が別々に開催していたものを合せて開催したもので、鹿児島県教育委員会文化財課の戸崎勝洋氏を迎え「上野原遺跡の保存と活用」についての講演を受けた後、両係から業務の説明・事務連絡などをおこなった。

平成10年度から開始した研修としては、農政部と土木建築部の開発事業担当職員に対し、埋蔵文化財行政に対する理解と協力を求めるため、開発事業を行なう場合の埋蔵文化財の取り扱いの研修を実施した。この研修は、平成10年度に農政部1回、土木建築部2回づつを行い、今後も継続して行なう予定である。

この他、平成9年度から実施している小学校・中学校・高等学校・養護学校の新採用教職員の初任者研修会を平成10年度も実施した。その内容は、大分県の埋蔵文化財行政と調査の成果、資料室での遺物整理の実態などであった。

一方、今後の埋蔵文化財行政の指針とするため、平成6年から文化庁が行なっている「埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究委員会」から、平成10年度は「埋蔵文化財の把握から開発事前調査に至るまでの取り扱い」が文化庁次長通知としてされた。その内容は県・市町村の役割、埋蔵文化財の取扱う範囲、発掘調査の費用積算と期間の明確化を求めるなど、今後の埋蔵文化財行政に大きな影響を与えるものであった。また、平成9年度に次長通知として出された『出土品の取扱いについて』は、各都道府県がその方法についてガイドラインを示すようになったが、九州・沖縄地区では「埋蔵文化財保護対策等九州地区協議会」で統一したガイドラインを作成することとし、平成10年度中をめどに完成を目指した。

平成10年度の調査で、注目される遺跡としては、大分市教育委員会が実施した中世大友館跡がある。この調査は、大分駅高架を伴う駅周辺区画整理事業によるもので、大友館の南東隅にあった池跡が検出された。さらに、大友館の西端では民間のマンション建設が計画され、調査を行なっている。こうした、大友館跡推定地内の相次ぐ開発に対し、国・県・市で協議した結果、先の2カ所の開発予定地を手始めに大友館の国指定史跡へ向けて大きく動き出した。この駅周辺総合整備事業については、県教育委員会は上野台地の北側に沿って計画されている県道庄ノ原佐野線、大友館の南側に計画されているJR高架事業、大友館の城下町を南北に通る国道10号線の拡幅事業が直営事業となり、今後の遺跡の取り扱いについて、大きな問題となってくるものと考えられる。

現在、埋蔵文化財行政は、文化財保護法に成立以来の大きな転換期にきている。すなわち平成12年4月1日から施行される地方分権一括法に伴い、これまで文化庁の果たしていた役割の一部が、県教育委員会に委譲され役割と責務が増大する。こうした状況に適切に対応するためにも、一層の県・市町村の埋蔵文化財保護の体制整備と充実が求められる。

Ⅱ. 埋蔵文化財発掘一覧 [57条]

No.	遺跡名	所在地	届出	調査原因	時代	根拠条
1	中殿遺跡	久住町大字仏原1506外	大分県知事	農業関連	奈良・平安	57条の3
2	かわじ池遺跡	湯布院町大字川北丸尾1727外	民間	宅地造成	縄文	57条の2
3	中屋敷遺跡	宇佐市大字上田404	宇佐市長	学校	弥生・古墳	57条の3
4	下郡遺跡群	大分市大字下郡字境目14-1外	大分市長	土地区画整理	縄文～近世	57条の3
5	野村台遺跡	臼杵市大字野田字飛車丸544-1外	大分県知事	道路	弥生・中世	57条の3
6	日田茶屋遺跡	日田市吹上町1220番1	個人	住宅	縄文・弥生・中世	57条の2
7	日田桑里遺跡	日田市大字三和字五反田669番1	個人	住宅	縄文・弥生・中世	57条の2
8	朝日宮ノ原遺跡	日田市大字山田字下原95-3外	個人	宅地造成	弥生・古墳	57条の2
9	手崎遺跡	日田市大字高瀬字手崎1217-1外	個人	住宅	縄文・古墳・中世	57条の2
10	下郡遺跡群	大分市大字下郡字辻2875-8外	大分市長	土地区画整理	縄文～近世	57条の3
11	春木万元遺跡	別府市大字鶴見字ノ原3356-6	個人	住宅	縄文・弥生・中世	57条の2
12	久上遺跡第4次	大分市大字久上1375外	大分市長	道路	弥生・古墳	57条の3
13	北田遺跡	香々地町大字見目	香々地町土地開発公社	宅地造成	中世	57条の3
14	佐伯城下町	佐伯市大字町3-3-24	民間	その他の建物	近世	57条の2
15	多武尾遺跡	大分市大字横尾字芝原2965-1	大分市長	土地区画整理	弥生	57条の3
16	東中尾遺跡	大分市大字横尾字芝原2976	大分市長	土地区画整理	弥生	57条の3
17	多武尾遺跡C-23	大分市大字横尾字芝原2937-4	大分市長	土地区画整理	弥生・古墳	57条の3
18	多武尾遺跡C-23・28	大分市大字横尾字芝原2937-1	大分市長	土地区画整理	弥生	57条の3
19	多武尾遺跡C-22・28	大分市大字横尾字芝原2859	大分市長	土地区画整理	弥生	57条の3
20	多武尾遺跡C-15・22	大分市大字横尾字芝原2869-2	大分市長	土地区画整理	弥生	57条の3
21	西山古墳群	国見町大字中字蛙石2423-9外	民間	その他の建物	古墳	57条の2
22	津守遺跡	大分市大字津守173-3外	民間	その他の建物	中世	57条の2
23	上野遺跡群	大分市上野丘1-500-1	個人	住宅	弥生～中世	57条の2
24	尾根遺跡	久住町大字有氏3563-外	大分県知事	農業関連	弥生・古墳	57条の3
25	下原遺跡	野津原町大字下原1201外	大分県知事	農業関連	縄文・中世	57条の3
26	下郡遺跡群	大分市大字下郡字庵ノ瀬2808-3外	大分市長	土地区画整理	縄文～近世	57条の3
27	上野遺跡群	大分市上野丘東2-24	個人	住宅	奈良～中世	57条の2
28	二日川遺跡	大分市大字横尾4125-2外	大分県知事	道路	弥生	57条の3
29	炭竈遺跡	竹田市大字炭竈	竹田土木事務所長	道路	縄文	57条の3
30	臼杵石仏群地域遺跡	臼杵市大字深田字井尻外	大分県知事	農業関連	平安～近世	57条の3
31	森ノ木遺跡	佐伯市大字長谷字森ノ木	大分県知事	道路	旧石器・縄文	57条の3
32	馬場茶屋跡	佐賀関町大字神崎字浮瀬寺1063外	大分県知事	道路	奈良・平安	57条の3
33	北方下向遺跡	抜間町大字北方字下角13-2外	民間	その他の建物	弥生・古墳	57条の2
34	下石家屋敷跡	竹田市大字竹田字茶屋辻642	竹田市長	水道	近世	57条の3
35	安心院茶屋跡	安心院町大字上市40	大分県宇佐両院製菓店	農業関連	中世	57条の3
36	平原・原ノ久保遺跡	天瀬町大字藤田字平原・原ノ久保	大分県知事	農業関連	中世・近世	57条の3
37	中安遺跡	大分市大字城原647外	大分市長	道路	弥生～奈良	57条の3
38	岩戸口遺跡	萩町大字柏原字三割2353-2	大分県知事	道路	縄文	57条の3
39	小野茶屋跡	山香町大字久木野尾字引治3747外	大分県知事	道路	近世	57条の3
40	飯塚城跡	国東町大字鶴川字キリウ・原東	国東町長	その他の建物	奈良～中世	57条の3
41	日田桑里遺跡	日田市城町1丁目506外	個人	住宅	中世	57条の2
42	下郡遺跡群	大分市大字下郡字屋敷2189-1外	大分市長	土地区画整理	縄文～近世	57条の3
43	佐伯城下町	佐伯市大手町3-122-1	個人	その他の建物	近世	57条の2

No.	遺跡名	所在地	届出	調査原因	時代	規模
44	千塚・西遺跡群	野津町大字千塚582外	大分県知事	遺跡	旧石器	57条の3
45	千塚・長小野遺跡群	野津町大字千塚1786-1外	大分県知事	遺跡	旧石器	57条の3
46	下郡遺跡群	大分市大字下郡字辻2872-3	大分市長	土地調査課	縄文～近世	57条の3
47	葛木遺跡	大分市大字葛木字中原417-1	大分県知事	学校	弥生	57条の3
48	多武尾遺跡C-16・17	大分市大字横尾2843-3	大分市長	土地調査課	弥生	57条の3
49	城前遺跡	真玉町大字城前	高田土木事務所長	道路	中世	57条の3
50	牧ノ原・北遺跡	真入町大字長福字牧の原8472の33外	民間	その他の建物	縄文	57条の2
51	佐伯城下町	佐伯市城東町589-2	個人	その他の建物	近世	57条の2
52	府内城下町遺跡	大分市荷揚町1-33	民間	その他の建物	近世	57条の2
53	佐守原遺跡	門田市大字有田字佐守原	大分県知事	その他の建物	弥生	57条の3
54	北越輪遺跡	別府市大字鉄輪字ソノダ1426-1外	民間	その他の建物	縄文	57条の2
55	荒平城跡	緒方町大字上知字荒平1214-54外	民間	その他の建物	中世	57条の2
56	其ノ田板碑	豊後高田市大字跡	高田土木事務所長	河川	中世	57条の3
57	上ノ馬場遺跡	門田市上城町1032-1	民間	宅地造成	中世	57条の2
58	竜ヶ鼻横穴墓群	三重町大字赤嶺2629-3外	民間	その他の建物	古墳	57条の2
59	元宮遺跡	日田市大字求米里字堂岡604	民間	その他の開発	弥生・古墳	57条の5
60	坂門遺跡	玖珠町大字岩宝字坂口44外	民間	その他の開発	弥生	57条の2
61	佐知久保畑遺跡	三光村大字佐知	民間	その他の開発	縄文・古墳・中世	57条の2
62	佐伯城下町	佐伯市船頭町215	民間	その他の建物	近世	57条の2
63	円通寺遺跡	別府市大字北石垣字本林22-1外	民間	学校	弥生～中世	57条の2
64	中世大友城下町跡	大分市顕徳町3丁目4392-1	大分市長	宅地造成	中世	57条の3
65	上七里川遺跡	久住町大字有氏3600-1	大分県知事	農業関連	弥生・古墳	57条の3
66	湯尻遺跡	日田市大字北豆田字ヤノノ1733-11外	民間	宅地造成	弥生	57条の2
67	春木方元遺跡	別府市大字北石垣字天神畑1540-3外	民間	宅地造成	弥生	57条の2
68	日田桑里跡	日田市大字十二町字花ノ木543-1外	民間	宅地造成	平安～近世	57条の2
69	城山遺跡	日出町大字真那井字堀屋3613	別府土木事務所長	道路	古墳	57条の3
70	大平遺跡	緒方町大字鮎川字大平1439	民間	その他の建物	近世	57条の2
71	佐伯城下町	佐伯市内町395	民間	その他の建物	近世	57条の2
72	上津尾遺跡	犬飼町大字下津尾字原口3396-2	大分県知事	住宅	旧石器	57条の3
73	塩付遺跡	竹田市大字飛田川2-452-1	竹田産人地方振興局長	農業関連	古墳	57条の3
74	玉沢地区条里跡	大分市大字玉沢字長通838-外	民間	その他の開発	縄文～中世	57条の2
75	大源寺遺跡	三光村大字下株字大源寺平299-1	民間	宅地造成	古墳	57条の2
76	日田条里遺跡	日田市大字三和字寺田2657-1	個人	住宅	縄文～近世	57条の2
77	日田条里遺跡	日田市大字三和字ノ木2706-1	個人	住宅	平安～近世	57条の2
78	緒方条里遺跡外	緒方町大字野尻字西白寺531-2外	大分県知事	道路	中世・近世	57条の3
79	日田条里遺跡	日田市大字友田字瀬戸ノ門5-1	個人	住宅	平安～近世	57条の2
80	寺近遺跡	中津市大字福島226-2	大分県知事	農業関連	古墳	57条の3
81	下部遺跡群	大分市大字下部字下郷2245-1外	大分市長	土地調査課	縄文～近世	57条の3
82	弥四郎遺跡	日出町大字藤原字弥四郎	大分県知事	道路	中世	57条の3
83	会所河遺跡	日田市大字田島字中ノ手483-3外	民間	宅地造成	縄文～近世	57条の2
84	落久保遺跡	日田市大字内河野字西ヶ谷1325外	民間	その他の施設	中世・近世	57条の2
85	日田条里遺跡	日田市大字友田字上友田1137-1	個人	住宅	平安～近世	57条の2
86	日田条里遺跡	日田市東町578	個人	住宅	平安～近世	57条の2
87	瀬田・イノ頭遺跡	緒方町大字大石	大野地方振興局長	農業関連	縄文・弥生	57条の3

No.	遺跡名	所在地	届出	調査原因	時代	備考
88	下市遺跡	狭間町大字下市字上島624-1	個人	その他の建物	弥生	57条の2
89	日田条里遺跡	日田市大字西有田字シミドウ205-1	個人	宅地造成	弥生～近世	57条の2
90	日田条里遺跡	日田市大字三和字跡町960-1外	民間	宅地造成	縄文～近世	57条の2
91	下部遺跡群	大分市大字下藤字屋敷2215外	大分市長	土地區畫整理	縄文～近世	57条の3
92	下萩岳遺跡	萩町大字木下字岩下1502外	民間	その他の施設	中世	57条の2
93	日田条里遺跡	日田市大字三和字田竹180-1	個人	住宅	奈良～近世	57条の2
94	日田条里遺跡	日田市浪恋2丁目	大分県知事	道路	奈良～近世	57条の3
95	内ノ下遺跡	日田市大字西有田字内ノ下1305-1	大分県知事	道路	弥生	57条の3
96	川原田遺跡	日田市大字西有田字川原田2979-1外	大分県知事	道路	弥生	57条の3
97	中世大友城下町跡	大分市跡町3丁目4349-2	民間	その他の施設	中世	57条の2
98	大肥条里遺跡	日田市大字大肥字瓦田2904-1外	民間	その他の施設	古墳～近世	57条の2
99	佐伯城下町	佐伯市大字西谷132-4	個人	その他の施設	近世	57条の2
100	中屋敷遺跡	宇佐市大字上田394-2	宇佐市長	学校	弥生・古墳	57条の3
101	由宇館跡	竹田市大字竹田2725	竹田土木事務所長	河川	近世	57条の3
102	定留遺跡・諸田遺跡	中津市大字定留	大分県知事	農業関連	奈良・平安	57条の3
103	大友屋敷跡	大分市願徳町3丁目4428-1	民間	その他の施設	中世	57条の2
104	柚の木遺跡群	清川村大字片尾字尾谷1077	民間	その他の施設	旧石器	57条の2
105	安岐城跡	安岐町大字下原小丸3008-3外	民間	宅地造成	中世・近世	57条の2
106	北下郡横穴墓群	大分市大字下郡字加納1495外	民間	宅地造成	古墳	57条の2
107	下部遺跡群	大分市下部北3丁目17	大分市長	学校	弥生～近世	57条の3
108	下の原遺跡・高添遺跡	千歳村大字長峰・前田外	建設省九州地方建設局 佐伯工務事務所長	道路	旧石器・中世	57条の3
109	徳瀬遺跡	日田市大字平手字徳瀬908-1外	個人	住宅	弥生～近世	57条の2
110	岡遺跡群	大野町大字後田・田中外	建設省九州地方建設局 佐伯工務事務所長	道路	旧石器・縄文	57条の3
111	佐伯城下町	佐伯市大字町3-3-24	民間	その他の施設	近世	57条の2
112	正覚寺遺跡	宇佐市大字正覚寺438外	宇佐市長	道路	中世・近世	57条の3
113	日田条里遺跡	日田市大字十二町字花の木522-3	民間	住宅	平安・近世	57条の2
114	原田第2遺跡	千歳村大字前田字原749外	大分県知事	農業関連	旧石器～弥生・ 中世・奈良	57条の3
115	古城・五郎丸遺跡	千歳村大字石田字五郎丸704外	大分県知事	道路	中世・近世	57条の3
116	大迫遺跡・徳原遺跡	千歳村大字長峰1666外	大分県知事	農業関連	旧石器～古墳	57条の3
117	佐伯城下町	佐伯市西谷町32外	個人	その他の施設	近世	57条の2
118	伊美条里	国見町大字伊美2305-1外	国見町教育委員会委員長	その他の施設	奈良・平安	57条の3
119	日田条里遺跡	日田市本庄町34-2外	個人	住宅	奈良～近世	57条の2
120	松岡古窯跡群	大分市大字松岡字虫喰谷7005-1	民間	宅地造成	古墳	57条の5
121	下部遺跡群	大分市大字下郡字畑中2695-2外	民間	宅地造成	縄文～近世	57条の2
122	下部遺跡群	大分市大字下郡字辻2852-3	大分市長	土地區畫整理	縄文～近世	57条の3

【98条の2】

No.	遺跡名	所在地	届出	調査原因	時代
1	中殿遺跡	久住町大字弘原1506外	久住町教育委員会教育長	農業関連	奈良・平安
2	中屋敷遺跡	宇佐市大字上田404	宇佐市教育委員会教育長	学校	弥生・古墳
3	北方下向遺跡	狭間町大字北方字下向13外	狭間町教育委員会教育長	その他の建物	弥生～古墳
4	善濟寺跡・やぐら遺跡	緒方町大字辻314-2外	緒方町教育委員会教育長	遺跡整備	中世
5	永福寺・三反畑板跡	緒方町大字上自在177-4外	緒方町教育委員会教育長	その他の開発	中世
6	小部遺跡	宇佐市大字荒木字小部465-1	宇佐市教育委員会教育長	住宅	古墳・奈良

No.	遺跡名	所在地	届出	調査原因	時代
7	下部遺跡群 第107次調査	大分市下都字境目14-1外	大分市教育委員会教育長	上地区調査	縄文～近世
8	清太郎遺跡	臼杵市大字望月字紺屋原80-1外	大分県教育委員会教育長	道路	縄文～古墳・平安 近世
9	和泉第2遺跡	日出町大字藤原字和泉	大分県教育委員会教育長	道路	旧石器・弥生・近世
10	長野遺跡	日出町大字豊岡字長野	大分県教育委員会教育長	道路	中世・近世
11	中津城下町遺跡	中津市大手町2618外	中津市教育委員会教育長	道路	近世
12	尾根遺跡	久住町大字有氏3562外	久住町教育委員会教育長	農業関連	弥生・古墳
13	福島遺跡	中津市大字福島字東人垣1347	中津市教育委員会教育長	学術研究	縄文～奈良
14	佐伯城下町	佐伯市大手町3-3-24	佐伯市教育委員会教育長	その他の建物	近世
15	上野遺跡群	大分市上野丘1-500-1	大分市教育委員会教育長	その他の建物	弥生～中世
16	津守遺跡 第2次調査	大分市大字津守173-3外	大分市教育委員会教育長	その他の建物	中世
17	其ノ田板碑	豊後高田市大字藤	大分県教育委員会教育長	河川	中世
18	川野遺跡	臼杵市大字吉小野	大分県教育委員会教育長	道路	縄文・近世
19	久木小野遺跡・八幡神社跡	臼杵市大字久木小野	大分県教育委員会教育長	道路	近世
20	炭竈遺跡	竹田市大字炭竈	大分県教育委員会教育長	道路	弥生・縄文
21	法鏡寺遺跡	宇佐市大字法鏡寺字畑成10-1	宇佐市教育委員会教育長	住宅	弥生～平安
22	平原・原ノ久保遺跡	天瀬町大字塚田字平原・原ノ久保	天瀬町教育委員会教育長	農業関連	中世・近世
23	下部遺跡群 第109・111次調査	大分市大字下都字注2872-3外	大分市教育委員会教育長	土地調査整理	縄文～近世
24	下部遺跡群 第110次調査	大分市大字下都字庵ノ浦2808-3外	大分市教育委員会教育長	土地調査整理	縄文～近世
25	下部遺跡群 第108次調査	大分市大字下都字注2875-1外	大分市教育委員会教育長	土地調査整理	縄文～近世
26	下部遺跡群 第111次調査	大分市大字下都字屋敷2189-1外	大分市教育委員会教育長	土地調査整理	縄文～近世
27	中安遺跡	大分市大字城原647-外	大分市教育委員会教育長	道路	弥生～奈良
28	八坂本庄遺跡	杵築市本庄	大分県教育委員会教育長	河川	平安～中世
29	八坂中遺跡	杵築市中	大分県教育委員会教育長	河川	平安～中世
30	牧ノ原・北遺跡群	直入町大字長湯8472-17外	直入町教育委員会教育長	その他の建物	縄文
31	多武尾遺跡 第67次調査	大分市大字横尾字芝原2937-4	大分市教育委員会教育長	土地調査整理	弥生
32	多武尾遺跡 第68次調査	大分市大字横尾字芝原2965-1	大分市教育委員会教育長	土地調査整理	弥生
33	岸の上遺跡	耶麻溪町大字宮浦828-3	耶麻溪町教育委員会教育長	農業関連	弥生
34	飯塚城跡	国東町大字鶴川字キリウ・隈東	国東町教育委員会教育長	その他の建物	奈良～中世
35	多武尾遺跡 第69次調査	大分市大字横尾2843-3	大分市教育委員会教育長	土地調査整理	弥生
36	丹生遺跡群	大分市大字丹生	大分県教育委員会教育長	道路	旧石器・古墳
37	浮殿遺跡	宇佐市大字松崎806外	大分県教育委員会教育長	その他の調査	平安・中世
38	元宮遺跡	日田市大字求米里川字堂隈604	日田市教育委員会教育長	その他の調査	弥生・古墳
39	川部遺跡	宇佐市大字川部	宇佐市教育委員会教育長	道路整備	弥生・古墳
40	上ノ馬場遺跡	日田市大字北豆田字上ノ馬場1032-1	日田市教育委員会教育長	その他の調査	中世
41	中津城下町遺跡	中津市殿町1399外	中津市教育委員会教育長	道路	近世
42	坂口遺跡	玖珠町大字岩室44	玖珠町教育委員会教育長	その他の建物	弥生
43	下原遺跡	野津原町大字下原1201外	野津原町教育委員会教育長	農業関連	縄文・中世
44	前川城下町遺跡 第11次調査	大分市荷揚町1～3	大分市教育委員会教育長	その他の建物	近世
45	七七里田遺跡	久住町大字有氏3600-1	久住町教育委員会教育長	農業関連	弥生・古墳
46	小野家墓地	山香町大字久木野尾字引治3747外	大分県教育委員会教育長	道路	近世
47	多武尾遺跡 第70次調査	大分市大字横尾字芝原2937-1	大分市教育委員会教育長	土地調査整理	弥生
48	浮殿遺跡	宇佐市大字松崎字浮殿	大分県教育委員会教育長	道路	中世
49	大肥糸遺跡 (中村地区)	日田市大字大肥横枕2945-1外	日田市教育委員会教育長	その他の調査	古墳～近世
50	久上遺跡 第4次調査	大分市大字久上1375-外	大分市教育委員会教育長	道路	弥生・古墳

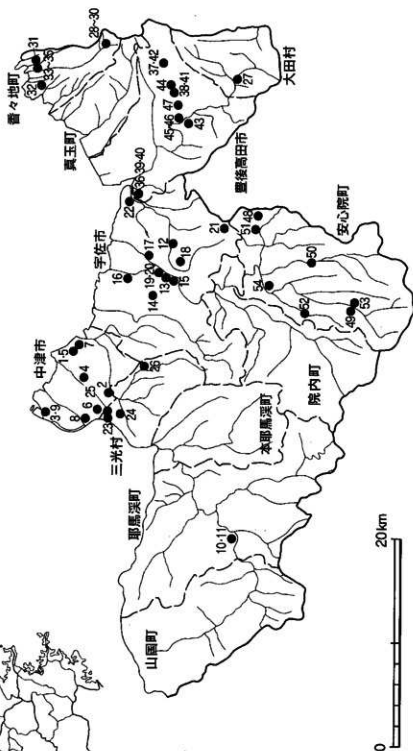
No.	遺跡名	所在地	届出	調査原因	時代
51	吹上遺跡	日田市大字小迫字吹上原191-1外	日田市教育委員会教育長	学術研究	旧石器・古墳
52	上ノ原平原遺跡	三光村大字佐知	三光村教育委員会教育長	道路	弥生
53	史跡成宮町跡	日田市大字南豆州字中城100-1外	日田市教育委員会教育長	遺跡整備	近世
54	中世大友城下町跡 (指定大友屋敷跡)	大分市瀬御町3-4392-1	大分市教育委員会教育長	その他の開発	中世
55	玉沢地区糸里跡 伽藍地区	大分市大字口戸字伽藍地36-1外	大分県教育委員会教育長	道路	縄文～古墳・中世
56	下郡遺跡群 第112次調査	大分市大字下郡字下郡2245-1外	大分市教育委員会教育長	土地区画整理	縄文～近世
57	東中尾遺跡 第71次調査	大分市大字横尾字芝原2976	大分市教育委員会教育長	土地区画整理	弥生・古墳
58	定留遺跡	中津市大字定留1745外	中津市教育委員会教育長	農業関連	縄文～古墳
59	野田遺跡	臼杵市大字野田	大分県教育委員会教育長	道路	古墳
60	下の山遺跡	臼杵市大字古小野	大分県教育委員会教育長	道路	縄文・近世
61	舞手川流域遺跡	中津市大字是則字湯屋177-1	中津市教育委員会教育長	道路	縄文～奈良
62	下郡遺跡群	大分市大字下郡字風敷2215外	大分市教育委員会教育長	土地区画整理	縄文～近世
63	弥四郎遺跡	日出町大字藤原字弥四郎	大分県教育委員会教育長	道路	中世
64	北鉄橋遺跡	別府市大字鉄輪字ソノダ	別府市教育委員会教育長	その他の建物	縄文
65	野村台遺跡	臼杵市大字野村台	大分県教育委員会教育長	道路	中世
66	中世大友城下町跡 第4次調査	大分市錦町3-4349-2	大分市教育委員会教育長	その他の建物	中世
67	長老の塚古墳 (城山遺跡)	日出町大字真藤井	大分県教育委員会教育長	道路	古墳
68	中屋敷遺跡	宇佐市大字上田394-2	宇佐市教育委員会教育長	学校	古墳・奈良
69	中安遺跡	大分市大字城原647外	大分市教育委員会教育長	道路	古墳・奈良
70	大友屋敷跡 第2次調査	大分市錦町3-4428-1	大分市教育委員会教育長	その他の建物	中世
71	別府遺跡	宇佐市大字別府138-1	宇佐市教育委員会教育長	住宅	弥生・古墳
72	瓦塚遺跡	宇佐市大字石田字野内62	宇佐市教育委員会教育長	住宅	古墳・奈良
73	三和教田遺跡 (D地点)	日田市大字三和字船町980-1外	日田市教育委員会教育長	宅地造成	縄文～奈良・中世
74	内ノ下遺跡	日田市大字西有田字内ノ下1305-1外	日田市教育委員会教育長	道路	弥生
75	川原田遺跡	日田市大字西有田字川原田2979-1外	日田市教育委員会教育長	道路	弥生・近世
76	千塚・西遺跡群	野津町大字千塚659-1外	大分県教育委員会教育長	道路	中世
77	小部遺跡	宇佐市大字荒木字小部465-4	宇佐市教育委員会教育長	住宅	弥生・古墳
78	正覚寺遺跡	宇佐市大字正覚寺438外	宇佐市教育委員会教育長	道路	中世
79	尾鼻遺跡	香々地町大字夷	大分県教育委員会教育長	道路	中世
80	占城・五郎丸遺跡	千歳村大字石田字五郎丸704外	千歳村教育委員会教育長	農業関連	中世・近世
81	原田第2遺跡	千歳村大字前田字原749外	千歳村教育委員会教育長	農業関連	旧石器・弥生・中世・近世
82	大迫遺跡 (徳原地区)	千歳村大字長峰1666	千歳村教育委員会教育長	農業関連	旧石器・古墳
83	北田遺跡	香々地町大字見目	香々地町教育委員会教育長	宅地造成	中世
84	頭田遺跡	緒方町大字大石1179	緒方町教育委員会教育長	農業関連	縄文～古墳
85	野殿家屋敷跡	竹田市大字竹田476-1外	竹田市教育委員会教育長	道路	近世
86	下石家屋敷跡	竹田市大字竹田字茶屋辻642	竹田市教育委員会教育長	水運	近世
87	西武家屋敷跡2	竹田市大字竹田字渡内389外	竹田市教育委員会教育長	道路	近世
88	岡武家屋敷跡3	竹田市大字竹田字芝原	竹田市教育委員会教育長	道路	近世
89	山字館跡	竹田市大字竹田	竹田市教育委員会教育長	河川	近世
90	下郡遺跡群 第115次調査	大分市下郡北3丁目-17	大分市教育委員会教育長	土地区画整理	奈良
91	佐伯城下町	佐伯市大手町3-3-24	佐伯市教育委員会教育長	その他の建物	近世
92	下郡遺跡群 第118次調査	大分市大字下郡字畑中2695-2外	大分市教育委員会教育長	土地区画整理	弥生
93	下郡遺跡群 第119次調査	大分市大字下郡字辻2852-3外	大分市教育委員会教育長	土地区画整理	弥生
94	後迫遺跡	日田市大字三和	日田市教育委員会教育長	その他の開発	弥生～奈良

Ⅲ. 各遺跡の調査概要

大分県域を、教育事務所管内にしたがって6地域に分け掲載していく。



中津・宇佐地域



No.	1	遺跡名	定留遺跡・八反ガソウ地区	所在地	中津市大字定留
調査原因	ほ場整備			調査期間	平成10年12月1日～平成11年3月31日
調査機関	中津市教育委員会			調査担当者	高崎章子・花崎 徹
調査面積	8,500㎡	時期	古代・中世	遺物の保管	中津市歴史民俗資料館

位置

中津市の北東部、周防灘に面した標高約8m～12mの低丘陵地。調査区と海の間にはひろがる干拓地は戦後の埋め立てで、本来の海岸線は丘陵のつけねまでさがる。

遺構

調査区内は古代と中世の遺構が濃密に分布する。中でも、蛸壺を専用に焼いた蛸壺焼成坑が6基まとまって検出された。直径約1.4m程の円形で、床面が被熱する。焼成坑に伴うであろう粘土溜め遺構や、蛸壺が廃棄された土坑など、蛸壺生産の過程をうかがうことができる。同時期と思われる土坑や竪穴住居跡からは蛸壺とともに7世紀～8世紀の土器が出土している。また横穴式石室1基、火葬墓と思われる須恵器壺を埋納した土坑2基も出土した。

中世の遺構では溝や掘立柱建物数棟があり、丘陵南端を削平して、造成工事を行っている様子が確認できた。

遺物

古代の土師器、須恵器、蛸壺、蔵骨器。

中世の土師器、瓦器。

まとめ

当地域には、古代から中世にかけて、海辺の拠点集落が展開していた。住空間、墓域、作業場など、集落の様子を広範囲で把握できる貴重な遺跡である。(高崎章子)



遺跡の位置 (1/25,000 [定留])



タコ壺出土状況

No.	2	遺跡名	福島遺跡 (東入垣地区)	所在地	中津市大字福島
調査原因	遺跡確認			調査期間	平成10年5月22日～平成10年6月17日
調査機関	中津市教育委員会			調査担当者	花崎 徹
調査面積	900㎡	時期	弥生	遺物の保管	中津市歴史民俗資料館
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
溝・土壌		弥生土器		平成7年度より溝を検出してきており、検出した溝は、100m程である。台地上の集落と溝との関係を明らかにしたい。	
関係文献	「福島遺跡(IV)東入垣地区・定留遺跡八反ガソウ地区」中津市教育委員会 1999				
No.	3	遺跡名	中津城下町遺跡 (城町地区)	所在地	中津市城町
調査原因	県道外馬場舗装矢堂線拡幅工事			調査期間	平成10年6月1日～平成11年3月19日
調査機関	中津市教育委員会			調査担当者	高崎 章子・花崎 徹
調査面積	4,080㎡	時期	18・19世紀	遺物の保管	中津市歴史民俗資料館
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
柱穴・溝・井戸・土壌		近世陶磁器・土師器・瓦		調査区は武家屋敷跡に相当する。屋敷地の境界をなす溝は、御水道との関係が注目される。	
関係文献					
No.	4	遺跡名	舞手川流域遺跡	所在地	中津市是則
調査原因	市道是則1号線拡幅工事			調査期間	平成10年10月7日～平成11年1月18日
調査機関	中津市教育委員会			調査担当者	花崎 徹
調査面積	1,000㎡	時期	——	遺物の保管	中津市歴史民俗資料館
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
土壌		須恵器・土師器		調査区は、東西の台地から流れこんだと思われる土器が出土する。	
関係文献					
No.	5	遺跡名	定留遺跡 (八反ガソウ地区)	所在地	中津市大字定留
調査原因	ほ場整備に伴う試掘調査			調査期間	平成10年10月12日～平成10年11月30日
調査機関	中津市教育委員会			調査担当者	高崎 章子
調査面積	1,000㎡	時期	古代・中世	遺物の保管	中津市歴史民俗資料館
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
堅穴住居・溝・居館跡		須恵器・土師器		海に面した丘陵地に展開する古代～中世の集落	
関係文献	「福島遺跡(IV)東入垣地区・定留遺跡八反ガソウ地区」中津市教育委員会 1999				
No.	6	遺跡名	洞ノ上窯跡	所在地	中津市大字伊藤田
調査原因	協同乾燥所建設			調査期間	平成10年10月1日～平成10年10月3日
調査機関	中津市教育委員会			調査担当者	花崎 徹
調査面積	800㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					

No.	7	遺跡名	天貝遺跡	所在地	中津市大字踏田
調査原因	工場造成事業			調査期間	平成10年5月26日～平成10年7月15日
調査機関	中津市教育委員会			調査担当者	高崎章子
調査面積	366㎡	時期	縄文・古墳	遺物の保管	中津市歴史民俗資料館
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
遺物包含層		縄文・古墳時代の土器片		現地は天貝川の河口にあたる。洪水による遺物包含層と思われる。	
関係文献					
No.	8	遺跡名	東ノ浦遺跡	所在地	中津市永添
調査原因	中学校管理棟増築工事			調査期間	平成10年9月2日
調査機関	中津市教育委員会			調査担当者	高崎章子
調査面積	434㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					
No.	9	遺跡名	中津城下町遺跡(金谷地区)	所在地	中津市二ノ丁2618
調査原因	県道外馬場跡矢堂線拡幅工事			調査期間	平成10年4月1日～平成10年5月31日
調査機関	中津市教育委員会			調査担当者	高崎章子・花崎 徹
調査面積	711㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					
No.	10	遺跡名	岸の上遺跡(耶馬溪南部地区)	所在地	耶馬溪町宮岡
調査原因	ほ場整備事業			調査期間	平成10年5月11日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	原田昭一
調査面積	約5.5ha	時期	縄文・弥生	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
土坑・ピット・溝		縄文土器・弥生土器		調査は、表土および遺構・包含層上面まで掘削し、精査を行った。約500㎡の範囲において水田床土下にピット・土坑・溝状遺構などが確認出来た。また、その他にも縄文・弥生時代の遺物包含層が20～50cmの厚さで存在することが確認できた。	
関係文献 原田昭一「大分県内遺跡発掘調査概要報7」大分県教育委員会 1999					
No.	11	遺跡名	岸の上遺跡	所在地	耶馬溪町大字宮園字岸の上282-3
調査原因	ほ場整備事業耶馬溪南部地区宮園工区			調査期間	平成10年6月23日～平成11年2月26日
調査機関	耶馬溪町教育委員会			調査担当者	野村 真
調査面積	409㎡	時期	弥生時代	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
円形貯蔵穴………3基 長方形土坑………2基 不定形土坑………1基		弥生土器片多数		岸の上遺跡は集落の中心部からやや離れた地点に位置していたと思われるもので、この地域の集落の構造を理解する上で貴重な遺跡である。	
関係文献					

No.	12	遺跡名	弥勒寺跡	所在地	宇佐市大字南宇佐
調査原因	相模場跡撤去に伴う確認調査			調査期間	平成10年5月6日～平成11年3月31日
調査機関	宇佐市教育委員会			調査担当者	小倉正五・林 一也・江藤和幸
調査面積	約1,000㎡	時期	奈良～近代	遺物の保管	宇佐市教育委員会文化財資料室

位置

本遺跡は宇佐神宮境内の西側に位置する。弥勒寺は宇佐神宮の神宮寺として天平五（733）年に創建されて以後、中央権力者などの寄進により発展するが、中世以降衰微し明治元年の廃仏毀釈により廃絶した。

発掘調査は昨年度の継続調査として実施した。



遺跡の位置（1/25,000〔豊後高田〕）

遺構

西塔の創建期及び平安時代の雨落溝を確認した。創建期の溝は底と側面に石組を施し、平安時代の溝は幅約3mを測り側面のみ石組を施していた。その他の遺構として室町時代以前に地山を削り出した造成跡や瓦窯跡（2基）、江戸時代の鐘樓跡、中世～近代の溝など多数を確認した。

瓦窯跡は鐘樓基壇の北側斜面を利用して造られており、2基とも有床式無障壁平窯である。規模は1号窯が全長2.3m、幅1.35mで三条の炕道を持つ。床上や奥壁の一部に平瓦を、焚口に丸瓦を使用している。壁面内側では、天井部を粘土で構築した際に骨組みの木材等を差込んだ柱穴跡が確認された。2号窯は、燃焼室と焼成室の一部が近代の溝を掘削した際に破壊されており、遺存状態は良くなかった。



1号瓦窯跡全景（北より）

遺物

奈良～近代の瓦とともに、古代～中世の土師器や中世以降の陶磁器が出土している。

まとめ

西塔と鐘樓の位置及び規模が明確となり、これまで未確認であった弥勒寺の伽藍配置の一部を明らかにすることができた。また、伽藍の中心部から瓦窯跡が良好な状態で検出され、その規模や構造に特異な点が見られるなど窯跡研究の上からも貴重な発見となった。（江藤和幸）

文献

『宇佐地区遺跡群発掘調査概報Ⅺ』宇佐市教育委員会 1999

No. 13	遺跡名 法鏡寺遺跡	所在地	宇佐市大字法鏡寺
調査原因	個人住宅建築	調査期間	平成10年6月1日～平成10年8月7日
調査機関	宇佐市教育委員会	調査担当者	江藤和幸
調査面積	約100㎡	時期	弥生～平安時代
遺物の保管	宇佐市教育委員会文化財資料室		
主な遺構		主な遺物	
溝……………2条 住居跡……………2軒 不定形土穴……………4基		土師器・須恵器・瓦	
遺跡は国指定史跡法鏡寺施寺跡を含んでおり、寺院関連遺構とともに建立以前である弥生・古墳時代の集落などがある。			
関係文献 江藤和幸他「法鏡寺遺跡4次調査」『宇佐地区遺跡群発掘調査概報』宇佐市教育委員会 1999			
No. 14	遺跡名 瓦塚遺跡	所在地	宇佐市大字石田
調査原因	個人住宅建築	調査期間	平成11年1月18日～平成11年2月18日
調査機関	宇佐市教育委員会	調査担当者	川谷 浩
調査面積	約200㎡	時期	奈良～平安時代
遺物の保管	宇佐市教育委員会文化財資料室		
主な遺構		主な遺物	
溝……………2条 柱穴……………多数		土師器・須恵器・瓦	
遺跡は、これまでの調査により古代宇佐郡内の可能性を示す遺物や遺構が検出されている。			
関係文献 川谷 浩他「瓦塚遺跡6次調査」『宇佐地区遺跡群発掘調査概報』宇佐市教育委員会 1999			
No. 15	遺跡名 別府遺跡	所在地	宇佐市大字別府
調査原因	個人住宅建築	調査期間	平成11年1月8日～平成11年1月14日
調査機関	宇佐市教育委員会	調査担当者	川谷 浩
調査面積	約30㎡	時期	古墳～奈良
遺物の保管	宇佐市教育委員会文化財資料室		
主な遺構		主な遺物	
なし		視乱層より土師器と須恵器	
遺跡は、縄文時代前期から奈良時代までの複合遺跡であるが、当該調査区では後世の調整等により遺跡は確認できなかった。			
関係文献 川谷 浩他「別府遺跡13次調査」『宇佐地区遺跡群発掘調査概報』宇佐市教育委員会 1999			
No. 16	遺跡名 小部遺跡	所在地	宇佐市大字荒木
調査原因	個人住宅建築	調査期間	平成11年2月5日～平成11年3月17日
調査機関	宇佐市教育委員会	調査担当者	佐藤良二郎
調査面積	約50㎡	時期	古墳時代
遺物の保管	宇佐市教育委員会文化財資料室		
主な遺構		主な遺物	
布編溝……………2条 不定形土坑……………2基 柱穴……………多数		土師器・須恵器	
遺跡は、古式土師器が出土する布編溝を伴う環溝居館跡として知られる遺跡である。また、埴輪を出土する5世紀頃の方型周溝墓や奈良時代の掘立柱建物跡、13世紀の瓦器焼成坑などがこれまでの調査で検出されている。			
関係文献 佐藤良二郎他「小部遺跡15次調査」『宇佐地区遺跡群発掘調査概報』宇佐市教育委員会 1999			
No. 17	遺跡名 川部遺跡	所在地	宇佐市大字川部
調査原因	遺跡の範囲・内容確認調査	調査期間	平成10年7月10日～平成11年3月31日
調査機関	宇佐市教育委員会	調査担当者	佐藤良二郎
調査面積	約200㎡	時期	古墳時代
遺物の保管	宇佐市教育委員会文化財資料室		
主な遺構		主な遺物	
方形周溝墓……………1基 石蓋土壇墓……………3基		土師器・鉄器	
遺跡は、弥生から古墳時代にかけての集落跡や埴輪墓群として知られている。弥生時代の集落跡は駅前川から台地上に延びる谷を利用した環溝集落跡である。当該調査区は弥生時代終末の方形周溝墓が検出され、昨年度鏡や玉類、鉄器類などが出土している。			
関係文献 佐藤良二郎他「川部遺跡3次調査」『宇佐地区遺跡群発掘調査概報』宇佐市教育委員会 1999			

No.	18	遺跡名	小山田神社遺跡	所在地	宇佐市大字小向野
調査原因	遺跡の確認調査			調査期間	平成10年5月6日～平成10年5月10日
調査機関	宇佐市教育委員会			調査担当者	佐藤良二郎
調査面積	約2,500㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		当該調査区は、奈良時代に起源するとされる小山田神社(宇佐神宮の八箇社の一つ)に隣接しており、関連遺構の存在が想定されていた。発掘調査の結果、果樹園の地盤改良工事などにより土地の改変を受けており、遺構は検出されなかった。	
関係文献					
No.	19	遺跡名	中屋敷遺跡	所在地	宇佐市大字上田
調査原因	小学校の校舎・プール建築			調査期間	平成10年4月15日～平成10年10月16日
調査機関	宇佐市教育委員会			調査担当者	川谷 浩
調査面積	約600㎡	時期	弥生・古墳・中世	遺物の保管	宇佐市教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
溝……………3条 住居跡……………3軒 不定形土坑……………20基		土師器・須恵器 アイゴ羽口		弥生時代後期から古墳時代後期の集落跡で内容は調査区南側の法鏡寺遺跡と共通している。	
関係文献					
No.	20	遺跡名	中屋敷遺跡C区	所在地	宇佐市大字上田
調査原因	都市計画道路建設			調査期間	平成10年11月30日～平成11年1月14日
調査機関	宇佐市教育委員会			調査担当者	川谷 浩
調査面積	約100㎡	時期	弥生時代・中世	遺物の保管	宇佐市教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
溝……………1条 住居跡……………2軒 不定形土坑……………10基		土師器・嵌歯 鏡(瑞花双鳳五花鏡)		調査区は駅館小学校の敷地南側であり、遺跡の内容は上記調査区とほぼ同じである。本調査区は古代官選推定地に隣接しており、平安時代の鏡が出土するなど注目される。	
関係文献					
No.	21	遺跡名	正覚寺遺跡	所在地	宇佐市大字正覚寺
調査原因	市道改良工事			調査期間	平成10年8月22日～平成11年3月31日
調査機関	宇佐市教育委員会			調査担当者	林 一也
調査面積	約3,000㎡	時期	中世・近世	遺物の保管	宇佐市教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
柱穴……………多数 石垣……………多数 不定形土坑……………10基		染付・陶磁器 瓦器		正覚寺遺跡は中世からの僧坊跡であり、近代からは集落が形成されている。現存する石垣の一部は新しく集落に伴うものである。	
関係文献					
No.	22	遺跡名	浮殿遺跡	所在地	宇佐市大字松崎字浮殿
調査原因	県道中津高田線歩道設置工事			調査期間	平成10年8月17日～8月25日、平成10年9月16日～10月2日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	栗原 真
調査面積	120㎡	時期	中世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
柱穴群 不定形土坑……………8基		中世土師器		神社遺構	
関係文献					

No.	23	遺跡名	佐知久保畑遺跡	所在地	三光村大字佐知
調査原因	造成工事及び店舗増床工事			調査期間	平成10年10月5日～平成11年3月31日
調査機関	三光村教育委員会			調査担当者	平田由美
調査面積	2,400㎡	時期	弥生～古墳	遺物の保管	三光村中央公民館

位置

遺跡は山内川右岸の河岸段丘上に位置し、周辺には上ノ原横穴墓群が所在している。今回調査を行なった地点は、平成4年に調査を行なった地点の北側に位置する。



遺跡の位置 (1/25,000 [土佐井])

遺構

住居跡 13基、土器溜 14基、溝状遺構 15条
土塚 170基、ピット 600基

遺物

子持勾玉 1点、古墳時代後期の須恵器、弥生中期の土器
石鏃・石斧等

まとめ

今回の調査は、平成4年に調査が行なわれた調査区の北側で、佐知久保畑遺跡の北限を確認できた。前回の調査で、古墳時代の集落は溝状遺構によって、住居が幾つかのグループに分かれることが既に解かっていたが、今回遺跡の北限を確認できた。また遺跡北東側の溝からは、扇状のピット群を確認できた。(平田由美)



佐知久保畑遺跡全景

No.	24	遺跡名	諫山糸水道跡	所在地	三光村大字諫山
調査原因	保存目的			調査期間	平成10年4月15日～平成10年6月8日
調査機関	三光村教育委員会			調査担当者	平田由美
調査面積	100㎡	時期	弥生～古墳	遺物の保管	三光村中央公民館
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
溝状遺構 石箱1基		弥生式土器(甕・壺等)		諫山台地上は弥生から古墳の集落跡である。今回は環状跡の溝の一部が見つかった。	
関係文献					
No.	25	遺跡名	上ノ原平原遺跡	所在地	三光村大字佐知
調査原因	鉄道円座中津線道路改良工事			調査期間	平成10年7月1日～平成10年10月2日
調査機関	三光村教育委員会			調査担当者	平田由美
調査面積	1,260㎡	時期	弥生～古墳	遺物の保管	三光村中央公民館
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
Y字状の溝状遺構		弥生中期～古墳時代までの土器片		台地状に広がる弥生を中心とした集落跡が広がっているのが確認された。	
関係文献					
No.	26	遺跡名	大源寺横穴墓群	所在地	三光村大字下萩
調査原因	個人住宅			調査期間	平成10年9月21日～平成10年10月7日
調査機関	三光村教育委員会			調査担当者	小林昭彦・平田由美
調査面積	100㎡	時期	古墳	遺物の保管	三光村中央公民館
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
横穴墓8基		須恵器片		調査区西側には横穴墓が存在することは分かっていたが、更に東側にも広がっていることが分かった。	
関係文献					
No.	27	遺跡名	下谷掛遺跡(大田地区)	所在地	大田村大字番掛
調査原因	利用権設定特別促進場整備事業			調査期間	平成10年6月3日～平成10年6月9日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	河野真二・原田昭一
調査面積	約10ha	時期	弥生	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
遺物包含層		弥生土器		調査は、表土および遺構・包含層上面まで掘削し、精査を行った。約2,500㎡の範囲において水田床土下に弥生時代の遺物包含層が存在することが確認された。	
関係文献 原田昭一「大分県内遺跡発掘調査概報7」大分県教育委員会 1999					
No.	28	遺跡名	夷地区	所在地	香々地町大字夷
調査原因	県営農地環境整備事業			調査期間	平成10年11月12日～平成10年11月17日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	原田昭一
調査面積	約18ha	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		各トレンチからわずかに古墳時代～近世の遺物が出土した。耕作土下には洪水流によると考えられる砂層及び泥炭層の痕跡が確認できた。	
関係文献 原田昭一「大分県内遺跡発掘調査概報7」大分県教育委員会 1999					

No.	29	遺跡名	夷地区	所在地	香々地町大字夷
調査原因	県道小河内香々地線道路改良			調査期間	平成10年5月19日～平成10年5月20日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	栗原 真
調査面積	3,000㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					
No.	30	遺跡名	尾鼻遺跡	所在地	香々地町大字夷
調査原因	県道小河内香々地線道路改良			調査期間	平成10年2月4日～平成10年2月28日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	栗原 真
調査面積	100㎡	時期	中世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
不明土壌1		五輪塔		調査区内に五輪塔の(一石五輪塔を含む)残がい多数あり、調査区外に磨崖仏がある。近世の鳥居(愛宕社)という路が順東にあり。	
関係文献					
No.	31	遺跡名	伏原遺跡	所在地	香々地町大字見目
調査原因	北田地区宅地分譲地造成工事			調査期間	平成10年9月24日・平成10年10月9日
調査機関	香々地町教育委員会			調査担当者	栗田勝弘
調査面積	1,000㎡	時期	中世～近世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		近世陶磁器		近世民家の跡	
関係文献					
No.	32	遺跡名	香々地地区	所在地	香々地町大字香々地
調査原因	地域農業経営確立支援事業(農地開発)			調査期間	平成10年7月6日～平成10年7月8日
調査機関	香々地町教育委員会			調査担当者	原田昭一
調査面積	3.4ha	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					
No.	33	遺跡名	北田遺跡	所在地	香々地町大字見目
調査原因	北田地区宅地分譲造成事業			調査期間	平成10年7月16日～平成10年7月17日
調査機関	香々地町教育委員会			調査担当者	栗原 真
調査面積	5,000㎡	時期	中世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		土器片少量		なし	
関係文献					

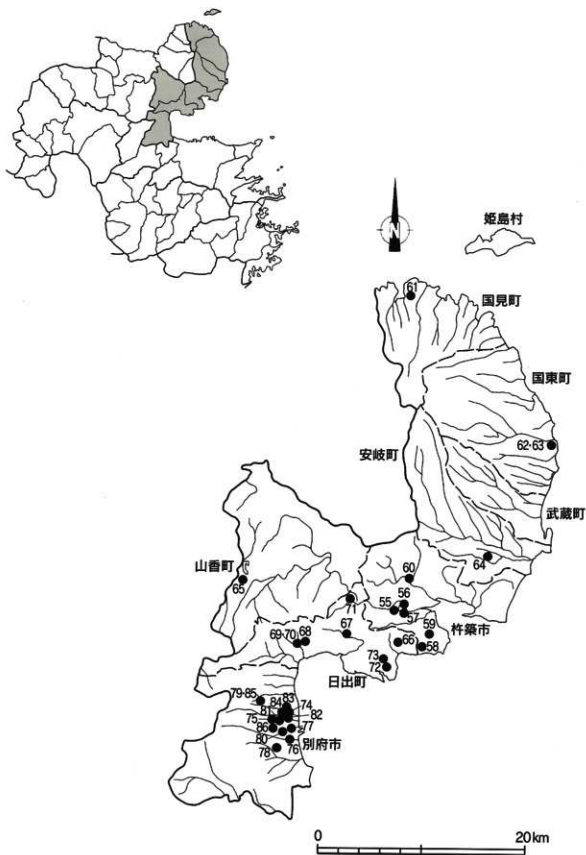
No.	34	遺跡名	北田遺跡	所在地	香々地町大字見目
調査原因	北田地区宅地分譲造成事業			調査期間	平成10年9月24日～平成10年10月9日
調査機関	香々地町教育委員会			調査担当者	栗田勝弘
調査面積	2,500㎡	時期	中世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		土器片少量		なし	
関係文献					
No.	35	遺跡名	北田遺跡(銀在の木)	所在地	香々地町大字見目3587
調査原因	北田地区宅地分譲造成事業			調査期間	平成11年1月26日～平成11年2月16日
調査機関	香々地町教育委員会			調査担当者	永井 実・豊田徹士
調査面積	1,000㎡	時期	中世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
集落跡		石器片		集落跡	
関係文献					
No.	36	遺跡名	高田城下町	所在地	豊後高田市御玉
調査原因	県道水崎石部線道路改良工事			調査期間	平成11年3月24日・平成11年3月25日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	栗原 真
調査面積	100㎡	時期	近世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		近世・土器・陶磁器		包含層	
関係文献					
No.	37	遺跡名	加礼川地区	所在地	豊後高田市大字加礼川
調査原因	豊後高田国東線道路改良工事			調査期間	平成10年9月2日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	栗原 真
調査面積	5,000㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					
No.	38	遺跡名	県指定有形文化財 其ノ田板碑	所在地	豊後高田市大字路
調査原因	路川河川改修			調査期間	平成10年5月25日～平成10年6月21日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	栗原 真
調査面積	50㎡	時期	中世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
土壇第2基 基礎土石組(?)		11世紀から16世紀の土師器		中世の祭祀遺構	
関係文献					

No.	39	遺跡名	高田地区		所在地	豊後高田市大字高田	
調査原因	都市計画道路水崎石部線道路改良工事				調査期間	平成11年2月25日	
調査機関	大分県教育委員会				調査担当者	甲斐寿義	
調査面積	75㎡	時期	——		遺物の保管	——	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
なし			なし		なし		
関係文献							
No.	40	遺跡名	御玉地区		所在地	豊後高田市大字御玉	
調査原因	豊後高田国東線道路改良工事				調査期間	平成10年3月25日	
調査機関	大分県教育委員会				調査担当者	甲斐寿義	
調査面積	2,000㎡	時期	——		遺物の保管	——	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
なし			なし		なし		
関係文献							
No.	41	遺跡名	蔭地区		所在地	豊後高田市大字蔭	
調査原因	路川火山山砂防護岸工事				調査期間	平成10年11月26日～平成10年11月27日	
調査機関	大分県教育委員会				調査担当者	栗原 真	
調査面積	5,000㎡	時期	——		遺物の保管	——	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
なし			なし		なし		
関係文献							
No.	42	遺跡名	加礼川地区		所在地	豊後高田市大字加礼川	
調査原因	県道豊後高田国東線道路改良工事				調査期間	平成10年11月25日	
調査機関	大分県教育委員会				調査担当者	高橋信武	
調査面積	4,000㎡	時期	——		遺物の保管	——	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
なし			なし		なし		
関係文献							
No.	43	遺跡名	坂本遺跡		所在地	豊後高田市大字嶺崎字坂本	
調査原因	県営農免農道整備事業				調査期間	平成10年10月29日～平成10年12月24日	
調査機関	豊後高田市教育委員会				調査担当者	岩男真吾	
調査面積	180㎡	時期	近世		遺物の保管	豊後高田市教育委員会	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
溝状遺構			なし		水田に伴う溝		
関係文献							

No. 44	遺跡名	屋敷田遺跡	所在地	豊後高田市大字浜田屋敷田		
調査原因	ほ場整備事業		調査期間	平成10年7月22日～平成10年7月24日		
調査機関	豊後高田市教育委員会		調査担当者	河野典之		
調査面積	80㎡	時期	中世	遺物の保管	豊後高田市教育委員会	
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格		
石塚		鉄製品・瓦器類		塚		
関係文献	真野和夫・飯沼賢司編纂『豊後国都甲荘の調査(本編)』大分県立宇佐風土記の歴史民俗資料館報告書第11集 1993					
No. 45	遺跡名	糸水道跡	所在地	豊後高田市大字路字糸水		
調査原因	ほ場整備事業		調査期間	平成10年11月24日～平成10年12月16日		
調査機関	豊後高田市教育委員会		調査担当者	岩男真吾		
調査面積	75㎡	時期	不明	遺物の保管	豊後高田市教育委員会	
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格		
柱穴		なし		掘立柱建物		
関係文献	甲斐忠彦・海老沢真編纂『豊後国田染荘の調査』大分県立宇佐風土記の歴史民俗資料館報告書第3集 1986 『豊後高田市通史編』豊後高田市 1998					
No. 46	遺跡名	道ノ下遺跡	所在地	豊後高田市大字路字道ノ下		
調査原因	ほ場整備事業		調査期間	平成10年11月24日～平成10年12月16日		
調査機関	豊後高田市教育委員会		調査担当者	岩男真吾		
調査面積	105㎡	時期	不明	遺物の保管	豊後高田市教育委員会	
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格		
柱穴		なし		掘立柱建物		
関係文献	甲斐忠彦・海老沢真編纂『豊後国田染荘の調査』大分県立宇佐風土記の歴史民俗資料館報告書第3集 1986 『豊後高田市通史編』豊後高田市 1998					
No. 47	遺跡名	路寺田遺跡	所在地	豊後高田市大字路字寺田		
調査原因	ほ場整備事業		調査期間	平成10年11月24日～平成11年3月12日		
調査機関	豊後高田市教育委員会		調査担当者	岩男真吾		
調査面積	200㎡	時期	縄文後期	遺物の保管	豊後高田市教育委員会	
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格		
堅穴遺構		北久根山式土器、石斧、石鏃		縄文後期の堅穴遺構		
関係文献	甲斐忠彦・海老沢真編纂『豊後国田染荘の調査』大分県立宇佐風土記の歴史民俗資料館報告書第3集 1986 『豊後高田市通史編』豊後高田市 1998					
No. 48	遺跡名	佐田地区	所在地	安心院町佐田		
調査原因	泉道山寺院内線改良工事		調査期間	平成10年5月11日		
調査機関	大分県教育委員会		調査担当者	友岡信彦		
調査面積	3,000㎡	時期	——	遺物の保管	——	
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格		
なし		なし		なし		
関係文献						

No.	49	遺跡名	水車地区	所在地	安心院町大字水車
調査原因	ほ場整備			調査期間	平成10年12月9日
調査機関	安心院町教育委員会			調査担当者	ノ野勝教
調査面積	1,000㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					
No.	50	遺跡名	尾立地区	所在地	安心院町大字尾立六郎丸
調査原因	ほ場整備			調査期間	平成10年12月21日～平成11年3月20日
調査機関	安心院町教育委員会			調査担当者	ノ野勝教
調査面積	10,000㎡	時期	編文	遺物の保管	安心院町教育委員会収納庫
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		夜白式土器 鐘ヶ崎式土器		散布地	
関係文献					
No.	51	遺跡名	房ヶ畑地区	所在地	安心院町大字房ヶ畑
調査原因	ほ場整備			調査期間	平成10年12月7日～平成10年12月8日
調査機関	安心院町教育委員会			調査担当者	ノ野勝教
調査面積	2,000㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					
No.	52	遺跡名	中山地区	所在地	安心院町大字中山
調査原因	ほ場整備			調査期間	平成10年8月1日～平成10年8月11日
調査機関	安心院町教育委員会			調査担当者	ノ野勝教
調査面積	2,000㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					
No.	53	遺跡名	下内河野地区	所在地	安心院町大字下内河野
調査原因	ほ場整備			調査期間	平成10年8月12日
調査機関	安心院町教育委員会			調査担当者	ノ野勝教
調査面積	1,000㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					
No.	54	遺跡名	安心院条里跡	所在地	安心院町大字上市
調査原因	ほ場整備			調査期間	平成10年7月10日～平成10年12月20日
調査機関	安心院町教育委員会			調査担当者	ノ野勝教
調査面積	2,000㎡	時期	14～16世紀	遺物の保管	安心院町教育委員会収納庫
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
掘立柱建物 配石遺構		石鍋片 中世土師器 青磁片		市もしくは中世豪族の屋敷内の可能性が'ある。	
関係文献					

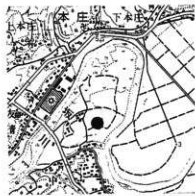
東国東・速見地域



No.	55	遺跡名	八坂中遺跡	所在地	杵築市大字中
調査原因	河川改修事業			調査期間	平成10年1月20日～平成11年3月26日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	後藤一重・平野真由美・東保春奈
調査面積	23,000㎡	時期	平安・中世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室

位置

杵築市の中心部を流れる八坂川下流域の、川が大きく蛇行し始めるところの右岸に位置する。周囲は主に水田として利用されており、標高は約3mと低地なため、度々洪水の被害にみまわれている。



遺跡の位置 (1/25,000 [杵築])

遺構

平安時代：掘立柱建物・溝・土壌・土壌墓
鎌倉時代：掘立柱建物・溝・土壌・土壌墓
戦国時代：掘立柱建物・溝・土壌・鍛冶炉・地下式土壌墓
江戸時代：甕棺墓

遺物

平安以前：弥生土器・須恵器・平瓦
平安時代：土師質土器杯・小皿、瓦器碗・小皿、中国製青磁、内黒土器、鉄刀、礬石、炭化米
鎌倉時代：土師質土器杯・小皿、瓦器碗・小皿、中国製青磁、常滑焼、人骨
戦国時代：土師質土器杯・小皿、瓦質土器火鉢、土鍋、中国製染付、古銭、石臼、茶臼、和鏡、備前焼、鉄滓、火打ち石、五輪塔
江戸時代：人骨、古銭

まとめ

平安時代：多くの掘立柱建物と墓が検出された。墓のなかには土壌墓に加え周溝墓や木棺墓などもみられる。この時期以前の遺構については検出されなかった。

鎌倉時代：溝が見られるようになるが、屋敷地を囲むようなものではない。この時代の遺構からは、底部糸切り難し平底の瓦器碗がまとまって出土している。これまで知られていた宇佐地方のものとは明らかに異なるものである。

戦国時代：これまで、全面的に屋敷地として利用されてきた調査区東半分はこの時期から水田化され、残る部分に居館がみられる。居館を囲む溝は幅数mあり、深さ1.5mに及ぶ部分もある。居館の規模は最大で25×60mの規模を確認できる。2号居館内には、鍛冶炉が3基集中しており、そのうちの一つは県内で検出された鍛冶炉の中では最も残存状態が良好である。このように屋敷内に鍛冶職人を住まわせていたことや居館の規模から考えて、八坂地域の中核を担う人物が居住していたと考えられる。しかし、検出された他の掘立柱建物は小規模なものが多い。

江戸時代：調査区は全面的に水田化が進んでおり、他に同期の甕棺墓を2基検出した。

(平野真由美・東保春奈)



八坂中遺跡遺景 (西から)

No.	56	遺跡名	八坂本庄遺跡	所在地	杵築市大字本庄
調査原因	県営農村活性化住環境整備事業			調査期間	平成11年3月11日～平成11年3月16日
調査機関	杵築市教育委員会			調査担当者	平川信哉
調査面積	10,000㎡	時期	平安・鎌倉	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		本地区へは遺構が及んでいないことが判明	
関係文献					
No.	57	遺跡名	八坂久保田遺跡	所在地	杵築市大字新庄
調査原因	県営農村活性化住環境整備事業			調査期間	平成11年3月8日～平成11年3月10日
調査機関	杵築市教育委員会			調査担当者	平川信哉
調査面積	15,000㎡	時期	平安・鎌倉	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		本地区へは遺構が及んでいないことが判明	
関係文献					
No.	58	遺跡名	年田遺跡	所在地	杵築市大字熊野
調査原因	県営中山間地域総合整備事業			調査期間	平成11年3月10日～平成11年3月30日
調査機関	杵築市教育委員会			調査担当者	平川信哉・後藤方彦
調査面積	60,000㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					
No.	59	遺跡名	熊野地区	所在地	杵築市大字熊野
調査原因	県道日出真那井杵築線			調査期間	平成10年9月7日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	栗原 真
調査面積	1,000㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					
No.	60	遺跡名	八坂地区	所在地	杵築市大字八坂
調査原因	県道八坂真那井線			調査期間	平成10年7月13日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	後藤一重
調査面積	1,000㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					

No.	61	遺跡名	西山古墳群	所在地	国見町大字中蛸石2423-9外
調査原因	九州セルラー鉄塔建設			調査期間	平成10年7月13日～平成10年7月14日
調査機関	国見町教育委員会			調査担当者	栗原 真
調査面積	400m ²	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					
No.	62	遺跡名	飯塚城跡	所在地	国東町大字鶴川字キリウ
調査原因	東国東広域総合文化施設建設			調査期間	平成10年5月18日～平成10年5月19日
調査機関	国東町教育委員会			調査担当者	藤本啓二
調査面積	7,500m ²	時期	古代・中世	遺物の保管	国東町歴史民俗資料館
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
掘立柱建物・溝 包含層		土師器環・皿、須恵器環・壺 陶磁器碗・皿など		飯塚城跡東端に位置し、東側に面する緩斜面上で、 古代国東地域の郡衙に関連する遺跡である。	
関係文献 藤本啓二『飯塚遺跡』国東町教育委員会 1994					
No.	63	遺跡名	飯塚城跡	所在地	国東町大字鶴川字キリウ
調査原因	東国東広域総合文化施設建設			調査期間	平成11年1月19日～平成11年3月31日
調査機関	国東町教育委員会			調査担当者	永松みゆき
調査面積	3,000m ²	時期	古代・中世	遺物の保管	国東町歴史民俗資料館
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
掘立柱建物・溝 包含層		土師・須恵器・木製品 土埴・玉砂利など		古代の「国崎津」との関連遺跡と考えられる。	
関係文献 伊藤勇人『大分県史』古代篇Ⅰ					
No.	64	遺跡名	延吉遺跡	所在地	安岐町大字瀬戸田
調査原因	担い手育成基盤整備事業			調査期間	平成10年7月14日～平成10年7月15日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	松本啓子・原田昭一
調査面積	約16ha	時期	——	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		土師質土器等		水田に設定したほとんどのトレンチでは水田下に旧 地形の低湿地状粘土層や泥濘原である砂礫層が広が るのが確認出来た。土師質土器をはじめとした中世 期の若干の遺物が出土したが、明確な遺構は確認出 来なかった。	
関係文献 原田昭一『大分県内遺跡発掘調査概報7』大分県教育委員会 1999					
No.	65	遺跡名	野原地区	所在地	山香町大字野原
調査原因	主要地方道山香院内線道路改良工事			調査期間	平成10年12月4日～平成10年12月7日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	高橋信武
調査面積	5,500m ²	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					

No.	66	遺跡名	真那井城山遺跡	所在地	日出町大字真那井字塩屋
調査原因	県道日出真那井件築線			調査期間	平成10年9月1日～平成10年12月25日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	小柳和宏
調査面積	100㎡	時期	弥生後期～古墳前期・中世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室

位置

遺跡は、国東半島の南の付け根にあたる速見郡日出町大字真那井字塩屋にある通称「城山」といわれる丘陵（標高11m前後）の北東側に位置する。その丘陵には数箇所の洞穴や岩陰がある。現在では、海岸線から数百m内陸部に入るが、標高3m前後に穿たれた洞穴は海食洞であると思われる。そのうちの2箇所が道路改良工事に伴い調査された。



遺跡の位置 (1/25,000 [村築])

遺構と遺物

第1号洞穴は、間口5m、奥行き2.5mで、入口部の天井までの高さは3mある（床面の標高は3.2m前後）。さらに、洞穴部分の前には幅5m、長さ7mほどの「前庭部」が形成されている。

洞穴部の最下層約20cmには砂が堆積し、奥壁に近い部分の砂上に全長約20cmの鉄剣（または槍先）、穿孔のある布留式土器（甕、小型壺など10個体ほど）、ベンガラが集中して検出されたため、洞穴内最深部に埋葬施設が存在したことが推測された。ただし、人骨や掘り込み、棺の痕跡などは検出できなかった。

「前庭部」は、平野部に向けて標高が下がり、出口では標高1.8mほどになる。この「前庭部」の砂層やその直上の層から弥生時代後期～古墳時代前期の土器が、そして上層部からは中世の土器が出土している。この部分では遺構は認められなかった。

第2号洞穴は、奥壁部分で第1号洞穴の「前庭部」と連結しており、そこから流れ込んだ状態で土器が出土している。ここからは明瞭な埋葬の痕跡などの遺構は確認できなかった。

まとめ

以上のように、この城山遺跡は、自然洞穴を利用した古墳時代前期の埋葬遺跡であることが明らかになった。このような古墳時代の埋葬形態は大分県では初めて確認されたものである。

(小柳和宏)



真那井城山遺跡全景（南東から）

No.	67	遺跡名	和泉第2遺跡	所在地	日出町大字藤原字池田
調査原因	国道10号線日出バイパス建設			調査期間	平成10年4月16日～平成11年3月18日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	松本康弘・児玉美香
調査面積	10,000㎡	時期	弥生・中世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室

位置

日出町を東西に連なる鹿鳴越連山から派生する標高100m余りの丘陵斜面上に位置する。北西に城山(真嶽城)、別府湾を挟んで高崎山城を望む。



遺跡の位置 (1/25,000「杵築」)

遺構

弥生中期…竪穴住居跡、土坑、柱穴
 中世…周溝状遺構(13世紀) 4m×3m+α
 山城の堀切(16世紀)

まとめ

調査区は現在水田として開拓されているため、遺構の残存状況はあまり良くない。

竪穴住居は弥生中期前半と中期後半に比定される2種のものがある。

周溝状遺構は上部が削平され、幅40cm、深さ15cmほどが残っているだけであったが、その中から土師器環・小皿がまとまって出土した。

また、幅4m、深さ2mの堀切が確認された。これは大友氏の手鍛冶の伊東氏が築いたもの(「南藤原岡跡考」)で、土塁も調査区外に残っている。

(松本康弘)

文献

- ・西の尾崎に城と云うて少しの砦の跡あり、是は攻戦の節、播磨守楯籠る為築之。
- ・城 池田の城といふあり。是は伊東播磨守の砦と云。當時格別に砦の形もみえず。併占は、堀切等も数々有とみゆる。今田島と成る。…説日。寶歴の初農夫吉六と云ふ者、右之堀を埋、新田になさんとするに忽腹痛して…新田を止、埋土を上げれば、忽に病癒たり。

「南藤原岡跡考」 『日出町史』史料編

No.	68	遺跡名	長野遺跡	所在地	日出町大字豊岡字長野
調査原因	日出バイパス建設工事			調査期間	平成10年6月8日～平成10年6月23日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	豊田徹士・野崎哲司
調査面積	約3,400㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					

No.	69	遺跡名	王子・下野地区	所在地	日出町大字藤原
調査原因	国道213号日出バイパス工事			調査期間	平成10年7月28日～平成10年7月30日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	栗原 真・原田昭一
調査面積	10,000㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		中世土器		中世上層の包含層（一部）	
関係文献					
No.	70	遺跡名	弥四郎遺跡	所在地	日出町大字藤原字弥四郎
調査原因	国道213号日出バイパス工事			調査期間	平成10年10月9日～平成11年1月29日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	栗原 真
調査面積	6,000㎡	時期	縄文・中世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
土坑5基、ピット数10個、方形周溝状遺構1		中世土器器 縄文早期土器		不明 縄文早期包含層	
関係文献					
No.	71	遺跡名	片築遠見地区	所在地	日出町大字藤原字台
調査原因	中山間地域総合整備事業			調査期間	平成10年10月9日～平成10年11月10日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	栗原 真
調査面積	約15ha	時期	中世・近世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		試掘調査は75箇所にトレンチを設定した。その結果若干の近世陶磁器や中世の土器が出土したが、本調査に及ぶほどのものではなかった。	
関係文献 原田昭一「大分県内遺跡発掘調査概報7」大分県教育委員会 1999					
No.	72	遺跡名	軒の井遺跡	所在地	日出町大字大神字軒の井
調査原因	水田汎用化土地基盤整備事業			調査期間	平成10年12月22日～平成10年12月25日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	原田昭一
調査面積	約8ha	時期	中世	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
土坑・ピット・溝		なし		試掘調査の結果、4ヵ所までとまりを持ち、水田耕作上下に遺構群が検出できた。いずれも柱穴群・土坑・溝状遺構などからなり、遺構の状況から近世以前のものと想定できる。	
関係文献 原田昭一「大分県内遺跡発掘調査概報7」大分県教育委員会 1999					
No.	73	遺跡名	日出地区	所在地	日出町大字大神字軒の井
調査原因	農免農道			調査期間	平成11年3月1日～平成11年3月5日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	永井 実・栗原 真
調査面積	約1,000㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					

No.	74	遺跡名	円通寺遺跡2次調査 (C地点)	所在地	別府市大字北石垣字本林
調査原因	学校施設建設			調査期間	平成10年5月22日～平成10年7月21日
調査機関	別府大学文化財研究所			調査担当者	下村 智・吉田和彦
調査面積	728㎡	時期	弥生～近世	遺物の保管	別府大学

位置

別府市北石垣に所在し、北を東に流れる平田川と、南側を春木川にはさまれた標高48mの台地上に位置する。基盤は火山噴出物の安山岩礫を中心とした礫層および、一部砂層である。



遺跡の位置 (1/25,000 [別府西部])

遺構

遺跡の北側が一部砂層である他は、礫層であり、これらを掘り込んで柱穴群、方形竪穴状遺構、土坑などのほか竪穴式住居跡の一部と思われるものが検出された。これらのものは竪穴式住居跡が弥生後期後半になる他は、ほぼ中世の所産である。

遺物

弥生後期後半～中世までのものと幅がある。弥生後期後半から古墳時代前期の土器、須恵器、古代～中世土師皿・坏、中世土鍋、瓦器、陶磁器、常滑焼、亀山系土器、中世の鉄刀、元代の銅銭、そのほか土鏃などが出土している。

まとめ

遺跡の東側は包含層ながら弥生土器が集中して出土し、また竪穴式住居跡の一部と思われるものも検出されており、周知遺跡である円通寺遺跡の西端が当調査で確認された。中世では包含層ながら大分県下で最大の土鍋を出土しており、注目される。また、遺跡の北側に中世の掘立柱建物が1棟ある。北側の未調査区にも存在する可能性があり、性格の解明を含め今後の調査が期待される。

(吉田和彦)



円通寺遺跡C地点全景

No.	75	遺跡名	春木芳元遺跡 (D区)		所在地	別府市大字鶴見字ノ原	
調査原因	共同住宅建設				調査期間	平成10年5月1日	
調査機関	別府市教育委員会				調査担当者	永野康洋	
調査面積	200㎡	時期	_____		遺物の保管	_____	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
なし		なし			すでに造成により覆乱されており、遺構、遺物は検出されなかった。		
関係文献							
No.	76	遺跡名	四郎丸遺跡 (A区)		所在地	別府市石垣東3丁目	
調査原因	店舗建設				調査期間	平成10年5月25日～平成10年6月15日	
調査機関	別府市教育委員会				調査担当者	永野康洋	
調査面積	50㎡	時期	弥生後期		遺物の保管	別府市教育委員会	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
なし (包含層)		弥生土器 (甕、高杯)			顕著な遺構は検出されなかったが、何らかの生活跡の一部と考えられる。		
関係文献							
No.	77	遺跡名	四郎丸遺跡 (B区)		所在地	別府市石垣東4丁目	
調査原因	駐車場・店舗建設				調査期間	平成10年6月3日	
調査機関	別府市教育委員会				調査担当者	永野康洋	
調査面積	460㎡	時期	_____		遺物の保管	_____	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
なし		なし			遺構、遺物は検出されなかった。		
関係文献							
No.	78	遺跡名	野口原地区		所在地	別府市大字別府字野口原	
調査原因	学校建設				調査期間	平成10年6月16日～平成10年6月17日	
調査機関	別府市教育委員会				調査担当者	永野康洋	
調査面積	約5,000㎡	時期	_____		遺物の保管	_____	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
なし		なし			土石流がかなり厚く堆積しており、その下に地山を確認したが、遺構、遺物は検出されなかった。		
関係文献							
No.	79	遺跡名	北鉄輪遺跡		所在地	別府市大字鉄輪字ソノダ	
調査原因	宗教施設建設				調査期間	平成10年7月28日～平成10年8月5日	
調査機関	別府市教育委員会				調査担当者	永野康洋	
調査面積	30,000㎡	時期	縄文早期		遺物の保管	別府市教育委員会	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
なし		押型文土器			縄文早期の包含層が確認されたため、本調査を実施することとした。		
関係文献							
No.	80	遺跡名	四郎丸遺跡 (C区)		所在地	別府市石垣西3丁目	
調査原因	店舗建設				調査期間	平成10年8月17日	
調査機関	別府市教育委員会				調査担当者	永野康洋	
調査面積	150㎡	時期	_____		遺物の保管	_____	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
なし		なし			四郎丸遺跡に隣接しているため、試掘調査を実施したが、遺構、遺物は検出されなかった。		
関係文献							

No.	81	遺跡名	春木芳元遺跡 (E区)	所在地	別府市大字北石垣字天神畑
調査原因	宅地造成			調査期間	平成10年9月3日
調査機関	別府市教育委員会			調査担当者	永野康洋
調査面積	780㎡	時期	弥生後期	遺物の保管	別府市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		弥生土器片数点		包含層、地山とも良好に残存しているが、遺物は少なく、顕著な遺構も確認されない。春木芳元遺跡の東北端に位置するのであろうか。	
関係文献					
No.	82	遺跡名	円通寺遺跡 (D区)	所在地	別府市大字北石垣字井手科
調査原因	共同住宅建設			調査期間	平成10年10月27日
調査機関	別府市教育委員会			調査担当者	永野康洋
調査面積	30㎡	時期	弥生後期	遺物の保管	別府市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		弥生土器		遺跡の殆どは破壊されていたが、包含層からの遺物の出土により、円通寺遺跡がさらに南に広がることが予想される。	
関係文献					
No.	83	遺跡名	円通寺遺跡 (E区)	所在地	別府市大字北石垣字髭田
調査原因	駐車場建設			調査期間	平成10年11月5日
調査機関	別府市教育委員会			調査担当者	永野康洋
調査面積	800㎡	時期	弥生後期	遺物の保管	別府市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		弥生土器 (壺、高杯)		遺構は検出されなかったが、円通寺遺跡の一連の住居跡群の一部と考えられる。	
関係文献					
No.	84	遺跡名	円通寺遺跡 (F区)	所在地	別府市大字北石垣字ウト井手
調査原因	駐車場・店舗建設			調査期間	平成11年2月5日
調査機関	別府市教育委員会			調査担当者	永野康洋
調査面積	330㎡	時期	弥生時代	遺物の保管	別府市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		弥生土器少量		大きく攪乱を受けており、遺跡の性格は把握できない。	
関係文献					
No.	85	遺跡名	北鉄輪遺跡	所在地	別府市大字鉄輪字ソノダ
調査原因	宗教施設建設に伴う造成			調査期間	平成10年10月1日～平成11年3月31日
調査機関	別府市教育委員会			調査担当者	永野康洋
調査面積	370㎡	時期	縄文早期	遺物の保管	別府市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
柱穴・炉穴・集石		押型文土器・石鏃・尖頭状石器 燃余文土器・無文土器		遺跡の殆どが攪乱を受けているため住居跡は検出されなかったが、土器の出土状況から何らかの生活跡の一部と考えられる。	
関係文献					
No.	86	遺跡名	鶴見下森山地区	所在地	別府市大字鶴見字上森山
調査原因	共同住宅			調査期間	平成11年3月29日～平成11年3月30日
調査機関	別府市教育委員会			調査担当者	永野康洋
調査面積	2,000㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		春木芳元遺跡に近接しているので試掘調査を実施したが、遺構、遺物は全く検出されなかった。	
関係文献					

No.	87	遺跡名	清太郎遺跡	所在地	白杵市大字望月紺屋跡80-1
調査原因	東九州自動車道建設			調査期間	平成10年4月1日～平成11年2月24日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	甲斐 猛・衛藤麻衣
調査面積	3,000㎡	時期	縄文時代・古墳時代～近世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室

位置

清太郎遺跡は白杵川中流域右岸の、標高11～15mの阿蘇火砕流台地上に位置する。白杵川を挟んで北西に荒田遺跡、北東に野村台遺跡が望める。



遺跡の位置 (1/25,000「白杵」)

遺構

縄文時代：集石（縄文時代後期）
 古墳時代：住居跡 10軒（6世紀末～7世紀初）
 古代：遺状遺構？ 2条
 中世～近世：掘立柱建物 2軒、土坑 1基
 時代不明：土坑 2基、溝状遺構 1条、ピット等

遺物

縄文時代：後期の土器が主体（前期、中期、晩期も若干出土）
 古墳時代：須恵器、土師器、移動式竈、小玉（6世紀末～7世紀初頭）
 古代：須恵器、土師器、金剛型甕、緑軸陶器
 中世：輸入陶磁器、常滑焼、鉄卒、楠葉型瓦器椀、京都系土師質土器、輪羽口
 近世：陶磁器

まとめ

清太郎遺跡の調査では、縄文時代から近世におよぶ遺構・遺物が確認された。特に古墳時代では、終末期の住居跡が10軒確認でき、そのうち3号住においては住居内での玉造りの状況を窺い知ることができた。また古代では緑軸陶器・須恵器が、中世では13世紀中頃の常滑焼大甕が出土しており、県内出土例の中でも古いタイプと考えられる。

遺跡の範囲は調査区の南側にある学校の校庭からも輸入陶磁器などが採集できることから、この部分まで及ぶものと考えられる。

白杵市ではこれまで、古墳時代後期から古代の遺跡の確認例は少なく、わずかに井村遺跡で8世紀の掘立柱建物確認されているだけである。つづいて平安時代末から鎌倉時代初期の造営と言われる白杵石仏が出現し、野村台遺跡などでは中世の遺構が確認されている。今回の清太郎遺跡の調査は白杵市の古墳時代後期から古代の空白期を埋める成果がえられた。

(衛藤麻衣)



清太郎遺跡景（西から）

No.	88	遺跡名	荒田遺跡	所在地	白杵市大字前田字大王原外
調査原因	東九州自動車道建設			調査期間	平成10年4月1日～平成11年3月31日
調査機関	白杵市教育委員会			調査担当者	神田高士
調査面積	15,000㎡	時期	旧石器～近現代	遺物の保管	白杵市教育委員会文化財資料室

位置

白杵川中流域左岸の、標高約35mの阿蘇溶結凝灰岩台地上に位置する。国宝白杵磨崖仏と特別史跡白杵磨崖仏（大日石仏）のほぼ中間点にあり、周囲には白杵川の対岸に清太郎遺跡や野村台遺跡が所在し、この他、白杵川沿岸の主な阿蘇溶結凝灰岩台地上に立地する遺跡を一望できる位置にある。



遺跡の位置 (1/25,000 [白杵])

遺構

竪穴式住居（弥生後・4、古墳前・2）・6棟
 地下式墳・3基
 中世土壇墓・23基
 ピット・300基以上（内、埋銭ピット・2）
 中世溝・2条

遺物

剥片・石核・（後期旧石器期・縄文早期）・無文土器（縄文早期）・石斧（縄文早期）・三万田式土器（縄文後期）・磨製石鏃（弥生後期）・安国寺系土器（二重口録壺片等・弥生後期中～後葉）・古式土師器（単口録壺・小型丸底壺・高杯等、布留Ⅱ併行期）・中国製陶磁器・京都系土師器

まとめ

弥生後期の竪穴式住居の内1棟は、直径11mを越える極めて大型の、多角形状平面型を呈しており、昨年度の調査成果と併せ、大型住居群による集落の特殊性を感じる。中世墓は16世紀代に、地下式墳を伴う墓群としての盛行を見せる。地下墳の形態差は墓と入土施設の差となり得る可能性を示す。

(神田高士)



荒田遺跡遠景（東から）

No.	89	遺跡名	下ノ山遺跡	所在地	臼杵市大字吉小野
調査原因	東九州自動車道建設	調査期間	平成10年7月15日～平成11年2月26日		
調査機関	大分県教育委員会	調査担当者	永井 実・野崎哲司		
調査面積	約1,000㎡	時期	旧石器・縄文早期・中近世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室

位置

下ノ山遺跡は末広川の右岸の標高約92～94mの阿蘇火砕流台地上に位置する。北西に川野遺跡、久木小野神社遺跡、南西に東台遺跡を望む。



遺跡の位置 (1/25,000「戸次本町」)

遺構

旧石器時代：集石炉1基
 縄文時代早期：集石炉2基
 時期不明：土坑1基、柱穴など。

遺物

旧石器時代の石器。縄文時代早期の石器、無文土器、押型文土器。中世の輸入陶磁器、貨幣。近世の陶磁器、貨幣、輪羽口、煙管。

まとめ

遺跡の北側は所々、風倒木痕による攪乱が、南側は時期不明の耕作によるとみられる攪乱がそれぞれ確認できる。グリッドによっては中近世の遺物が縄文早期の遺物と共に出土している。

縄文時代早期は集石炉が2基出ており、石材は珪質泥岩と砂岩である。石器の多くはチャートであるが、ガラス質安山岩や姫島産黒曜石、石英等も出土した。

旧石器時代はA T層直下の黒色帯から結晶片岩と砂岩の集石炉1基が出土した。石器の石材の多くはチャート及び流紋岩であり、しかも剥片が大半を占めている。

(野崎哲司)

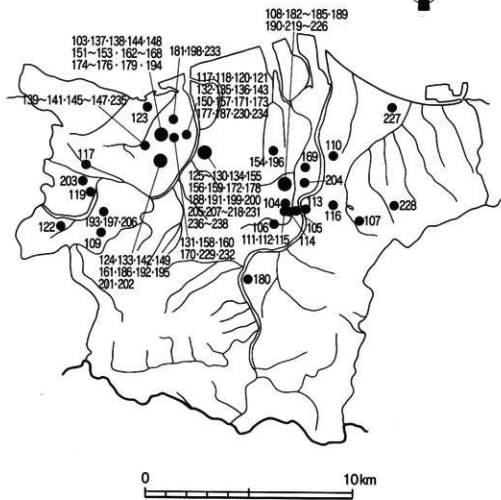


下ノ山遺跡遠景 (垂直)

No.	90	遺跡名	臼杵石仏群地域遺跡	所在地	臼杵市大字深田
調査原因	学術調査			調査期間	平成10年5月1日～平成11年3月31日
調査機関	臼杵市教育委員会			調査担当者	三嶋有子
調査面積	850㎡	時期	中世	遺物の保管	臼杵市教育委員会文化財室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
井戸状遺構 掘立柱建物跡		中国製陶磁器・在土師質土器 備前スリ鉢・漆器類・銅杖状遺物		臼杵市磨崖仏関連の寺院遺構の一部。今回の調査では16世紀代の建物群を確認。	
No.	91	遺跡名	久木小野亀山天神遺跡	所在地	臼杵市大字久木小野
調査原因	神社移設			調査期間	平成10年6月1日～平成10年6月31日
調査機関	臼杵市教育委員会			調査担当者	神田高士
調査面積	400㎡	時期	16世紀	遺物の保管	臼杵市教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
祭祀遺構		五輪塔		中世末の石塔群が所在していたとみられる。	
No.	92	遺跡名	泉史跡臼杵城跡	所在地	臼杵市大字臼杵字丹生嶋
調査原因	櫓門(大門櫓)復元工事			調査期間	平成10年6月21日～平成10年11月24日
調査機関	臼杵市教育委員会			調査担当者	神田高士
調査面積	150㎡	時期	17世紀～18世紀半	遺物の保管	臼杵市教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
櫓門礎石・石組溝		近世瓦・肥前系陶磁器(多様)		礎石下部で、礎石を支持するとみられる木柱が発見された。	
No.	93	遺跡名	久木小野神社遺跡	所在地	臼杵市大字久木小野
調査原因	道路建設			調査期間	平成10年6月11日～平成10年8月26日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	永井実・上角智希
調査面積	1,000㎡	時期	縄文・中世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
包含層		縄文前期～後期の土器 中世(13C～15C)の土師質土器 渡来銭		包含層	
No.	94	遺跡名	佐志生地区	所在地	臼杵市大字佐志生
調査原因	一般農道整備事業			調査期間	平成10年6月24日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	原田昭一
調査面積	約3,000㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		立ち合い調査を行ったが、表土下には砂層が厚く堆積し、本調査に至るべき遺構・遺物は確認できなかった。	
関係文献 原田昭一「大分県内遺跡発掘調査概報7」大分県教育委員会 1999					
No.	95	遺跡名	野村台遺跡	所在地	臼杵市大字野村台
調査原因	国道502号道路改良工事			調査期間	平成10年9月3日～平成10年9月4日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	原田昭一
調査面積	900㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
土坑・溝		なし		なし	
関係文献 原田昭一「大分県内遺跡発掘調査概報7」大分県教育委員会 1999					
No.	96	遺跡名	川野遺跡	所在地	臼杵市大字吉小野字川野
調査原因	東九州自動車道建設			調査期間	平成11年1月13日～平成11年3月12日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	小林昭彦
調査面積	約800㎡	時期	江戸時代	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
近世墓		なし		近世墓碑157基を確認、発掘は行ってない。	

No.	97	遺跡名	川上地区	所在地	湯布院町大字川上
調査原因	県道安心院湯布院線			調査期間	平成10年11月11日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	高橋恒武
調査面積	5,200㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					
No.	98	遺跡名	下原遺跡(野津原西部地区)	所在地	野津原町大字下原
調査原因	ほ場整備事業			調査期間	平成10年9月11日～平成10年9月17日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	原田昭一
調査面積	約6ha	時期	縄文～中世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
遺物包含層・ピット		縄文土器		<p>試掘の結果、4箇所において遺構・遺物の存在が確認できた。最も七瀬川に近い水田面では縄文時代後期の土器を包含する黄褐色ソフトローム層が確認でき、平成8年度調査において縄文時代後期の遺物包含層の広がりが本年度試掘調査地まで広がることが確認できた。このほか3箇所の特ランチにおいては、柱穴をはじめとした遺構が確認できた。</p>	
関係文献					
No.	99	遺跡名	下原遺跡(原村地区)	所在地	野津原町大字下原字原村
調査原因	ほ場整備事業			調査期間	平成10年8月24日～平成10年10月15日
調査機関	野津原町教育委員会			調査担当者	原田昭一
調査面積	1,364㎡	時期	中世	遺物の保管	野津原町教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
竪穴		増製石斧土器(産)		縄文時代後期、弥生時代後期、中世の遺構も存在しているようである。	
関係文献					
長野遺跡 聖観寺遺跡					
No.	100	遺跡名	北方下角遺跡	所在地	挾間町大字北方字下角13-2外
調査原因	大型店舗建設			調査期間	平成10年6月8日～平成10年6月22日
調査機関	挾間町教育委員会			調査担当者	山田尚志
調査面積	5,000㎡	時期	弥生後期～古墳前期	遺物の保管	挾間町立歴史民俗資料館
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
竪穴遺構………20基 甕・壺………4軒 柱穴………多数		小型仿製鏡1・土製勾玉3 舟形土製品1 弥生後期～古墳前期の土器		河岸段丘上に位置する。近世の開発と耕作で、一部を失っている。弥生後期から古墳前期にかけての集落跡である。	
関係文献					
No.	101	遺跡名	下市遺跡	所在地	挾間町大字下市字上島624番地の1
調査原因	共同住宅建設			調査期間	平成10年11月26日
調査機関	挾間町教育委員会			調査担当者	山田尚志
調査面積	600㎡	時期	弥生後期～古墳	遺物の保管	挾間町立歴史民俗資料館
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		弥生後期～古墳にかけての土器片数点		周知遺跡ではあるが遺構は検出できなかった。また、遺物についても散見するにとどまった。遺物散布地。	
関係文献					
No.	102	遺跡名	鶴田地区	所在地	挾間町大字鶴田720-1
調査原因	共同住宅建設			調査期間	平成10年12月21日
調査機関	挾間町教育委員会			調査担当者	山田尚志
調査面積	2,000㎡	時期	古墳中・後期	遺物の保管	挾間町立歴史民俗資料館
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
柱穴………2基		土師器 須恵器		低位段丘面に立地する。遺構について、柱穴2基の他は検出できなかった。遺物は土器数点が得られたのみである。	
関係文献					

大分市



No.	103	遺跡名	大道糸里遺跡		所在地	大分市大道町5丁目外	
調査原因	県道庄ノ原佐野線建設				調査期間	平成10年7月27日～平成10年7月31日	
調査機関	大分県教育委員会				調査担当者	吉田 寛	
調査面積	約10,000㎡	時期	——		遺物の保管	——	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
なし			なし		遺構・遺物とも出土せず。		
関係文献							
No.	104	遺跡名	毛井遺跡		所在地	大分市大字毛井寺の前	
調査原因	宅地造成				調査期間	平成10年5月13日	
調査機関	大分県教育委員会				調査担当者	栗田勲弘・野崎哲司	
調査面積	約1,400㎡	時期	弥生～近世		遺物の保管	大分県教育委員会	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
柱穴			弥生・古代の土器 中世の土師皿、輸入陶磁器、瓦質土器 近世陶磁器		包蔵地		
関係文献							
No.	105	遺跡名	門前遺跡		所在地	大分市大字松岡字外地	
調査原因	宅地造成				調査期間	平成10年5月14日	
調査機関	大分県教育委員会				調査担当者	野崎哲司	
調査面積	約1,200㎡	時期	——		遺物の保管	——	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
なし			なし		なし		
関係文献							
No.	106	遺跡名	尾崎遺跡		所在地	大分市大字松岡字猫原	
調査原因	宅地造成				調査期間	平成10年5月26日	
調査機関	大分県教育委員会				調査担当者	豊田徹士・野崎哲司	
調査面積	1,000㎡	時期	——		遺物の保管	——	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
なし			なし		なし		
関係文献							
No.	107	遺跡名	赤迫池地区		所在地	大分市大字広内	
調査原因	東九州自動車道建設				調査期間	平成10年11月6日	
調査機関	大分県教育委員会				調査担当者	栗田勲弘	
調査面積	1,000㎡	時期	——		遺物の保管	——	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
なし			なし		なし		
関係文献							

No.	108	遺跡名	二日川遺跡	所在地	大分市大字二日川
調査原因	県道松岡口岡線道路建設工事			調査期間	平成10年6月11日～平成10年8月17日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	栗田勝弘
調査面積	約3,000㎡	時期	古代	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
楕円形土坑		古代の土師器、フイゴの羽口、土甕等		古代の工人集落。	
関係文献					
No.	109	遺跡名	玉沢地区条里跡（ガランジ地区）	所在地	大分市大字口戸字伽藍地
調査原因	一般国道442号改良工事			調査期間	平成10年10月28日～平成10年11月2日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	染矢和徳
調査面積	50㎡	時期	近世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
水口状遺構 水田跡		肥前系磁器白磁紅皿		調査区は微高地の南端に位置するものであるが、すでに、近世の水田として開削されているようである。	
関係文献 小柳和宏 他『ガランジ遺跡・植田市遺跡・植田条里跡』大分県教育委員会 1997					
No.	110	遺跡名	宮河内地区	所在地	大分市大字宮河内
調査原因	国道197号大分南バイパス道路改良工事			調査期間	平成10年7月27日～平成10年7月31日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	甲斐寿義
調査面積	約30,000㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					
No.	111	遺跡名	松岡地区	所在地	大分市大字松岡
調査原因	国道197号大分南バイパス道路改良工事			調査期間	平成10年12月10日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	高橋信武
調査面積	12,600㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					
No.	112	遺跡名	河原谷地区	所在地	大分市大字松岡字河原谷
調査原因	国道197号大分南バイパス道路改良工事			調査期間	平成10年11月19日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	高橋信武
調査面積	600㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					

No.	113	遺跡名	新田地区		所在地	大分市大字宮河内字新田	
調査原因	国道197号大分南バイパス道路改良工事				調査期間	平成10年7月27日～平成10年8月5日	
調査機関	大分県教育委員会				調査担当者	甲斐寿義	
調査面積	15,000㎡	時期	——		遺物の保管	——	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
なし		なし			なし		
関係文献							
No.	114	遺跡名	真登・向原・毛井遺跡		所在地	大分市大字松岡	
調査原因	国道197号大分南バイパス道路改良工事				調査期間	平成11年2月25日～平成11年3月5日	
調査機関	大分県教育委員会				調査担当者	高橋信武	
調査面積	32,000㎡	時期	古墳時代・古代・中世		遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
溝状遺構・掘立柱建物跡		須恵器・土師器			なし		
関係文献							
No.	115	遺跡名	虫喰谷遺跡		所在地	大分市大字松岡	
調査原因	国道197号大分南バイパス道路改良工事				調査期間	平成11年2月1日～平成11年2月3日	
調査機関	大分県教育委員会				調査担当者	高橋信武	
調査面積	12,600㎡	時期	奈良時代		遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
なし		土師器			試掘調査		
関係文献							
No.	116	遺跡名	丹生遺跡群		所在地	大分市丹生川外	
調査原因	国道197号大分南バイパス道路改良事業				調査期間	平成10年5月29日～平成10年7月13日	
調査機関	大分県教育委員会				調査担当者	原田昭一	
調査面積	約6ha	時期	古墳		遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
なし		石器・土師器			丘陵上に見られる古墳時代中期の遺物散布地である。		
関係文献							
No.	117	遺跡名	賀米庄		所在地	大分市大字賀米・宮苑・東院	
調査原因	学術（水かかり）調査				調査期間	平成11年3月18日	
調査機関	大分市歴史資料館				調査担当者	長田弘通	
調査面積	——	時期	中・近世		遺物の保管	——	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
——		——			柵（由）原八幡宮の神領		
関係文献							
渡辺澄夫編『豊後国莊園公領史料集成』五（上）平成元年12月10日							

No.	118	遺跡名	大友館跡 (第1次)	所在地	大分市彌徳町2丁目
調査原因	駅周辺総合整備事業			調査期間	平成10年7月21日～平成11年5月19日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	高島 豊
調査面積	2,200㎡	時期	戦国時代	遺物の保管	大分市教育委員会

位置

大友館は、大分川左岸の微高地上に位置する中世大友城下町跡の中央部付近の、約2町四方におよぶ地割がこれに比定されている。第1次調査は、駅周辺総合整備事業に伴い、館比定地内の東南隅部分において実施した確認調査である。この地点においては、既に平成8年度に行なわれた試掘調査の際に、埋置された4基の巨石が検出されており、建物の礎石ではないかと評価されていた。



遺跡の位置 (1/25,000 [大分])

遺構

最も注目される遺構は、庭園と推定される遺構 (SX001) である。この遺構は、中世段階の地表面を最大2m掘り込んでつくられ、最も深い部分を池にしていたと推定されるもので、池の護岸あるいは景石としては巨石を含む石を配している。館の推定南側外郭線と並行して南北16m以上、東西35m以上が確認されたが、西側・南側にはさらに広がっていることが推定された。遺構の年代については、出土遺物から16世紀後半に築造または最終的な改修が行なわれ、16世紀末に大規模な破壊の後廃絶し、17世紀初頭までには埋没したものと考えられる。



庭園遺構全景

遺物

出土遺物の多くは16世紀末と考えられる遺構の最終的な埋土より出土しているが、希少な華南三彩水注片、タイ・スワンカローク窯鉄絵小壺片を含む貿易陶磁器が多数出土した。また、池底より、下駄等の木製品や漆器が出土している。

まとめ

今回大友館推定地の内部において、庭園と推定される遺構が検出されたことによって、調査地が大友館の内部である可能性が極めて高くなった。16世紀後半と推定された遺構の築造時期については、第2次調査で検出された大規模な整地遺構の時期と一致することが注目される。また、廃絶に先立つ大規模な破壊の痕跡は、天正～文禄期の大友氏を取り巻く歴史的背景が想定される。

(高島 豊)

No.	119	遺跡名	豊後国分寺跡	所在地	大分市国分1009番地
調査原因	確認調査			調査期間	平成10年7月4日～平成10年9月1日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	河野史郎
調査面積	270㎡	時期	古代	遺物の保管	大分市教育委員会

位置

調査は、国史跡豊後国分寺跡内の民有地（七重塔の南東80m、推定回廊内の南東コーナーに近い部分）における個人住宅の立替に伴い行なわれた。



遺跡の位置 (1/25,000 [大分])

遺構

今回検出された梵鐘鑄造遺構の平面プランは3.0×2.0mの隅丸長方形を呈し、土坑の中央には、2.1×1.7mの楕円形プランの梵鐘の搬出坑を確認している。この搬出坑の中には鑄型・溶解炉・瓦等が廃棄されており、鑄造工程の最後に片づけが行なわれたことが窺われる。

鑄造坑の底部には内型・外型・ジョウ・掛木が良好に残存しており、特に掛木については、作業面及び貼りの下層に空洞部として残っていた。さらに、掛木に縄を掛けるための小穴が、作業面から掘込まれていることも確認されている。



梵鐘鑄造遺構全景

遺物

出土遺物には、鑄型・溶解炉（こしき炉）・銅滓・瓦・土師器等があり、特に、銅滓にまじって、出土した帯金具は、官人が国分寺の梵鐘を鑄造するにあたり喜捨したものだろうか？

まとめ

今回検出された梵鐘鑄造遺構は、その遺存率の高さ、时期的な位置づけ、立地、特殊な出土遺物等、古代の鑄造技術の復元はもちろんのこと、古代鑄物師の動向や、諸国国分寺の実態に至るまで、様々な問題を投げかけるものであり、今後の詳細な資料整理が期待されることである。

(河野史郎)

文献

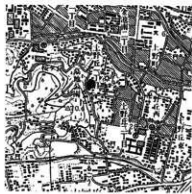
『豊後国分寺跡～平成10年度確認調査概要報告書～』大分市教育委員会 1999

No.	120	遺跡名	上野遺跡群（上野鹿寺跡）		所在地	大分市上野丘1丁目500番1
調査原因	共同住宅建設				調査期間	平成10年6月1日～平成10年7月23日
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	讃岐和夫
調査面積	416㎡	時期	飛鳥・奈良・平安		遺物の保管	文化財資料室

位置

大分川左岸の標高35m前後の上野丘陵上にあり、上野丘墓地公園の東側にあたる字山下の畑地に遺跡が所在している。

この地区は、古代寺院跡の存在を窺う、古代瓦（百済系単弁軒丸・均正唐草文軒平・格子目叩きの平瓦等）が出土することが知られている。



遺跡の位置（1/25,000「大分」）

遺構

調査区の中央部から東にかけて、版築状に叩き締めて積み上げられた基壇遺構があり、東側の低い方で、約1m以上の版築がみられた。版築は、5cm単位で黄色粘質土と黒色土を交互につき固めている。

基壇の西側端部と南西側コーナー部分を確認しており、端部は自然礫（30cm）を使用した化粧基壇と思われる。この基壇には、径1.5mの掘り方と根石が残っており、建物跡の規模は、南北梁行4間（14m）と東西桁行5間×α（17.5m×α）を測る。4面庇の大型礎石建物跡であることが判明した。8世紀代～9世紀代にかけての時期と思われる。また、版築基壇遺構の下で7世紀後半の掘立建物跡が2棟が確認された。以上の遺構以外に大型掘込み遺構が礎石建物跡の西側にあり、大量の土師器と古代瓦が廃棄された状態で出土している。

遺物

上野鹿寺跡独特な複弁7葉蓮華文軒丸瓦と均正唐草文軒平瓦を中心に百済系単弁軒丸瓦1点、豊後国分寺創建時の偏行唐草文軒平瓦1点が出土した。

文献

池辺千太郎『上野遺跡』大分市教育委員会 1990



（讃岐和夫）

基壇全景

No.	121	遺跡名	大友館跡第2次調査	所在地	大分市顕徳町3丁目4428番地の1
調査原因	分譲マンション建設			調査期間	平成10年10月4日～平成11年4月30日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塩地潤一
調査面積	約557㎡	時期	中世	遺物の保管	大分市文化財資料室

位置

大分川下流域の左岸に広がる沖積平野に位置し、中世府内町の推定大友館跡西側外郭線上にあたる。

遺構

概ね16世紀代の遺構群が確認された。これらの遺構は整地層を基盤面として3面の文化面を形成している。

第1面では16世紀末～17世紀初頭に比定される南北溝跡を検出、第2面では、大規模な南北溝跡をはじめ、欄列跡や土坑等が確認され、出土遺物より16世紀末に比定される。

第2面の遺構群は16世紀後半と考えられる第2次整地層を基盤面として形成されたものである。

この第2次整地層は最深部で約80cmを掘り、調査区のほぼ全面において確認された。また、第2次整地に伴って南北方向の掘削作業が行なわれていたことも判明した。

さらに第3面ではL字状に折れ曲がる土塁跡をはじめ、大規模な東西溝跡ならびに井戸跡などが検出された。これらの遺構は出土遺物より16世紀前半～中頃に比定される。

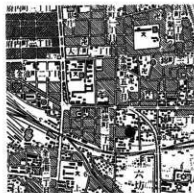
遺物

ガラス製小坏、鉄砲弾(鉛玉)、華南三彩鳥形水注、タイ・ノイ川窯産焼締陶器四耳壺、青磁掛花入、朝鮮白磁碗、京都系土師器皿、ロクロ土師器坏、中国染付皿、茶入

まとめ

今回の調査では館の存在を裏付ける遺構群が検出された。その中でも館の西側土塁とそれを埋める盛土整地の発見は特筆され、館の拡張を示唆している可能性が高い。

(塩地潤一)



遺跡の位置 (1/25,000【大分】)



調査区全景

No.	122	遺跡名	周知遺跡外（横瀬地区）		所在地	大分市大字横瀬	
調査原因	清掃事業所建設				調査期間	平成10年4月7日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	塔鼻光司	
調査面積	70m ²	時期	_____		遺物の保管	_____	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
_____			_____		試掘調査		
関係文献							
No.	123	遺跡名	周知遺跡外（駄原地区）		所在地	大分市大字駄原	
調査原因	駅南代替地				調査期間	平成10年4月14日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	高島 豊	
調査面積	70m ²	時期	_____		遺物の保管	_____	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
_____			_____		試掘調査		
関係文献							
No.	124	遺跡名	古国府遺跡群		所在地	大分市大字羽屋1060-6	
調査原因	アパート建設				調査期間	平成10年4月15日～平成10年4月17日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	堀地潤一	
調査面積	154m ²	時期	古墳		遺物の保管	大分市教育委員会文化財資料室	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
掘立柱建物跡、横跡、竅穴住居、溝状遺構			土師器碗、同鉢、高坏、小型丸底甕、須恵器甕		確認調査		
関係文献							
No.	125	遺跡名	下部遺跡群		所在地	大分市大字下部	
調査原因	下部土地区画整理事業				調査期間	平成10年4月20日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	坪根伸也	
調査面積	51m ²	時期	_____		遺物の保管	_____	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
_____			_____		確認調査		
関係文献							
No.	126	遺跡名	下部遺跡群		所在地	大分市大字下部	
調査原因	下部土地区画整理事業				調査期間	平成10年4月21日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	坪根伸也	
調査面積	39m ²	時期	_____		遺物の保管	_____	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
_____			_____		確認調査		
関係文献							

No.	127	遺跡名	下部遺跡群	所在地	大分市大字下部
調査原因	下部土地区画整理事業			調査期間	平成10年4月22日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	坪根伸也
調査面積	7㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
_____		_____		確認調査	
関係文献					
No.	128	遺跡名	下部遺跡群	所在地	大分市大字下部
調査原因	下部土地区画整理事業			調査期間	平成10年4月22日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	坪根伸也
調査面積	32㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
_____		_____		確認調査	
関係文献					
No.	129	遺跡名	下部遺跡群	所在地	大分市大字下部
調査原因	下部土地区画整理事業			調査期間	平成10年4月23日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	坪根伸也
調査面積	38㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
_____		_____		確認調査	
関係文献					
No.	130	遺跡名	下部遺跡群	所在地	大分市大字下部
調査原因	下部土地区画整理事業			調査期間	平成10年4月24日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	坪根伸也
調査面積	52㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
_____		_____		確認調査	
関係文献					
No.	131	遺跡名	上野遺跡群	所在地	大分市上野丘2丁目
調査原因	共同住宅建設			調査期間	平成10年5月7日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	20㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
_____		_____		確認調査	
関係文献					

No.	132	遺跡名	中世大友城下町跡	所在地	大分市顕徳町1丁目
調査原因	駅周辺総合整備事業			調査期間	平成10年5月7日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	高島 豊
調査面積	20㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
_____		_____		確認調査	
関係文献					
No.	133	遺跡名	古国府遺跡群	所在地	大分市大字古国府
調査原因	共同住宅建設			調査期間	平成10年5月12日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	30㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
_____		_____		確認調査	
関係文献					
No.	134	遺跡名	下郡遺跡群	所在地	大分市大字下郡
調査原因	下郡土地区画整理事業			調査期間	平成10年5月13日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	坪根伸也
調査面積	25㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
_____		_____		確認調査	
関係文献					
No.	135	遺跡名	中世大友城下町跡	所在地	大分市顕徳町1丁目
調査原因	駅周辺総合整備事業			調査期間	平成10年5月15日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	高島 豊
調査面積	25㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
_____		_____		確認調査	
関係文献					
No.	136	遺跡名	中世大友城下町跡	所在地	大分市大字大分
調査原因	葬祭場建設			調査期間	平成10年5月19日～平成10年5月21日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	堀地潤一
調査面積	214㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
_____		_____		確認調査	
関係文献					

No. 137	遺跡名	大道遺跡群		所在地	大分市金池南1丁目	
	調査原因	駅周辺総合整備事業		調査期間	平成10年5月25日	
	調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	高島 豊	
	調査面積	20㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格		
_____		_____		確認調査		
関係文献						
No. 138	遺跡名	大道遺跡群		所在地	大分市金池南1丁目	
	調査原因	駅周辺総合整備事業		調査期間	平成10年5月25日	
	調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	高島 豊	
	調査面積	13㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格		
_____		_____		確認調査		
関係文献						
No. 139	遺跡名	周知遺跡外 (桜ヶ丘地区)		所在地	大分市桜ヶ丘	
	調査原因	駅周辺総合整備事業		調査期間	平成10年5月26日	
	調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	高島 豊	
	調査面積	15㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格		
_____		_____		試験調査		
関係文献						
No. 140	遺跡名	周知遺跡外 (桜ヶ丘地区)		所在地	大分市桜ヶ丘	
	調査原因	駅周辺総合整備事業		調査期間	平成10年5月26日	
	調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	高島 豊	
	調査面積	7㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格		
_____		_____		試験調査		
関係文献						
No. 141	遺跡名	周知遺跡外 (桜ヶ丘地区)		所在地	大分市桜ヶ丘	
	調査原因	駅周辺総合整備事業		調査期間	平成10年5月27日	
	調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	高島 豊	
	調査面積	12㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格		
_____		_____		試験調査		
関係文献						

No.	142	遺跡名	古岡府遺跡群	所在地	大分市大字羽尾
調査原因	店舗兼倉庫			調査期間	平成10年6月1日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	培鼻光司
調査面積	36㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		確認調査	
関係文献					
No.	143	遺跡名	下郡遺跡群	所在地	大分市大字下郡
調査原因	下部土地区画整理事業			調査期間	平成10年6月5日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	坪根伸也
調査面積	12㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		確認調査	
関係文献					
No.	144	遺跡名	大迫遺跡群	所在地	大分市金池南1丁目
調査原因	駅周辺総合整備事業			調査期間	平成10年6月8日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	高島 豊
調査面積	25㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		確認調査	
関係文献					
No.	145	遺跡名	周知遺跡外(桜ヶ丘地区)	所在地	大分市桜ヶ丘
調査原因	駅周辺総合整備事業			調査期間	平成10年6月10日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	高島 豊
調査面積	13㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		試掘調査	
関係文献					
No.	146	遺跡名	副知遺跡外(桜ヶ丘地区)	所在地	大分市桜ヶ丘
調査原因	駅周辺総合整備事業			調査期間	平成10年6月10日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	高島 豊
調査面積	24㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		試掘調査	
関係文献					

No. 147	遺跡名	周知遺跡外 (桜ヶ丘地区)		所在地	大分市桜ヶ丘
調査原因	駅周辺総合整備事業			調査期間	平成10年6月11日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	高島 豊
調査面積	26㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		試掘調査	
関係文献					
No. 148	遺跡名	大道遺跡群		所在地	大分市金池南1丁目
調査原因	駅周辺総合整備事業			調査期間	平成10年6月12日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	高島 豊
調査面積	20㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		確認調査	
関係文献					
No. 149	遺跡名	古岡府遺跡群		所在地	大分市大字永美
調査原因	民間開発			調査期間	平成10年6月16日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	38㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		確認調査	
関係文献					
No. 150	遺跡名	下部遺跡群		所在地	大分市大字下郡
調査原因	下部7地区西整理事業			調査期間	平成10年6月18日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	坪根伸也
調査面積	43㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		確認調査	
関係文献					
No. 151	遺跡名	大道遺跡群		所在地	大分市東大道1丁目
調査原因	駅周辺総合整備事業			調査期間	平成10年6月24日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	高島 豊
調査面積	14㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		確認調査	
関係文献					

No.	152	遺跡名	大道遺跡群	所在地	大分市金池南2丁目
調査原因	駅周辺総合整備事業			調査期間	平成10年6月25日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	高島 豊
調査面積	17㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		試験調査	
関係文献					
No.	153	遺跡名	大道条里跡	所在地	大分市大道2丁目
調査原因	東大道南谷口線道路改良			調査期間	平成10年6月29日・平成10年7月2日～7月7日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塩地潤一
調査面積	95㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		確認調査	
関係文献					
No.	154	遺跡名	猪野遺跡	所在地	大分市大字猪野
調査原因	宅地造成			調査期間	平成10年6月30日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔森光司
調査面積	28㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		確認調査	
関係文献					
No.	155	遺跡名	周知遺跡外（下部地区）	所在地	大分市大字下部
調査原因	駅周辺総合整備事業			調査期間	平成10年7月13日～平成10年7月14日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	高島 豊
調査面積	108㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		試験調査	
関係文献					
No.	156	遺跡名	下部遺跡群	所在地	大分市大字下部
調査原因	下部1地区画整理事業			調査期間	平成10年7月15日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	坪根伸也
調査面積	81㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		確認調査	
関係文献					

No.	157	遺跡名	中世大友城下町跡	所在地	大分市顕徳町2丁目
調査原因	ビル建設			調査期間	平成10年7月23日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	8㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
_____		_____		確認調査	
関係文献					
No.	158	遺跡名	上野遺跡群	所在地	大分市上野丘1丁目
調査原因	個人住宅建設			調査期間	平成10年7月30日～平成10年7月31日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	40㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
_____		_____		確認調査	
関係文献					
No.	159	遺跡名	周知遺跡外（下部地区）	所在地	大分市大字下郷
調査原因	駅周辺総合整備事業			調査期間	平成10年8月3日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	高島 豊
調査面積	60㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
_____		_____		試掘調査	
関係文献					
No.	160	遺跡名	上野遺跡群	所在地	大分市上野丘東
調査原因	個人住宅建設			調査期間	平成10年8月18日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	20㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
_____		_____		確認調査	
関係文献					
No.	161	遺跡名	古国府遺跡群	所在地	大分市大字奥州
調査原因	アパート建設			調査期間	平成10年8月28日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	11㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
_____		_____		確認調査	
関係文献					

No.	162	遺跡名	大道遺跡群	所在地	大分市金池南1丁目
調査原因	駅周辺総合整備事業			調査期間	平成10年8月31日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	高島 豊
調査面積	20㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		確認調査	
関係文献					
No.	163	遺跡名	大道条里跡	所在地	大分市大道町2丁目
調査原因	駅周辺総合整備事業			調査期間	平成10年9月1日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	高島 豊
調査面積	37㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		確認調査	
関係文献					
No.	164	遺跡名	大道遺跡群	所在地	大分市東大道1丁目
調査原因	駅周辺総合整備事業			調査期間	平成10年9月1日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	高島 豊
調査面積	18㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		確認調査	
関係文献					
No.	165	遺跡名	大道遺跡群	所在地	大分市東大道1丁目
調査原因	駅周辺総合整備事業			調査期間	平成10年9月2日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	高島 豊
調査面積	16㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		確認調査	
関係文献					
No.	166	遺跡名	大道遺跡群	所在地	大分市東大道1丁目
調査原因	駅周辺総合整備事業			調査期間	平成10年9月2日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	高島 豊
調査面積	23㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		確認調査	
関係文献					

No.	167	遺跡名	大道遺跡群	所在地	大分市東大道2丁目
調査原因	駅周辺総合整備事業			調査期間	平成10年9月3日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	高岸 豊
調査面積	17㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		確認調査	
関係文献					
No.	168	遺跡名	大道遺跡群	所在地	大分市人道町2丁目
調査原因	駅周辺総合整備事業			調査期間	平成10年9月3日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	高岸 豊
調査面積	7㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		確認調査	
関係文献					
No.	169	遺跡名	周知遺跡外 (南地)区	所在地	大分市大字南
調査原因	公園管理事務所建設			調査期間	平成10年9月8日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	136㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		試掘調査	
関係文献					
No.	170	遺跡名	古国府遺跡群	所在地	大分市大字奥田
調査原因	マンション建設			調査期間	平成10年9月11日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	50㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		確認調査	
関係文献					
No.	171	遺跡名	中世大友城下町跡	所在地	大分市顕徳町2丁目
調査原因	アパート建設			調査期間	平成10年9月16日～平成10年9月17日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	75㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		確認調査	
関係文献					

No.	172	遺跡名	下郡遺跡群	所在地	大分市大字下郡
調査原因	下郡土地地区再開発事業			調査期間	平成10年9月18日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	坪根伸也
調査面積	76㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
_____		_____		確認調査	
関係文献					
No.	173	遺跡名	中世大友城下町跡	所在地	大分市銅町2丁目
調査原因	個人住宅建設			調査期間	平成10年9月25日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	12㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
_____		_____		確認調査	
関係文献					
No.	174	遺跡名	大道遺跡群	所在地	大分市東大道1丁目
調査原因	駅周辺総合整備事業			調査期間	平成10年10月5日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	高島 豊
調査面積	35㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
_____		_____		確認調査	
関係文献					
No.	175	遺跡名	大道遺跡群	所在地	大分市東大道2丁目
調査原因	駅周辺総合整備事業			調査期間	平成10年10月5日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	高島 豊
調査面積	17㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
_____		_____		確認調査	
関係文献					
No.	176	遺跡名	大道遺跡群	所在地	大分市東大道1丁目
調査原因	駅周辺総合整備事業			調査期間	平成10年10月6日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	高島 豊
調査面積	46㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
_____		_____		確認調査	
関係文献					

No. 177	遺跡名	中世大友城下町跡			所在地	大分市顕徳町2丁目		
調査原因	共同住宅建設				調査期間	平成10年10月8日		
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	塔鼻光司		
調査面積	15m ²	時期	——		遺物の保管	——		
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格			
——		——			確認調査			
関係文献								
No. 178	遺跡名	下郡遺跡群			所在地	大分市大字下郡		
調査原因	下郡遺跡群				調査期間	平成10年10月26日		
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	坪根伸也		
調査面積	4m ²	時期	——		遺物の保管	——		
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格			
——		——			確認調査			
関係文献								
No. 179	遺跡名	大道堀跡群			所在地	大分市東大道1丁目		
調査原因	駅周辺総合整備事業				調査期間	平成10年10月29日		
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	高島 豊		
調査面積	35m ²	時期	——		遺物の保管	——		
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格			
——		——			確認調査			
関係文献								
No. 180	遺跡名	周知遺跡外（中戸次地区）			所在地	大分市大字中戸次		
調査原因	校舎増築				調査期間	平成10年11月16日・平成10年12月8日～12月10日		
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	塔鼻光司		
調査面積	23m ²	時期	古墳		遺物の保管	大分市教育委員会文化財資料室		
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格			
柱穴 土坑		土師器丸底甕			試掘調査（集落跡）			
関係文献								
No. 181	遺跡名	府内城城下町跡			所在地	大分市大手町1丁目		
調査原因	共同住宅建設				調査期間	平成10年11月18日		
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	塔鼻光司		
調査面積	50m ²	時期	——		遺物の保管	——		
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格			
——		——			確認調査			
関係文献								

No.	182	遺跡名	横尾遺跡群	所在地	大分市大字横尾
調査原因	横尾区画整理事業			調査期間	平成10年11月24日～平成10年11月25日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	212.5㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		確認調査	
関係文献					
No.	183	遺跡名	横尾遺跡群	所在地	大分市大字横尾
調査原因	横尾区画整理事業			調査期間	平成10年11月24日～平成10年11月25日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	102.1㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		確認調査	
関係文献					
No.	184	遺跡名	横尾遺跡群	所在地	大分市大字横尾
調査原因	横尾区画整理事業			調査期間	平成10年11月25日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	62.7㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		確認調査	
関係文献					
No.	185	遺跡名	横尾遺跡群	所在地	大分市大字横尾
調査原因	横尾区画整理事業			調査期間	平成10年11月25日～平成10年11月26日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	86.5㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		確認調査	
関係文献					
No.	186	遺跡名	古国府遺跡群	所在地	大分市大字羽屋
調査原因	診療所建設			調査期間	平成10年12月1日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	52㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		確認調査	
関係文献					

No. 187	遺跡名	中世大友城下町跡		所在地	大分市錦町2丁目	
調査原因	アイクア棟増築			調査期間	平成10年12月3日	
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司	
調査面積	14.5㎡	時期	—	遺物の保管	—	
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格		
—		—		確認調査		
関係文献						
No. 188	遺跡名	下郡遺跡群		所在地	大分市大字下郡	
調査原因	下郡土地区画整理事業			調査期間	平成10年12月4日	
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	坪根伸也	
調査面積	76㎡	時期	—	遺物の保管	—	
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格		
—		—		確認調査		
関係文献						
No. 189	遺跡名	横尾遺跡群		所在地	大分市大字横尾	
調査原因	横尾区画整理事業			調査期間	平成10年12月14日	
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司	
調査面積	451.39㎡	時期	—	遺物の保管	—	
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格		
—		—		確認調査		
関係文献						
No. 190	遺跡名	横尾遺跡群		所在地	大分市大字横尾	
調査原因	横尾区画整理事業			調査期間	平成10年12月15日～平成10年12月16日	
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司	
調査面積	236㎡	時期	—	遺物の保管	—	
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格		
—		—		確認調査		
関係文献						
No. 191	遺跡名	下郡遺跡群		所在地	大分市大字下郡	
調査原因	下郡土地区画整理事業			調査期間	平成10年12月18日	
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	坪根伸也	
調査面積	64㎡	時期	—	遺物の保管	—	
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格		
—		—		確認調査		
関係文献						

No.	192	遺跡名	大道遺跡群	所在地	大分市金池南1丁目
調査原因	駅周辺総合整備事業			調査期間	平成10年12月21日～平成10年12月22日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	高島 豊
調査面積	230㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
_____		_____		確認調査	
関係文献					
No.	193	遺跡名	玉沢地区条里跡	所在地	大分市大字玉沢
調査原因	電波塔建設			調査期間	平成11年1月8日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	72㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
_____		_____		確認調査	
関係文献					
No.	194	遺跡名	大道条里跡	所在地	大分市上野六坊北
調査原因	木道二階建て建物建設			調査期間	平成11年1月11日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	7㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
_____		_____		確認調査	
関係文献					
No.	195	遺跡名	古国府遺跡群	所在地	大分市大字古国府
調査原因	宅地造成			調査期間	平成11年1月20日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	18㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
_____		_____		確認調査	
関係文献					
No.	196	遺跡名	猪野遺跡	所在地	大分市大字猪野
調査原因	長屋建設			調査期間	平成11年1月22日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	68㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
_____		_____		確認調査	
関係文献					

No.	197	遺跡名	玉沢地区条里跡		所在地	大分市大字玉沢	
調査原因	大型店舗建設				調査期間	平成11年1月25日～平成11年2月5日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	塔鼻光司	
調査面積	572m ²	時期	――		遺物の保管	――	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
――			――		確認調査		
関係文献							
No.	198	遺跡名	府内城城下町		所在地	大分市府内町1丁目	
調査原因	店舗建設				調査期間	平成11年2月1日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	塔鼻光司	
調査面積	20m ²	時期	――		遺物の保管	――	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
――			――		確認調査		
関係文献							
No.	199	遺跡名	下部遺跡群		所在地	大分市大字下部	
調査原因	下部土地区画整理事業				調査期間	平成11年2月9日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	坪根伸也	
調査面積	90m ²	時期	――		遺物の保管	――	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
――			――		確認調査		
関係文献							
No.	200	遺跡名	羽田遺跡		所在地	大分市大字羽田	
調査原因	共同住宅建設				調査期間	平成11年2月16日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	塔鼻光司	
調査面積	14m ²	時期	――		遺物の保管	――	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
――			――		確認調査		
関係文献							
No.	201	遺跡名	古国府遺跡群		所在地	大分市大字古国府	
調査原因	ビル建設				調査期間	平成11年2月18日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	塔鼻光司	
調査面積	30m ²	時期	――		遺物の保管	――	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
――			――		確認調査		
関係文献							

No.	202	遺跡名	古国府遺跡群	所在地	大分市大字羽屋
調査原因	アパート建設			調査期間	平成11年2月19日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	32㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		確認調査	
関係文献					
No.	203	遺跡名	賀来糸里跡	所在地	大分市大字中尾
調査原因	病院建設			調査期間	平成11年2月23日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	44㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		確認調査	
関係文献					
No.	204	遺跡名	尚原遺跡	所在地	大分市大字松岡
調査原因	保有屋建設			調査期間	平成11年2月25日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	2.5㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		確認調査	
関係文献					
No.	205	遺跡名	下部遺跡群	所在地	大分市大字下部
調査原因	下部上地区画整理事業			調査期間	平成11年3月17日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	藤沢敏夫
調査面積	25㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		確認調査	
関係文献					
No.	206	遺跡名	玉沢糸里跡	所在地	大分市大字玉沢
調査原因	大型店舗建設			調査期間	平成11年3月1日～平成11年3月10日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	塔鼻光司
調査面積	20ha	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		確認調査	
関係文献					

No. 207	遺跡名	下部遺跡群第106次調査	所在地	大分市大字下部	
調査原因	大分市下部地区土地区画整理事業		調査期間	平成10年4月10日～平成10年4月17日	
調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	坪根伸也・橋本幸治・神尾 至	
調査面積	232㎡	時期	中世末期	遺物の保管	大分市教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
並列する溝状遺構		大形石製フイゴ羽口 タノイ川型産産蹄臼耳直削部破片		並列する溝状遺構は築地跡等の屋敷関連遺構である可能性が考えられる。	
関係文献					
No. 208	遺跡名	下部遺跡群第107次調査	所在地	大分市下部字墳目14-1番地外	
調査原因	開発事業に伴う(区画整理)		調査期間	平成10年4月3日～平成10年5月29日	
調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	河野史郎	
調査面積	385㎡	時期	弥生中～中世・近世	遺物の保管	大分市教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
弥生中期貯蔵穴・中世溝跡 井戸跡・近世溝跡		弥生中期土器・中世輸入陶磁器類 和泉型瓦器残・近世陶磁器類		弥生中期集落の貯蔵穴。 中世期集落又は館の一角にあたる。	
関係文献					
No. 209	遺跡名	下部遺跡群第108次調査	所在地	大分市大字下部	
調査原因	大分市下部地区土地区画整理事業		調査期間	平成10年5月7日～平成10年8月16日	
調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	坪根伸也・幸しのふ	
調査面積	771㎡	時期	弥生～中世	遺物の保管	大分市教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
12世紀代の大溝 鹿塚土坑(古代～中世)		和泉型瓦器残・橋本型瓦器類 京部系土師器模倣土師器小皿		古代官衙遺跡の一角であり、12世紀を中心とする建物群が展開する。	
関係文献					
No. 210	遺跡名	下部遺跡群第109次調査	所在地	大分市大字下部	
調査原因	大分市下部地区土地区画整理事業		調査期間	平成10年10月19日・平成11年1月8日～2月17日	
調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	坪根伸也・刈谷史穂	
調査面積	183㎡	時期	弥生・古墳・古代	遺物の保管	大分市教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
弥生中期後半溝状遺構 奈良時代鹿塚土坑		弥生中期後半土器群		中期後半～末に比定される弥生時代集落に伴う環濠の一部を確認している。	
関係文献					
No. 211	遺跡名	下部遺跡群第110次調査	所在地	大分市大字下部	
調査原因	大分市下部地区土地区画整理事業		調査期間	平成10年8月26日～平成10年10月15日	
調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	坪根伸也・近藤亮弘	
調査面積	1,434㎡	時期	中世・近世	遺物の保管	大分市教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
戦国末期の溝状遺構		京都系土師器他		第106次調査で確認した並列する溝状遺構の延長部を確認する。戦国末期の館跡の一部か。	
関係文献					

No.	212	遺跡名	下部遺跡群第111次調査	所在地	大分市大字下郡
調査原因	大分市下部地区土地区画整理事業			調査期間	平成10年8月25日～平成10年10月15日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	坪根伸也・幸しのぶ
調査面積	165㎡	時期	弥生・近世	遺物の保管	大分市教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
弥生時代中期の上坑 18世紀後半の井戸跡		弥生土器		下部地区の近世集落の一角か。	
関係文献					
No.	213	遺跡名	下部遺跡群第112次調査	所在地	大分市大字下郡
調査原因	大分市下部地区土地区画整理事業			調査期間	平成10年10月2日～平成10年10月20日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	坪根伸也・幸しのぶ
調査面積	552㎡	時期	近世	遺物の保管	大分市教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
近代から現状の盛地層		なし		近世集落跡。	
関係文献					
No.	214	遺跡名	下部遺跡群第113次調査	所在地	大分市大字下郡
調査原因	大分市下部地区土地区画整理事業			調査期間	平成10年10月19日～平成10年12月22日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	坪根伸也・近藤晃弘
調査面積	301㎡	時期	弥生中期～後期	遺物の保管	大分市教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
方形周溝遺構 土器焼成坑？(中期)		弥生中期土器		弥生中期後半を中心とする集落跡。	
関係文献					
No.	215	遺跡名	下部遺跡群第114次調査	所在地	大分市大字下郡
調査原因	大分市下部地区土地区画整理事業			調査期間	平成10年10月26日～平成10年12月4日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	坪根伸也・幸しのぶ
調査面積	451㎡	時期	中世・近世	遺物の保管	大分市教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
中世井戸跡 近世溝状遺構		中・近世陶磁器		近世集落の一部 18世紀後半～末の地層を示す溝状遺構を確認。	
関係文献					
No.	216	遺跡名	下部遺跡群第115次調査	所在地	大分市大字下郡
調査原因	下部小学校新設工事			調査期間	平成10年12月1日～平成11年3月31日
調査機関	大分市教育委員会			調査担当者	坪根伸也
調査面積	7,000㎡	時期	弥生～近世	遺物の保管	大分市教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
遺跡状遺構(中世～近世) 井戸跡(古墳)		円形硯		中世あるいはそれ以前から顕著された道路遺構～近代の土地開発変遷を明確に示す。	
関係文献					

No. 217	遺跡名	下郡遺跡群第116次調査		所在地	大分市大字下郡	
	調査原因	大分市下部地区上地区面整理事業		調査期間	平成10年12月14日～平成11年2月17日	
	調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	坪根伸也・幸しのぶ	
	調査面積	246㎡	時期	弥生・近世	遺物の保管	大分市教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格		
上坑群(貯蔵穴・弥生) 溝状遺構(18世紀末)		弥生土器		近世下部の集落の一角		
関係文献						
No. 218	遺跡名	下郡遺跡群第117次調査		所在地	大分市大字下郡	
	調査原因	大分市下部地区上地区面整理事業		調査期間	平成11年1月18日～平成11年2月17日	
	調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	坪根伸也・幸しのぶ	
	調査面積	120㎡	時期	近世	遺物の保管	大分市教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格		
井戸跡・溝状遺構		近世陶磁器		近世集落跡		
関係文献						
No. 219	遺跡名	多武尾遺跡(横尾遺跡群67次)		所在地	大分市大字横尾字多武尾	
	調査原因	区画整理事業		調査期間	平成10年4月20日～平成10年6月25日	
	調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	池邊千太郎・安部知美	
	調査面積	886㎡	時期	弥生～近世	遺物の保管	大分市横尾地区文化財整理室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格		
独立柱建物跡10棟 溝状遺構5条		輸入陶磁器 天目碗・茶臼		16世紀代の茶臼や天目碗・輸入陶磁器が見られ寺院や有力者の存在が窺える。		
関係文献						
No. 220	遺跡名	多武尾遺跡(横尾遺跡群68次)		所在地	大分市大字横尾字多武尾	
	調査原因	区画整理事業		調査期間	平成10年6月4日～平成10年10月26日	
	調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	池邊千太郎・永松正大	
	調査面積	941㎡	時期	弥生～近世	遺物の保管	大分市横尾地区文化財整理室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格		
弥生の環濠1条 戦国期の溝状遺構と建物跡		輸入陶磁器、五輪塔		中世において道路遺構と集落を結ぶ交通施設の様相が窺える。		
関係文献						
No. 221	遺跡名	多武尾遺跡(横尾遺跡群69次)		所在地	大分市大字横尾2848-3	
	調査原因	集合住宅建設		調査期間	平成10年6月10日～平成11年7月10日	
	調査機関	大分市教育委員会		調査担当者	高島 豊	
	調査面積	252㎡	時期	古墳・古代	遺物の保管	大分市教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格		
懸穴住居 独立建物 逆転土坑(道路伏遺構)		越州窯青磁1-1-a		集落		
関係文献						

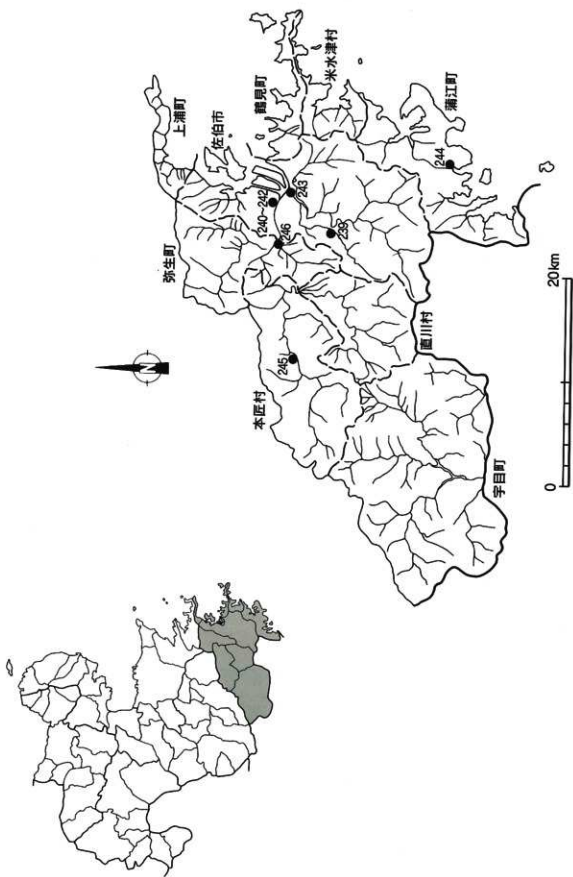
No.	222	遺跡名	多武尾遺跡 (横尾遺跡群70次)		所在地	大分市大字横尾字多武尾	
調査原因	区画整理事業				調査期間	平成10年7月15日～平成10年11月18日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	池邊千太郎・水上 仁	
調査面積	796㎡	時期	戦国時代		遺物の保管	大分市横尾地区文化財整理室	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
溝状遺構 独立柱建物跡		輸入陶磁器 茶臼、京都系土師器小皿			戦国時代の屋敷の区画溝と建物跡。		
関係文献							
No.	223	遺跡名	多武尾遺跡 (横尾遺跡群71次)		所在地	大分市大字横尾	
調査原因	区画整理事業				調査期間	平成10年10月8日～平成11年2月3日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	池邊千太郎・安部知美	
調査面積	1,288㎡	時期	戦国時代～近世		遺物の保管	大分市横尾地区文化財整理室	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
独立柱建物跡		茶臼、陶磁器			戦国時代の屋敷の一角。		
関係文献							
No.	224	遺跡名	多武尾遺跡 (横尾遺跡群72次)		所在地	大分市大字横尾字多武尾	
調査原因	区画整理事業				調査期間	平成10年11月17日～平成11年3月2日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	池邊千太郎・永松正大	
調査面積	886㎡	時期	弥生・戦国時代		遺物の保管	大分市横尾地区文化財整理室	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
円形竪穴住居跡 溝状遺構、土壇竪2基		弥生土器 瓦質土器碗、土師器皿			弥生時代の集落跡。 戦国時代の身分の高い被葬者の墓。		
関係文献							
No.	225	遺跡名	多武尾遺跡 (横尾遺跡群73次)		所在地	大分市大字横尾	
調査原因	区画整理事業				調査期間	平成11年2月1日～平成11年3月8日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	池邊千太郎・新原泰明	
調査面積	787㎡	時期	平安時代		遺物の保管	大分市横尾地区文化財整理室	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
溝状遺構 土師器の礎の埋設遺構2基		土師器の甕・坏・蓋 土鉢			付近に土師器の焼成土坑が存在する可能性があり注目される。		
関係文献							
No.	226	遺跡名	多武尾遺跡 (横尾遺跡群74次)		所在地	大分市大字横尾	
調査原因	区画整理事業				調査期間	平成11年2月16日～平成11年3月31日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	池邊千太郎	
調査面積	1,010㎡	時期	近世		遺物の保管	大分市横尾地区文化財整理室	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
溝状遺構		陶磁器			近世の道路状遺構とその周辺の畑地の状況が窺える。		
関係文献							

No.	227	遺跡名	中安遺跡 (城原A)		所在地	大分市大字城原	
調査原因	都市計画道路工事				調査期間	平成10年4月27日～平成10年7月10日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	藤沢敏夫・神尾 至	
調査面積	1,200㎡	時期	弥生、古墳、中世		遺物の保管	大分市教育委員会文化財資料室	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
方形周溝遺構 竪穴住居跡			土師器、甕 (古墳) 須恵器 (高坏、坏蓋)		戦後の開発でかなり削平をうけていたが、方形周溝遺構は、大分市では数少なく亀塚古墳との関係が注目される。		
関係文献							
No.	228	遺跡名	久土遺跡第4次		所在地	大分市大字久土	
調査原因	都市計画道路工事				調査期間	平成10年7月28日～平成10年12月16日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	藤沢敏夫・神尾 至	
調査面積	1,800㎡	時期	弥生、平安、中世、近世		遺物の保管	大分市教育委員会文化財資料室	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
石列遺構 溝状遺構 土坑			12世紀代の土師器皿、鍋、 白磁片		調査区は字「鬼塚」とよばれ、「墓」の上層部の検出が予想されたが、今回の発掘では墓と認識されるものは検出されなかった。		
関係文献							
No.	229	遺跡名	上野遺跡群・上野ヶ丘東遺跡		所在地	大分市上野ヶ丘東2-24	
調査原因	個人住宅兼貸アパート				調査期間	平成10年6月3日～平成10年7月3日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	後藤典幸	
調査面積	70㎡	時期	室町		遺物の保管	大分市教育委員会文化財資料室	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
独立柱建物			京都系土師器		調査区は道王畑遺跡の南西30m程のところに位置する。大友関連の遺跡であろう。		
関係文献							
No.	230	遺跡名	中世大友城下町跡 (第4次)		所在地	大分市錦町3丁目4349-2	
調査原因	共同住宅建設				調査期間	平成10年12月14日～平成11年3月31日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	河野史郎	
調査面積	350㎡	時期	中世		遺物の保管	大分市教育委員会文化財資料室	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
中世の井戸・虎衆土坑、溝跡 道路、集石			輸入陶磁器類・京都系土師器・ 在地系糸切り土師器・瓦質土師 雑器類		中世城下町		
関係文献							

No.	231	遺跡名	津守遺跡 (第3次)		所在地	大分市大字津守字修善寺173-3外	
調査原因	共同住宅建設				調査期間	平成10年5月25日～平成10年6月30日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	橋本平治	
調査面積	502㎡	時期	中世		遺物の保管	大分市教育委員会文化財資料室	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
七坑・七橋麻・柱穴群		備前焼磁鉢・京都系土師器			中世寺院に関連する遺跡か？		
関係文献							
No.	232	遺跡名	上野廻跡群 (第2次)		所在地	大分市上野丘1丁目487番8・9	
調査原因	宅地造成				調査期間	平成10年7月30日～平成10年7月31日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	堀地潤一	
調査面積	40㎡	時期	奈良、平安		遺物の保管	大分市教育委員会文化財資料室	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
掘り込み地業跡 大型柱穴		軒丸瓦			上野廃寺関連施設 (確認調査)		
関係文献							
No.	233	遺跡名	府内城下町跡 (第11次)		所在地	大分市豊揚町1-2-3	
調査原因	ビル建設				調査期間	平成10年7月28日～平成10年11月2日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	橋本平治	
調査面積	約200㎡	時期	鎌倉、室町(戦国)、江戸		遺物の保管	大分市教育委員会文化財資料室	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
石列、溝、井戸跡、土城基		朝鮮王朝産白磁碗、志野向付、和泉型瓦葺櫓			府内城三ノ丸ならびに同慈寺の一角中世並和郷に位置する集落跡。		
関係文献							
No.	234	遺跡名	中世大友城下町跡		所在地	大分市錦町2丁目3029-1・5・6	
調査原因	共同住宅建設				調査期間	平成10年9月17日～平成10年9月18日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	培鼻光尚	
調査面積	75㎡	時期	16世紀末		遺物の保管	大分市教育委員会文化財資料室	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
独立柱建物跡 欄列、溝状遺構		京都系土師器、苜花、備前黒輪陶器、草州窯系陶磁器片			町屋等の遺構群 (確認調査)		
関係文献							

No.	235	遺跡名	大道糸里跡		所在地	大分市大道2丁目	
調査原因	道路建設				調査期間	平成10年6月29日～平成10年7月6日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	塩地潤一	
調査面積	95㎡	時期	不明		遺物の保管	——	
主な遺構			主な遺物			遺跡の性格	
井戸跡、土坑			なし			集落跡	
関係文献							
No.	236	遺跡名	中世大友城下町跡		所在地	大分市錦町2丁目3210番3	
調査原因	個人住宅建設				調査期間	平成10年9月25日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	塔原光司	
調査面積	12㎡	時期	16世紀末		遺物の保管	大分市教育委員会文化財資料室	
主な遺構			主な遺物			遺跡の性格	
溝状遺構 ビット			京都系土師器			町屋等の遺構群 (試掘調査)	
関係文献							
No.	237	遺跡名	中世大友城下町跡		所在地	大分市錦町2丁目3374-4	
調査原因	病院増築				調査期間	平成10年12月3日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	塔原光司	
調査面積	14.5㎡	時期	16世紀末		遺物の保管	大分市教育委員会文化財資料室	
主な遺構			主な遺物			遺跡の性格	
溝状遺構 ビット			京都系土師器 青花、瀬戸美濃、備前			町屋等の遺構群 (試掘調査)	
関係文献							
No.	238	遺跡名	中世大友館跡		所在地	大分市顕徳町3丁目	
調査原因	下水道工事				調査期間	平成11年1月15日～平成11年1月27日	
調査機関	大分市教育委員会				調査担当者	藤沢敏夫	
調査面積	約80㎡	時期	中世		遺物の保管	——	
主な遺構			主な遺物			遺跡の性格	
溝状遺構			なし			立会調査	
関係文献							

佐伯・南海部地域



No.	239	遺跡名	森の木道跡	所在地	佐伯市大字岸内字森の木
調査原因	県道道路改良工事			調査期間	平成10年7月1日～平成10年10月27日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	吉武牧子・豊田徹士
調査面積	約800㎡	時期	縄文早期	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室

位置

調査地は堅田川の支流である大越川の左岸、段丘の端部にある。耕作のための盛り土、削平がなされていたが大きな削平は受けていなかった。また、調査地の南西側（山側）には段丘が広がっており今回の調査では段丘の一部を調査したにすぎない。

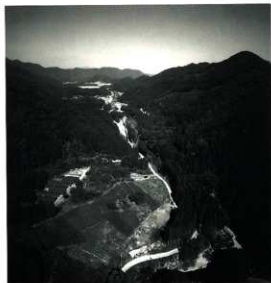


遺跡の位置 (1/25,000「上直見」)

遺構

縄文時代早期の包含層が調査地のほぼ全面に確認され、厚いところで40cm程度堆積していた。包含層上層部からは角礫（焼成をうけ割れたもの）の散在する集石遺構がほぼ全面に検出、下層部からは河原石を主体とした円形の集石炉12基が出土した。また、包含層をすべて取り去った時点で長楕円形の土坑2基も確認されている。

集石炉にはいわゆる花弁型と呼ばれる形態のものは存在しないが、比較的密に積まれたものが中心で、掘り込みは確認できなかった。規模はおおむね直径1mほどで、地山の傾斜に対して直行する一定レベルにつらなって作られている。集石炉同士の重複がないため、時期差等詳しいことは現段階ではわからないが、少なくとも上層で検出された集石遺構とは土器の型式変化とリンクして時期差が追えるのではないかとおもわれる。2基の土坑に関しては遺物も少なくよくわかっていないが、両方とも傾斜に対して長軸が平行するように作られている。



森の木道跡遠景（南から）

遺物

出土遺物は、押型文土器片、チョッパー、石鎌、ナイフ形石器等。

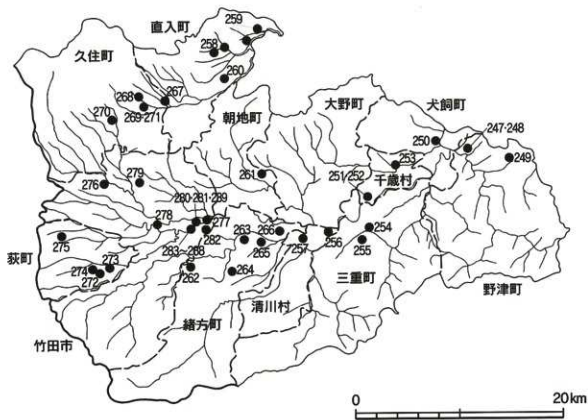
まとめ

調査の結果、狭い調査範囲の中で12基にもよる集石炉を検出するに至った。遺跡の保存状態は良好で、段丘が南西方向に広がるためにこの遺跡が集落跡として展開する可能性もある。

(豊田徹士)

No.	240	遺跡名	佐伯城下町	所在地	佐伯市大手町3丁目132番2
調査原因	病院リハビリルーム建設			調査期間	平成10年5月14日～平成10年5月20日
調査機関	佐伯市教育委員会			調査担当者	吉武牧子
調査面積	21.3㎡	時期	近世	遺物の保管	佐伯市教育委員会社会教育課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
石列遺構 埋篋		近世陶磁器類 鉄製品		佐伯城下町遺跡内に位置し、絵図によると武家屋敷となっている。	
No.	241	遺跡名	佐伯城下町	所在地	佐伯市字西谷132番4
調査原因	駐車場建設			調査期間	平成11年1月11日～平成11年1月12日
調査機関	佐伯市教育委員会			調査担当者	吉武牧子
調査面積	30㎡	時期	近世	遺物の保管	佐伯市教育委員会社会教育課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		近世陶磁器類 瓦類		佐伯城下町遺跡内に位置するが、遺構は検出できなかった。	
No.	242	遺跡名	佐伯城下町	所在地	佐伯市大手町3丁目132番2
調査原因	病院施設建設			調査期間	平成11年3月3日～平成11年3月31日
調査機関	佐伯市教育委員会			調査担当者	吉武牧子
調査面積	57.8㎡	時期	近世	遺物の保管	佐伯市教育委員会社会教育課
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
石組遺構 ゴミ穴・瓦溜		近世陶磁器類、土器類 鉄・銅製品、瓦類		5月に調査した地点の同一敷地内、石組遺構は建物基礎と考えられる。	
関係文献					
No.	243	遺跡名	池田地区	所在地	佐伯市大字池田
調査原因	池田川河川改修			調査期間	平成10年8月3日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	栗原 真
調査面積	2,000㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					
No.	244	遺跡名	畑ノ浦地区	所在地	蒲江町畑ノ浦
調査原因	国道388号道路改良工事			調査期間	平成10年6月25日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	栗原 真
調査面積	2,000㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					
No.	245	遺跡名	井ノ上遺跡	所在地	本匠村大字井ノ上
調査原因	県道三重弥生線道路改良工事			調査期間	平成11年2月25日～平成11年2月26日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	吉田 寛
調査面積	約4,000㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		明瞭な遺構がなく遺物も認められなかった。	
関係文献					
No.	246	遺跡名	門田地区	所在地	弥生町大字門田
調査原因	平成10年度井崎川河川局部改良事業			調査期間	平成10年12月18日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	高橋信武
調査面積	300㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	

竹田・直入・大野地域



No.	247	遺跡名	千塚地区	所在地	野津町大字千塚
調査原因	県道吉野原犬飼線道路改良事業			調査期間	平成10年12月25日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	高橋信武
調査面積	1,200㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
石塔		なし		墓地か?	
関係文献					
No.	248	遺跡名	千塚・西道跡群	所在地	野津町大字平野
調査原因	県道吉野原犬飼線道路改良事業			調査期間	平成11年1月26日～平成11年2月3日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	原田昭一
調査面積	50㎡	時期	中世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
塚・石造物		石器		道路横に立てられた板碑・自然石塔壱群である。各石造物群の下部には石組みが認められた。	
関係文献					
No.	249	遺跡名	大南野津地区	所在地	野津町大字都原
調査原因	広域営農団地農道整備事業			調査期間	平成10年5月19日～平成10年5月22日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	長田大輔・原田昭一
調査面積	約2,000㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		試掘調査の結果、水田下に旧地形の低湿地状粘土層が広がり、以下、凝灰岩の岩盤がみられた。粘土層中から近世陶磁器をはじめとした若干の遺物が出土したが、明確な遺構は確認出来なかった。	
関係文献 原田昭一「大分県内遺跡発掘調査概報7」大分県教育委員会 1999					
No.	250	遺跡名	下津尾地区	所在地	犬飼町大字下津尾
調査原因	県営犬飼町上津尾住宅			調査期間	平成10年11月16日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	高橋信武
調査面積	500㎡	時期	縄文	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		縄文後期土器・十字形石器		遺跡は削平され、遺物は二次堆積層から出土した。	
関係文献					
No.	251	遺跡名	原田第2遺跡 (大野川中央地区)	所在地	千歳村大字前田
調査原因	畑地帯総合土地改良事業			調査期間	平成10年8月27日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	宮田 剛・原田昭一
調査面積	約10ha	時期	旧石器～近世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
住居跡・土坑・ピット・溝・近世墓		剥片石器・扁平打製石器 弥生土器・中世陶磁器		5箇所において遺構・遺物の確認が出来た。1トレンチでは、竪穴住居跡・土坑・柱穴・溝など多くの遺構のプランが確認出来た。各遺構の時期は明確には判断できないものの、剥片石器・扁平打製石器・弥生土器・中世陶磁器など多種多様な遺物が出土しているため、旧石器時代～中世まで各時代の遺構・遺物が存在するものと考えられた。2・3トレンチにおいては、柱穴群が、また、4トレンチでは径0.8～1mの円形土坑群が確認出来た。また、この他に寛文期(1661～1673)の紀年銘を持つ近世墓碑が築かれている場所が確認出来た。	
関係文献 原田昭一「大分県内遺跡発掘調査概報7」大分県教育委員会 1999					

No.	252	遺跡名	原田第2遺跡	所在地	千歳村大字前田字原地
調査原因	ほ場整備事業			調査期間	平成10年11月3日～平成11年3月8日
調査機関	千歳村教育委員会			調査担当者	宮田 剛
調査面積	1,200㎡	時期	後期旧石器他	遺物の保管	千歳中央公民館
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
石器集中部、竪穴式住居跡、近世墓		ナイフ形石器、角錐状石器、扁平打製石器他		遺跡は旧石器の良好な資料を中心に縄文後期、弥生、近世の複合遺跡となっている。調査面積が狭小であったため遺物の出土量はきわめて少ないが、過去2回の調査で明らかにされなかった部分が確認された。	
関係文献	宮田 剛「千歳地区遺跡群発掘調査概報Ⅴ 原田第2遺跡原地区」千歳村教育委員会 1999				
No.	253	遺跡名	五郎丸遺跡	所在地	千歳村大字石田五郎丸703,656番地・字ナラノキ45番地
調査原因	農道建設			調査期間	平成10年5月8日～平成10年9月30日
調査機関	千歳村教育委員会			調査担当者	宮田 剛
調査面積	1,100㎡	時期	近世	遺物の保管	千歳村中央公民館
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
近世墓96基		肥前系磁器染付碗、瓦質磁器器、銭貨、木製数珠玉、人骨		周知の遺跡である「古城、五郎丸遺跡」(城跡)の西にのびる丘陵斜面の削平地にある近世墓地である。A区、B区、C区と分けて調査を行った。おおむね18世紀末～明治初頭にかけて作られた墓地群と考えられる。	
関係文献	宮田 剛「千歳地区遺跡群発掘調査概報Ⅳ 五郎丸遺跡」千歳村教育委員会 1999				
No.	254	遺跡名	市場遺跡(泉原地区)	所在地	三重町大字市場字泉原
調査原因	小学校校舎建設			調査期間	平成10年8月19日～平成10年10月16日
調査機関	三重町教育委員会			調査担当者	諸岡 郁
調査面積	150㎡	時期	近世・近代	遺物の保管	三重町中央公民館
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
建物跡		陶器、磁器、ガラス瓶、古銭		45m×10m程度の建物跡等が検出でき、直接伴う遺物は不明であるが、幕末～明治期の時期が推定できる。白椀藩三重代官所跡の伝承地であり、その可能性も考えられる。	
関係文献					
No.	255	遺跡名	竜ヶ鼻横穴墓群	所在地	三重町大字赤嶺字松久保
調査原因	宅地造成			調査期間	平成10年9月1日～平成10年12月22日
調査機関	三重町教育委員会			調査担当者	諸岡 郁
調査面積	30㎡	時期	古墳時代	遺物の保管	三重町中央公民館
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
横穴墓、古墳		須恵器、土師器、鉄器 円筒埴輪		工事区域内に位置する5基を調査し、6世紀末～7世紀代と推定できる。遺物の中には古墳から落下したと思われる埴輪片も出土した。	
関係文献					

No.	256	遺跡名	岩戸遺跡	所在地	清川村大字白尾字岩戸
調査原因	村道拡幅			調査期間	平成10年8月5日～平成10年8月7日
調査機関	清川村教育委員会			調査担当者	村上久和
調査面積	60m ²	時期	後期旧石器時代	遺物の保管	清川村教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
包含層		ナイフ形石器、石核		後期旧石器時代の良好な包含層。	
関係文献	村上久和「岩戸遺跡発掘調査概報」清川村教育委員会 1999				
No.	257	遺跡名	柚の木道跡	所在地	清川村大字白尾字柚の木
調査原因	携帯電話電波中継塔工事			調査期間	平成10年3月10日
調査機関	清川村教育委員会			調査担当者	栗田勝弘
調査面積	100m ²	時期	旧石器時代	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		流紋岩剥片1点 扁平打製石斧1点表採		遺物は希薄	
No.	258	遺跡名	上田北地区	所在地	直入町大字下田北
調査原因	担い手育成基盤整備事業			調査期間	平成10年11月4日～平成10年11月5日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	原田昭一
調査面積	約15ha	時期	——	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		近世陶磁器 中世土器		試掘の結果、若干の近世陶磁器や中世の土器が出土したが、本調査に及ぶほどのものではなかった。	
関係文献	原田昭一「大分県内遺跡発掘調査概報7」大分県教育委員会 1999				
No.	259	遺跡名	橋本・仲村・飛龍野・塚手地区	所在地	直入町大字下田北
調査原因	農用地総合整備事業			調査期間	平成10年11月26日～平成10年11月27日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	原田昭一
調査面積	約30ha	時期	縄文～近世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
集石・ピット		縄文土器・土師質土器		橋本地区の試掘調査の結果、若干の近世陶磁器や中世の土器が出土したが、本調査に及ぶほどのものではなかった。 仲村地区での試掘の結果、縄文土器をはじめ土師質土器が出土し、また、中世のものと考えられる掘立柱建物群が検出できた。 飛龍野地区には墓として伝えられる1×1×0.5mを測る集石遺構、および中世期の五輪塔が上にある6×4×0.5mの塚が見られた。この塚に対し地元では「キョウツカ(経塚?)」の呼称が使われていることが確認出来た。 塚手地区での試掘の結果、若干の近世陶磁器や中世の土器等の遺物や土坑が若干検出されたのみであった。	
関係文献	原田昭一「大分県内遺跡発掘調査概報7」大分県教育委員会 1999				
No.	260	遺跡名	牧ノ原・北道跡群	所在地	直入町大字長湯
調査原因	米乾燥調整貯蔵施設			調査期間	平成10年7月6日～平成10年9月30日
調査機関	直入町教育委員会			調査担当者	橋本一彦
調査面積	804m ²	時期	縄文時代早期	遺物の保管	直入町中央公民館
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		押型土器		調査区は牧ノ原・北道跡群の北端に位置するが削平が著しい。	

No.	261	遺跡名	県指定有形文化財石幢		所在地	朝地町大字上尾塚	
調査原因	県指定有形文化財石幢保存修理事業				調査期間	平成11年2月1日～平成11年2月26日	
調査機関	朝地町教育委員会				調査担当者	吉野公紀	
調査面積	25m ²	時期	中世		遺物の保管	朝地町教育委員会	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
土壌			碑石絛		石幢の下部より碑石絛の収められた土壌の掘り込みを確認した。 石幢に記された「浄上三部経一石一字」の銘と合うため、石幢の重要性とともに重要な遺構であることが判明した。		
関係文献							
No.	262	遺跡名	頭田遺跡		所在地	緒方町大字大石	
調査原因	農業基盤整備				調査期間	平成10年11月11日～平成11年1月27日	
調査機関	緒方町教育委員会				調査担当者	高野弘之	
調査面積	1,600m ²	時期	縄文早期・後期、古墳		遺物の保管	緒方町立歴史民俗資料館	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
古墳時代住居跡3基 溝状遺構3条（時期不明）			古墳時代壺・瓶形土器 須器器片、土師器片		晩期農耕論で著名な大石遺跡の北西2kmの川沿い水田地帯で検出。古墳時代の住居跡は町内初検出。土師器の高坪から6世紀後半の住居跡と判明。		
関係文献							
No.	263	遺跡名	荒平城跡		所在地	緒方町大字久土知	
調査原因	N T T携帯電話無線基地局建設				調査期間	平成10年7月3日～平成10年7月6日	
調査機関	緒方町教育委員会				調査担当者	高野弘之	
調査面積	400m ²	時期	中世		遺物の保管	——	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
山城伝承のある場所であるが、明確な遺構は確認できず。			なし		中世・三代河内守居城と伝承される。久土知集落には三代氏の末裔が居住し、大友宗麟感状等を所持する。		
関係文献 『緒方村誌』緒方村役場 1934『緒方碑文集漢文編其一』高野好古 1968							
No.	264	遺跡名	大平遺跡		所在地	緒方町大字蘭川	
調査原因	デジタルツーカー九州携帯電話無線基地局建設				調査期間	平成10年9月18日	
調査機関	緒方町教育委員会				調査担当者	高野弘之	
調査面積	400m ²	時期	中世		遺物の保管	なし	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
なし			なし		町指定文化財小野五輪塔がある要神社に近接する高台で、緒方平野が見下ろせる平坦地であるが、遺構・遺物は確認できなかった。		
関係文献							

No.	265	遺跡名	緒方条里遺跡・西白寺西遺跡	所在地	緒方町大字井上
調査原因	広域農道建設			調査期間	平成11年2月1日～平成11年2月5日
調査機関	緒方町教育委員会			調査担当者	高野弘之
調査面積	1,000㎡	時期	中世・近世	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
条里跡		なし		緒方平野に遡る唯一の条里跡に近接し広域農道が建設されたが、基盤整備で破壊されたため遺構なし。	
関係文献					
No.	266	遺跡名	緒方宮迫東・西石仏	所在地	緒方町大字久上知
調査原因	遺構確認調査			調査期間	平成11年3月15日～平成11年3月31日
調査機関	緒方町教育委員会			調査担当者	高野弘之
調査面積	100㎡	時期	平安～鎌倉	遺物の保管	緒方町立歴史民俗資料館
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
覆屋建設時の柱穴		宮迫東石仏境内から土師質土器1点 寛水通寶1枚 古銭1枚		宮迫東石仏は、平安時代後期から鎌倉時代にかけて造られたといわれる。今回東石仏前庭部トレンチから出土した土師質土器の年代は、12世紀後半又は14世紀前半のものとして推定される。土器が1点のみなので年代の断定が困難であるが、遺物という形で造跡時期の推定資料の一つを採取できたことは成果であった。	
関係文献					
『大分県の文化財』大分県教育委員会 1991					
No.	267	遺跡名	中殿遺跡	所在地	久住町大字仏原下市・石田
調査原因	ほ場整備			調査期間	平成10年5月13日～平成10年9月3日
調査機関	久住町教育委員会			調査担当者	標浦幸徳
調査面積	5,480㎡	時期	奈良～平安	遺物の保管	久住町教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
竪穴住居42軒 溝跡		7世紀後半～8世紀前半の土器、須恵器、鉄器		近接する石田遺跡と密接な関係にあったと思われる長期にわたる集落跡	
関係文献					
No.	268	遺跡名	尾根遺跡	所在地	久住町大字有氏字小城原
調査原因	ほ場整備			調査期間	平成10年9月7日～平成10年10月29日
調査機関	久住町教育委員会			調査担当者	標浦幸徳
調査面積	3,000㎡	時期	弥生時代後期	遺物の保管	久住町教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
竪穴住居跡10軒 土坑		土器、鉄器		近接する大集落である小城原遺跡の分村。	
関係文献					
No.	269	遺跡名	上七里田遺跡	所在地	久住町大字有氏字上七里田
調査原因	ほ場整備			調査期間	平成10年10月30日～平成10年11月19日
調査機関	久住町教育委員会			調査担当者	標浦幸徳
調査面積	2,387㎡	時期	弥生時代後期	遺物の保管	久住町教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
竪穴住居跡3軒 土坑		土器、鉄器		近接する大集落である小城原遺跡の分村。	
関係文献					

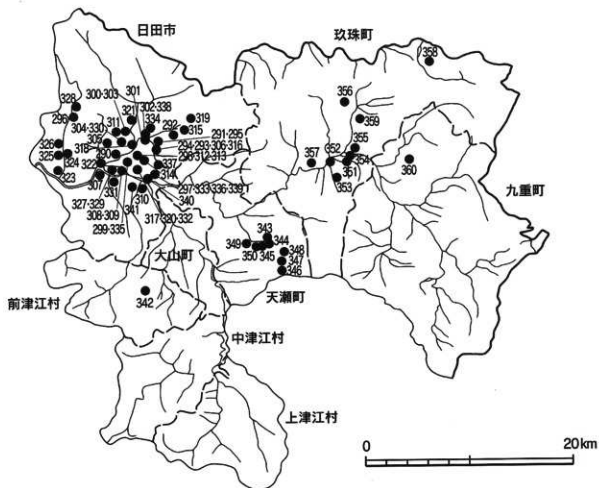
No.	270	遺跡名	青柳遺跡群	所在地	久住町大字久住字脇
調査原因	ほ場整備			調査期間	平成11年1月22日～平成11年1月25日
調査機関	久住町教育委員会			調査担当者	榎浦幸徳・宮内克己
調査面積	21,400㎡	時期	中世～近世	遺物の保管	久住町教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
柱穴、竪穴遺構 溝跡		中世～近世の土器		周知遺跡の青柳遺跡群の一部。	
関係文献					
No.	271	遺跡名	有氏地区	所在地	久住町大字有氏
調査原因	ほ場整備			調査期間	平成11年1月20日
調査機関	久住町教育委員会			調査担当者	榎浦幸徳・宮内克己
調査面積	8,600㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					
No.	272	遺跡名	西福寺地区	所在地	荻町西福寺
調査原因	農免農道整備事業			調査期間	平成10年12月1日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	原田昭一・荒井孝廣
調査面積	約0.5ha	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献 原田昭一『大分県内遺跡発掘調査概報7』大分県教育委員会 1999					
No.	273	遺跡名	岩戸口遺跡	所在地	荻町大字柏原字三洲2532-2
調査原因	柏原地区岩戸水口線道路拡幅整備事業			調査期間	平成10年7月9日
調査機関	荻町教育委員会			調査担当者	荒井孝廣
調査面積	1,900㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					
No.	274	遺跡名	陣家の辻遺跡	所在地	荻町大字柏原字米納迫・近戸
調査原因	北原敵数線道路拡幅整備事業			調査期間	平成11年1月25日
調査機関	荻町教育委員会			調査担当者	荒井孝廣
調査面積	400㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					
No.	275	遺跡名	下萩傍遺跡	所在地	荻町大字霧波122番地
調査原因	携帯電話無線基地局設置事業			調査期間	平成11年3月25日
調査機関	荻町教育委員会			調査担当者	荒井孝廣
調査面積	500㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					

No.	276	遺跡名	炭竈遺跡	所在地	竹田市大字炭竈
調査原因	県道白丹竹田線道路改良工事			調査期間	平成10年5月26日～平成10年12月2日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	高橋信武
調査面積	1,500㎡	時期	縄文・近世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
竪穴住居跡(弥生・古墳時代)		縄文早期コブ付土器 幕末ヨーロッパ陶器		集落	
関係文献					
No.	277	遺跡名	史跡岡城跡	所在地	竹田市大字竹田2889番地外
調査原因	史跡整備			調査期間	平成10年8月24日～平成11年3月31日
調査機関	竹田市教育委員会			調査担当者	佐伯 治
調査面積	510㎡	時期	近世	遺物の保管	竹田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
大手門跡(礎石、水筒状遺構、香所跡等)、本丸跡(門跡、排水遺構、階段等)		肥前系陶磁器類、瓦等		本年度は、整備の事前調査として、大手口周辺の門跡、二の丸から本丸へ上る段階部分及び排水遺構等の整備を目的とした調査を実施した。	
関係文献 平成10年度 史跡岡城跡保存修理事業報告書「史跡岡城跡」14 竹田市教育委員会 1999					
No.	278	遺跡名	堀付地区	所在地	竹田市大字平田字堀付外
調査原因	県営担い手育成基盤整備			調査期間	平成11年1月5日～平成11年1月29日
調査機関	竹田市教育委員会			調査担当者	真田博幸
調査面積	100,000㎡	時期	弥生時代中期～後期	遺物の保管	竹田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
住居跡(弥生時代中期1基、弥生時代後期1基)		土器、石器		調査区は、稲葉川により形成された丘陵裾にあたり、対岸の平田地区には弥生から古墳時代にかけての集落跡が確認されており、当地区も同様な集落遺跡の可能性が有る。	
関係文献					
No.	279	遺跡名	城原地区	所在地	竹田市大字米納
調査原因	警察交番新築			調査期間	平成10年8月3日～平成10年8月26日
調査機関	竹田市教育委員会			調査担当者	真田博幸
調査面積	400㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		城原地区は周辺に多くの遺跡が存在し、調査区の近くには城原八幡社があることから、多くの成果が期待されたが、すでに攪乱をうけており遺構検出には至らなかった。	
関係文献					
No.	280	遺跡名	城下町遺跡(立花屋敷)	所在地	竹田市大字竹田町寺町
調査原因	病院駐車場建設			調査期間	平成10年9月1日～平成10年9月22日
調査機関	竹田市教育委員会			調査担当者	真田博幸
調査面積	500㎡	時期	近世	遺物の保管	竹田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
建物跡2棟(礎石、屋敷の境溝、土坑等)		肥前系陶磁器類(18世紀後半～明治)		今回調査した立花屋敷は城下町の西端の寺町に位置する。隣接して岡藩の迎賓館にあたる御倉屋がある。調査により江戸時代の町屋建物の構造を知る資料が得られた。	
関係文献					

No. 281	遺跡名	城下町遺跡 (銭座跡)	所在地	竹田市大字竹田字浦町	
調査原因	病院施設新築		調査期間	平成10年10月2日～平成10年10月30日	
調査機関	竹田市教育委員会		調査担当者	真田博幸	
調査面積	500㎡	時期	近世～近代	遺物の保管	竹田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
建物跡 (明治期以降)		磁石 (銭繰りぎ用)、埴埴、銭 (寛永通宝)		調査区は、城下町北側稲葉川の川辺に立地し、寛永13年に設置された岡藩銭座推定地に隣接する。調査により銭座の関連遺物が出土し、銭座の範囲を裏付ける資料になるとと思われる。	
関係文献					
No. 282	遺跡名	片ヶ瀬遺跡	所在地	竹田市大字片ヶ瀬	
調査原因	農免道路整備		調査期間	平成10年11月2日～平成11年12月21日	
調査機関	竹田市教育委員会		調査担当者	真田博幸	
調査面積	2,000㎡	時期	縄文～弥生時代	遺物の保管	竹田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
縄文時代の包含層、弥生後期の住居跡		縄文晩期の土器・石器、弥生後期の土器		片ヶ瀬遺跡は、竹田市の東部に位置し、その地形は史跡岡城跡の東南、白滝川右岸の火山性台地にあたる。この台地上には、縄文から近世までの遺跡が多く存在する。	
関係文献					
No. 283	遺跡名	中川午之助屋敷跡	所在地	竹田市大字竹田字芝原	
調査原因	国道502号線改良工事		調査期間	平成10年8月3日～平成11年2月26日	
調査機関	大分県教育委員会・竹田市教育委員会		調査担当者	城戸 誠	
調査面積	1,150㎡	時期	近世	遺物の保管	竹田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
柱穴群、排水施設、道路遺構		肥前系陶磁器類		中川午之助屋敷群は、岡藩家老中川午之助下屋敷周辺に展開する近世武家屋敷群であり、岡城から西に延びる丘陵尾根部に位置する。	
関係文献					
No. 284	遺跡名	喜多村家屋敷北遺跡	所在地	竹田市大字竹田字渡内	
調査原因	国道502号線改良工事		調査期間	平成10年8月3日～平成10年9月22日	
調査機関	大分県教育委員会・竹田市教育委員会		調査担当者	城戸 誠	
調査面積	200㎡	時期	近世	遺物の保管	竹田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
道路遺構、土坑		肥前系陶磁器類		喜多村家屋敷北遺跡は、稲葉川左岸谷沿いに展開する近世武家屋敷跡である。調査区が塚数主体部をはずれており、入り口付近の通路跡、土坑を検出した。	
関係文献					
No. 285	遺跡名	飯野家屋敷跡	所在地	竹田市大字竹田字渡内	
調査原因	国道502号線改良工事		調査期間	平成10年4月27日～平成10年9月22日	
調査機関	大分県教育委員会・竹田市教育委員会		調査担当者	城戸 誠	
調査面積	200㎡	時期	近世	遺物の保管	竹田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
建物跡、蔵跡、溝状遺構		肥前系陶磁器類		飯野家屋敷跡は、稲葉川左岸谷沿いに展開する近世武家屋敷跡である。屋敷地中央部は重機により攪乱を受けていたが、蔵跡、建物跡の一部、溝状遺構を検出した。	
関係文献					

No.	286	遺跡名	稲荷社跡	所在地	竹田市大字竹田字渡内
調査原因	国道502号線改良工事			調査期間	平成10年5月6日～平成10年9月22日
調査機関	大分県教育委員会・竹田市教育委員会			調査担当者	城戸 誠
調査面積	100㎡	時期	近世	遺物の保管	竹田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
礎石、鳥居跡、参道跡		肥前系陶磁器類		稲荷社跡は、稲葉川左岸の丘陵尾根筋先端部に位置する。調査により、参道、鳥居跡、礎石等が検出された。隣接して近世墓地区が存在する。	
関係文献					
No.	287	遺跡名	野殿家屋敷跡	所在地	竹田市大字竹田字芝原
調査原因	市道岡城線改良工事			調査期間	平成10年4月27日～平成10年11月27日
調査機関	竹田市教育委員会			調査担当者	城戸 誠
調査面積	500㎡	時期	近世	遺物の保管	竹田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
建物跡、溝状遺構、井戸跡、土坑、池跡		肥前系陶磁器類、瓦、土師皿		野殿家屋敷は、岡城から西に広がる丘陵上に存在する近世武家屋敷跡である。	
関係文献					
No.	288	遺跡名	下石家屋敷跡	所在地	竹田市大字竹田字上角
調査原因	上水施設建設工事			調査期間	平成10年5月6日～平成11年3月8日
調査機関	竹田市教育委員会			調査担当者	城戸 誠
調査面積	500㎡	時期	江戸～明治	遺物の保管	竹田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
土坑、井戸跡、建物跡、門跡		肥前系陶磁器類、瓦、土師皿		下石家屋敷跡は、岡城から西に広がる丘陵上に存在する。三方を崖、周囲を石垣で囲い、櫓を備えた屋敷跡であり、岡城西側の守りの重要な位置に存在する。	
関係文献					
No.	289	遺跡名	由学館跡	所在地	竹田市大字竹田
調査原因	稲葉川河川改修			調査期間	平成10年12月1日～平成11年2月26日
調査機関	大分県教育委員会・竹田市教育委員会			調査担当者	佐伯 治
調査面積	2,500㎡	時期	江戸～昭和	遺物の保管	竹田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
石垣、通路		肥前系陶磁器類、瓦		田岡藩蒲校由学館跡は、旧城下町の北東に位置し、近代以降竹田小学校となっていた。今回の調査により、蒲校の門に通じる通路、排水施設が検出された。	
関係文献					

日田・玖珠地域



No.	290	遺跡名	吹上遺跡 (第9次)	所在地	日田市大字小迫字吹上原
調査原因	範囲確認			調査期間	平成10年7月22日～平成10年8月31日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	土居和幸・下村 智
調査面積	291㎡	時期	弥生時代	遺物の保管	日田市教育委員会

位置

三隈川の支流の花月川と二串川に挟まれた標高140mの阿蘇溶岩台地上に立地する。遺跡の広がる台地部は日田盆地の北を限り、直接市街地と接する位置にあたる。平地との比高差は50mで、日田盆地が一望できる。平成7年度の6次調査では、弥生中期後半の特定集団墓が発見され、細形銅剣・銅戈・貝輪・玉類など豊富な副葬品が出土している。



遺跡の位置 (1/25,000 [日田])

遺構

台地東側のA地点からは弥生前期後半～末の袋状貯蔵穴2基、中期初頭の袋状貯蔵穴3基、井戸状の不明遺構1基、その他ピット群などが検出された。西側のB地点では弥生前期後半～末の袋状貯蔵穴2基、土坑2基、中期初頭の袋状貯蔵穴2基、土坑2基、竪穴住居跡1軒、中期前半の袋状貯蔵穴1基、土坑2基、竪穴住居跡1軒、中期後半～末の土坑2基、成人用甕棺墓4基、小児用甕棺墓4基、木棺墓2基、土坑墓2基、後期前半の甕棺石棺併用墓1基、石蓋土壘墓1基などである。その他、時期ははっきりしないが、竪穴遺構1基、土坑4基、溝2条、ピット群などがある。



ST05 甕棺石棺併用墓

遺物

袋状貯蔵穴や竪穴住居跡から板付Ⅱ式土器、

金海式の大甕、城ノ越式土器などの甕や太型蛤刃石斧、扁平片刃石斧、石包丁、磨製石剣などの大陸系磨製石器群が出土している。墳墓からの副葬遺物はないが赤色顔料や人骨が残っているものがあった。

まとめ

今回の確認調査では、台地東端部まで袋状貯蔵穴などの生活遺構の広がりが明らかになった。B地点では、弥生前期後半から中期前半に属する袋状貯蔵穴や方形・円形竪穴住居跡が発見され、この時期の集落が確認できた。中期後半以降になると墓地が形成され、木棺墓や甕棺墓が営まれる。甕棺墓には、口縁打欠きの壺型土器や、跳ね上げ口縁を有する大型の甕が使用されるなど地域的特色を示し興味深い。

(下村 智)

文献

日田市教育委員会 「吹上遺跡～第9次調査の概要報告～」 1999年

No.	291	遺跡名	塔ノ本古墳	所在地	日田市大字有田字尾其
調査原因	道路建設			調査期間	平成10年4月1日～平成10年6月30日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	土居和幸
調査面積	1,250㎡	時期	古墳	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
古墳、横穴式石室		鉄刀		墓地	
関係文献					
No.	292	遺跡名	山口遺跡2次	所在地	日田市大字東有田字山口
調査原因	ほ場整備			調査期間	平成10年4月7日～平成10年6月7日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	山路康弘
調査面積	1,000㎡	時期	古墳	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
柱穴、土坑、溝、井戸、塚穴 住居跡、掘立柱建物		石器、須恵器、土師器、輸入 陶磁器、近世陶磁器、銅銭、 かんざし、煙管		集落跡	
関係文献					
No.	293	遺跡名	長迫遺跡C地点	所在地	日田市大字有田字長迫
調査原因	道路建設			調査期間	平成10年4月17日～平成10年9月6日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	吉田博嗣
調査面積	3,000㎡	時期	古墳・古代	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
塚穴住居跡、掘立柱建物、 土坑、溝		須恵器、土師器、紡錘車、 石器、輸入陶磁器、石鍋、 五輪塔		集落跡	
関係文献					
No.	294	遺跡名	祇園原遺跡	所在地	日田市大字有田字尾其
調査原因	道路建設			調査期間	平成10年2月17日～平成10年5月20日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	土居和幸
調査面積	1,375㎡	時期	弥生・近世	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
掘立柱建物、近世盛、近世溝		人骨		集落跡、墓地	
関係文献					
No.	295	遺跡名	平島遺跡E地点	所在地	日田市大字東有田字塔ノ本
調査原因	道路建設			調査期間	平成10年5月6日～平成10年7月12日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	土居和幸
調査面積	700㎡	時期	弥生・古墳・中世	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
塚穴住居跡、掘立柱建物、 大型成人用甕棺墓、 横穴式石室、石蓋土壘墓		甕、甕、高坏、鉄器、土師器		集落跡、墓地	
関係文献					

No.	296	遺跡名	大肥桑里・中村地区		所在地	日田市大字大肥字森田	
調査原因	ほ場整備				調査期間	平成10年7月7日～平成10年12月30日	
調査機関	日田市教育委員会				調査担当者	行時志郎・吉田博嗣・森山敬一郎	
調査面積	10,000㎡	時期	古墳・古代・中世		遺物の保管	日田市教育委員会	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
独立柱建物、土坑、石棺墓、木棺墓、竪穴遺構、溝状遺構、鍛冶遺構			龍泉窯系青磁合子、碗、湖州鏡		集落跡、墓地		
関係文献							
No.	297	遺跡名	元宮遺跡		所在地	日田市大字求来里字堂園	
調査原因	土砂採取				調査期間	平成10年7月14日～平成10年7月21日	
調査機関	日田市教育委員会				調査担当者	土居和幸	
調査面積	10㎡	時期	弥生		遺物の保管	日田市教育委員会	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
箱式石棺			人骨		墓地		
関係文献							
No.	298	遺跡名	上ノ馬場遺跡		所在地	日田市大字北豆田字上ノ馬場	
調査原因	宅地造成				調査期間	平成10年8月3日～平成10年8月22日	
調査機関	日田市教育委員会				調査担当者	行時志郎	
調査面積	400㎡	時期	古墳・中世・近世		遺物の保管	日田市教育委員会	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
柱穴、井戸、土坑、溝状遺構			土師器、輸入陶磁器、瓦、陶器、瓦質土器、碗、鉄滓、銅銭		集落跡		
関係文献							
No.	299	遺跡名	史跡成宜間跡		所在地	日田市大字南豆田字中城	
調査原因	史跡整備				調査期間	平成10年9月28日～平成11年2月10日	
調査機関	日田市教育委員会				調査担当者	土居和幸	
調査面積	120㎡	時期	近世		遺物の保管	日田市教育委員会	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
トイレ状遺構、風呂遺構			なし		塾跡		
関係文献							

No. 300	遺跡名	三和教田遺跡D地点	所在地	日田市大字三和字帖町	
調査原因	宅地造成		調査期間	平成10年12月12日～平成10年12月23日	
調査機関	日田市教育委員会		調査担当者	土居和幸	
調査面積	372㎡	時期	旧石器・弥生	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
竪穴住居跡、土坑、柱穴		弥生土器、須恵器、石器		集落跡、墓地	
関係文献					
No. 301	遺跡名	川原田遺跡	所在地	日田市大字西有田字川原田	
調査原因	農道整備		調査期間	平成10年12月17日～平成11年3月30日	
調査機関	日田市教育委員会		調査担当者	吉田博嗣	
調査面積	1,046㎡	時期	古代・中世	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
掘立柱建物、竪穴遺構、中世墓、土坑、柱穴		小刀、鉄器、白磁碗		集落跡、墓地	
関係文献					
No. 302	遺跡名	内ノ下遺跡	所在地	日田市大字西有田字内ノ下	
調査原因	農道整備		調査期間	平成10年12月17日～平成11年3月30日	
調査機関	日田市教育委員会		調査担当者	吉田博嗣	
調査面積	2,570㎡	時期	縄文～近世	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
竪穴住居跡、竪穴遺構、土坑、溝、溝状遺構		縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、輸入・近世陶磁器		集落跡	
関係文献					
No. 303	遺跡名	三和教田遺跡E地点	所在地	日田市大字三和字貞清	
調査原因	店舗建設		調査期間	平成11年1月4日～平成11年1月9日	
調査機関	日田市教育委員会		調査担当者	土居和幸・若杉竜太	
調査面積	38㎡	時期	縄文	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
溝状遺構		縄文土器、弥生土器		旧可道	
関係文献					
No. 304	遺跡名	後迫遺跡	所在地	日田市大字三和(里道)	
調査原因	農道整備		調査期間	平成11年1月18日～平成11年3月23日	
調査機関	日田市教育委員会		調査担当者	行時志郎・若杉竜太	
調査面積	600㎡	時期	弥生～古代	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
竪穴住居跡、石棺墓、掘立柱建物、袋状貯蔵穴、柱穴		弥生土器、須恵器、管玉、人骨		集落跡、墓地	
関係文献					

No.	305	遺跡名	天満古墳	所在地	日田市大字小迫字天神山
調査原因	確認調査			調査期間	平成11年2月22日～平成11年3月27日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	土居和幸・下村 智
調査面積	6,050㎡	時期	古墳	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
古墳		なし		墓地	
関係文献					
No.	306	遺跡名	尾磨遺跡	所在地	日田市大字東有田字川三森
調査原因	道路建設			調査期間	平成11年2月26日～平成11年3月31日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	土居和幸・若杉竜太
調査面積	610㎡	時期	古墳・中世・近世	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
竪穴住居跡、掘立柱建物、土坑		須恵器、陶磁器、寛永通宝		集落跡	
関係文献					
No.	307	遺跡名	隈山遺跡	所在地	日田市大字石井字熊山
調査原因	墓地造成			調査期間	平成11年3月16日～平成11年3月31日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	土居和幸
調査面積	200㎡	時期	中世	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
墓		土師器、五輪塔		墓地	
関係文献					
No.	308	遺跡名	村前遺跡	所在地	日田市大字庄手字村
調査原因	宅地造成			調査期間	平成10年4月27日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	行時志郎
調査面積	10㎡	時期	中世	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
溝		中世土器類		集落	
関係文献					
No.	309	遺跡名	日隈城隣接地	所在地	日田市大字庄手日ノ隈
調査原因	宅地造成			調査期間	平成10年5月1日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	行時志郎
調査面積	40㎡	時期	弥生	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
土坑、柱穴		弥生土器、土師器		集落	
関係文献					

No. 310	遺跡名	大宮遺跡隣接地		所在地	日田市大字高瀬字小シマ
	調査原因	ポンプ場建設		調査期間	平成10年5月20日
	調査機関	日田市教育委員会		調査担当者	行時志郎
	調査面積	10㎡	時期	——	遺物の保管
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		——		——	
関係文献					
No. 311	遺跡名	山田原遺跡		所在地	日田市大字渡里(里道)
	調査原因	農道整備		調査期間	平成10年5月21日～平成10年5月23日
	調査機関	日田市教育委員会		調査担当者	土居和幸
	調査面積	92㎡	時期	弥生・古代・近世	遺物の保管
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
溝		土師器、須恵器、築付		集落跡、墓	
関係文献					
No. 312	遺跡名	日田糸里隣接地		所在地	日田市大字北豆田字上ノ馬場
	調査原因	宅地造成		調査期間	平成10年6月21日
	調査機関	日田市教育委員会		調査担当者	行時志郎
	調査面積	20㎡	時期	中世	遺物の保管
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
溝、上坑、柱穴		土師器、陶磁器		集落跡	
関係文献					
No. 313	遺跡名	日田糸里・下村地区		所在地	日田市大字北豆田字下村
	調査原因	アパート建設		調査期間	平成10年6月25日
	調査機関	日田市教育委員会		調査担当者	行時志郎
	調査面積	10㎡	時期	中世	遺物の保管
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		土師器		——	
関係文献					
No. 314	遺跡名	赤迫遺跡隣接地		所在地	日田市大字北豆田字扇畑
	調査原因	資材置場建設		調査期間	平成10年7月29日
	調査機関	日田市教育委員会		調査担当者	行時志郎
	調査面積	35㎡	時期	古墳	遺物の保管
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
——		土師器、須恵器		——	
関係文献					

No.	315	遺跡名	ハル遺跡隣接地		所在地	日田市大字羽田字ハル	
調査原因	ほ場整備				調査期間	平成10年8月20日	
調査機関	日田市教育委員会				調査担当者	土居和幸	
調査面積	110㎡	時期	中世・近世		遺物の保管	日田市教育委員会	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
柱穴、土坑			土器片		集落跡		
関係文献							
No.	316	遺跡名	尾漕遺跡		所在地	日田市大字有田字三森	
調査原因	道路建設				調査期間	平成10年9月21日	
調査機関	日田市教育委員会				調査担当者	土居和幸	
調査面積	50㎡	時期	古墳～近世		遺物の保管	日田市教育委員会	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
—			—		—		
関係文献							
No.	317	遺跡名	会所宮遺跡		所在地	日田市大字田島字中ノ手	
調査原因	店舗建設				調査期間	平成10年10月5日	
調査機関	日田市教育委員会				調査担当者	土居和幸	
調査面積	20㎡	時期	—		遺物の保管	—	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
—			—		—		
関係文献							
No.	318	遺跡名	日田条里		所在地	日田市大字西有田字シミドウ	
調査原因	宅地造成				調査期間	平成10年11月4日	
調査機関	日田市教育委員会				調査担当者	行時志郎	
調査面積	12㎡	時期	—		遺物の保管	—	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
—			—		—		
関係文献							
No.	319	遺跡名	八田遺跡隣接地		所在地	日田市大字羽田字八田	
調査原因	ほ場整備				調査期間	平成10年12月7日～平成10年12月8日	
調査機関	日田市教育委員会				調査担当者	土居和幸	
調査面積	434㎡	時期	中世		遺物の保管	日田市教育委員会	
主な遺構			主な遺物		遺跡の性格		
柱穴、土坑			土彫器		集落跡		
関係文献							

No.	320	遺跡名	日田条里・飛矢地区		所在地	日田市大字田島字飛矢	
調査原因	農地造成				調査期間	平成10年12月9日	
調査機関	日田市教育委員会				調査担当者	土居和幸	
調査面積	26㎡	時期	弥生		遺物の保管	日田市教育委員会	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
十坑		弥生土器			集落跡		
関係文献							
No.	321	遺跡名	三和教田遺跡F地点		所在地	日田市大字三和字寺田	
調査原因	共同住宅建設				調査期間	平成10年12月11日	
調査機関	日田市教育委員会				調査担当者	土居和幸	
調査面積	30㎡	時期	——		遺物の保管	——	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
——		——			——		
関係文献							
No.	322	遺跡名	大内田遺跡		所在地	日田市友田字大内田	
調査原因	給食センター建設				調査期間	平成10年12月16日	
調査機関	日田市教育委員会				調査担当者	土居和幸	
調査面積	70㎡	時期	——		遺物の保管	——	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
——		——			——		
関係文献							
No.	323	遺跡名	大肥条里・祝原地区		所在地	日田市大字夜明字祝原	
調査原因	ほ場整備				調査期間	平成11年1月13日～平成11年1月28日	
調査機関	日田市教育委員会				調査担当者	行時志郎	
調査面積	890㎡	時期	縄文・弥生・中世・近世		遺物の保管	日田市教育委員会	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
竈穴住居跡、鍛冶炉、溝、土坑、柱穴		縄文土器、弥生土器、土師器、輸入陶磁器			集落跡		
関係文献							
No.	324	遺跡名	大肥条里・茶屋ノ瀬地区		所在地	日田市大字夜明字茶屋ノ瀬	
調査原因	ほ場整備				調査期間	平成11年1月13日～平成11年1月28日	
調査機関	日田市教育委員会				調査担当者	行時志郎	
調査面積	890㎡	時期	縄文・弥生・中世・近世		遺物の保管	日田市教育委員会	
主な遺構		主な遺物			遺跡の性格		
竈穴住居跡、鍛冶炉、溝、土坑、柱穴		縄文土器、弥生土器、土師器、輸入陶磁器			集落跡		
関係文献							

No.	325	遺跡名	大肥条里・上村地区	所在地	日田市大字夜明字上村
調査原因	ほ場整備			調査期間	平成11年1月13日～平成11年1月28日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	行時志郎
調査面積	890㎡	時期	縄文・弥生・中世・近世	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
竪穴住居跡、土坑 柱穴		縄文土器、弥生土器、土師器、輸入陶磁器		集落跡	
関係文献					
No.	326	遺跡名	大肥条里・小鶴地区	所在地	日田市大字夜明字小鶴
調査原因	ほ場整備			調査期間	平成11年1月13日～平成11年1月28日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	行時志郎
調査面積	890㎡	時期	縄文・弥生・中世・近世	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
竪穴住居跡、土坑 柱穴		縄文土器、弥生土器、土師器、輸入陶磁器		集落跡	
関係文献					
No.	327	遺跡名	徳瀬遺跡	所在地	日田市大字庄手字徳瀬
調査原因	宅地造成			調査期間	平成11年1月23日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	行時志郎
調査面積	10㎡	時期	中世	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
溝、柱穴		土師器、瓦質土器		集落跡	
関係文献					
No.	328	遺跡名	大肥条里中村地区	所在地	日田市大字大肥字中村
調査原因	駐車場建設			調査期間	平成11年1月29日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	行時志郎
調査面積	99㎡	時期	弥生	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
竪穴住居跡、掘立柱建物		土師器、須恵器		集落跡	
関係文献					
No.	329	遺跡名	日限城跡接地	所在地	日田市大字庄手字築場
調査原因	大規模商業施設造成			調査期間	平成11年2月2日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	行時志郎
調査面積	10㎡	時期		遺物の保管	
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
関係文献					

No.	330	遺跡名	山田原遺跡	所在地	日田市大字三和字原地
調査原因	選菜場建設			調査期間	平成11年3月19日～平成11年3月26日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	行時志郎
調査面積	55㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
_____		_____		_____	
関係文献					
No.	331	遺跡名	尻坪平道跡	所在地	日田市大字石井字立石
調査原因	事務所建設			調査期間	平成11年2月8日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	行時志郎
調査面積	35㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
_____		_____		_____	
関係文献					
No.	332	遺跡名	大波瀬遺跡隣接地	所在地	日田市大字田島字大原
調査原因	市道建設			調査期間	平成11年2月17日～平成11年2月23日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	土居和幸
調査面積	18㎡	時期	中世・近世	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
坑跡、包含層		土師器、青磁		包含層	
関係文献					
No.	333	遺跡名	元宮遺跡2次	所在地	日田市大字求来里字堂園
調査原因	福祉施設建設			調査期間	平成11年3月18日～平成11年3月31日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	行時志郎
調査面積	150㎡	時期	弥生・古墳・中世	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
溝、土坑、柱穴		土師器、陶磁器		墓地、集落跡	
関係文献					
No.	334	遺跡名	大行寺遺跡	所在地	日田市大字西有田字大行事
調査原因	農道整備			調査期間	平成11年3月31日
調査機関	日田市教育委員会			調査担当者	行時志郎
調査面積	60㎡	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
_____		_____		_____	
関係文献					

No.	335	遺跡名	日田糸里跡	所在地	日田市淡窓町
調査原因	国道212号豆田地区電線類地中化工事			調査期間	平成10年11月9日～平成10年12月18日
調査機関	大分県教育委員会・日田市教育委員会			調査担当者	清水宗昭・高橋信武
調査面積	200㎡	時期	近世	遺物の保管	日田市教育委員会
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
陶磁器		石楯溝、土蔵		成宜園関連の溝と推定される。	
関係文献					
No.	336	遺跡名	中の島地区	所在地	日田市中の島町
調査原因	県道丸山五和線道路改良事業			調査期間	平成10年11月10日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	高橋信武
調査面積	1,000㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					
No.	337	遺跡名	西有田地区	所在地	日田市西有田
調査原因	有田川河川改修工事			調査期間	平成11年1月19日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	高橋信武
調査面積	500㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					
No.	338	遺跡名	渡型地区	所在地	日田市大字渡型
調査原因	渡里川河川改修工事			調査期間	平成11年1月11日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	高橋信武
調査面積	7,000㎡	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					
No.	339	遺跡名	上井手遺跡	所在地	日田市刃連町19番地
調査原因	建設省刃連宿舎新築工事			調査期間	平成10年7月24日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	栗田勝弘・豊田徹士
調査面積	1,800㎡	時期	中世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		中世・土師器 微蔵		水田層 (近世～近代)	
関係文献					

No.	340	遺跡名	北友田横穴墓群	所在地	日田市大字北友田
調査原因	片山地区急傾斜工事			調査期間	平成10年7月29日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	友崎信彦
調査面積	10m ²	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		横穴墓（破壊著しく調査不能）。	
関係文献					
No.	341	遺跡名	本庄地区	所在地	日田市本庄町
調査原因	県道丸山五和線道路改良工事			調査期間	平成10年6月16日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	栗原 真
調査面積	100m ²	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					
No.	342	遺跡名	大野地区	所在地	南津江村大字大野
調査原因	日田鹿本線道路改良工事			調査期間	平成10年9月28日～平成10年9月30日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	原田昭一
調査面積	約100m ²	時期	_____	遺物の保管	_____
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		なし	
関係文献					
No.	343	遺跡名	塚田地区	所在地	天瀬町大字塚田
調査原因	ほ場整備事業			調査期間	平成11年1月12日～平成11年1月19日
調査機関	大分県教育委員会			調査担当者	原田昭一
調査面積	約4ha	時期	中世・近世	遺物の保管	大分県教育庁文化課文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
ピット・土坑		近世・近代		近世～近代のものと考えられる遺構・遺物と、中世～近世の竪立柱建物群を検出した。	
関係文献 原田昭一「大分県内遺跡発掘調査概報7」大分県教育委員会 1999					
No.	344	遺跡名	平原遺跡	所在地	天瀬町大字塚田字平原
調査原因	ほ場整備事業塚田地区			調査期間	平成10年7月1日～平成10年10月31日
調査機関	天瀬町教育委員会			調査担当者	今田秀樹
調査面積	約2,330m ²	時期	旧石器・縄文・中世・近世・近代	遺物の保管	天瀬町文化財調査資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
縄文時代遺物包含層、集石遺構、中世竪立柱建物群、埴輪遺構、近世竪立柱建物群、陶土瓦遺構。		縄文時代…縄文土器、石器など 中世…土師器、陶磁器など 近世…陶磁器など		近世の竪立柱建物群を中心とする遺跡。当時の人々の実際の生活を知る上で参考になる。	
関係文献					
No.	345	遺跡名	原ノ久保遺跡	所在地	天瀬町大字塚田字原ノ久保
調査原因	ほ場整備事業塚田地区			調査期間	平成10年10月6日～平成10年10月31日
調査機関	天瀬町教育委員会			調査担当者	今田秀樹
調査面積	約870m ²	時期	縄文・近世・近代	遺物の保管	天瀬町文化財調査資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
近世竪立柱建物群 桶形汲取式トイレ遺構（2連便槽）		縄文時代…縄文土器、石器など 近世…陶磁器など		近世の竪立柱建物群を中心とする遺跡。周辺一帯が土屋敷敷地だったらしく、その関係の建物群だった可能性が高い。	
関係文献					

No.	346	遺跡名	亀石山遺跡	所在地	天瀬町大字出口字亀石山
調査原因	広域営農団地農道整備事業日田地区			調査期間	平成10年8月3日～平成10年8月10日
調査機関	天瀬町教育委員会			調査担当者	今田秀樹
調査面積	約1,400㎡	時期	旧石器・縄文	遺物の保管	天瀬町文化財調査資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		旧石器時代石核1点 剥片60点以上 縄文土器2点		調査地点は、標高800m以上の高所に位置しているものの、地形的に水の確保は容易だったように見える。今回の調査では、旧石器時代の遺物包層が多数確認出来た。少なくともクロボクの下の黄色ローム層の上部、黒色帯上部、黒色帯中部の3つのブロックを確認することが出来た。	
関係文献					
No.	347	遺跡名	秋切遺跡	所在地	天瀬町大字塚田字秋切
調査原因	広域営農団地農道整備事業日田地区			調査期間	平成10年9月14日～平成10年9月21日
調査機関	天瀬町教育委員会			調査担当者	今田秀樹
調査面積	約3,500㎡	時期	旧石器時代	遺物の保管	天瀬町文化財調査資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		当遺跡は、旧石器時代の周知遺跡である。今回確認調査を実施した地点での遺跡の存在は確認出来なかった。	
関係文献					
No.	348	遺跡名	高瀬川遺跡	所在地	天瀬町大字塚田字高瀬
調査原因	広域営農団地農道整備事業日田地区			調査期間	平成10年9月30日～平成10年10月16日
調査機関	天瀬町教育委員会			調査担当者	今田秀樹
調査面積	約3,000㎡	時期	旧石器・縄文・平安	遺物の保管	天瀬町文化財調査資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		旧石器時代…ナイフ形石器1点 石核1点、剥片類60点 縄文器時代…石鏃3点ほか		遺跡地は、いわゆる「高瀬高原」の中の標高約672mの所に位置している。今回の確認調査では、黒色帯の上部に良好な遺物包層を確認することが出来た。注目される点としては、流紋岩の石核、剥片が出土し、接合したことが挙げられよう。	
関係文献					
No.	349	遺跡名	杉ソノ遺跡	所在地	天瀬町大字五馬市杉ソノ
調査原因	地域農茶基盤確立農業構造改善事業			調査期間	平成10年11月16日～平成11年2月15日
調査機関	天瀬町教育委員会			調査担当者	今田秀樹
調査面積	約5,100㎡	時期	旧石器・縄文・弥生・近世・近代	遺物の保管	天瀬町文化財調査資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
弥生時代後期後葉の竪穴式住居跡 24軒 甍し穴状遺構 5基ほか		弥生時代 土器、鉄器、磁石、石皿、磨石など		弥生時代後期の大家族。	
関係文献					
No.	350	遺跡名	山田遺跡	所在地	天瀬町大字塚田字山田
調査原因	ほ場整備事業塚田地区			調査期間	平成11年2月17日～平成11年3月3日
調査機関	天瀬町教育委員会			調査担当者	今田秀樹
調査面積	約30,000㎡	時期	旧石器・縄文・中世・近世・近代	遺物の保管	天瀬町文化財調査資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
中・近世草葺 4基 その他に土坑及び柱穴群		旧石器時代 剥片1点 縄文時代 土器及び石鏃15点 中・近世遺物15点など		旧石器時代から近代にかけての複合遺跡である。	
関係文献					

No.	351	遺跡名	門出地区	所在地	玖珠町大字山田字門出
調査原因	店舗拡張工事			調査期間	平成10年4月21日
調査機関	玖珠町教育委員会			調査担当者	佐藤祐二
調査面積	600㎡	時期		遺物の保管	玖珠町教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
不定形土坑数個		弥生土器小片数点		調査区は、弥生時代の包含層として確認できたが、後世の水田耕作によりかなり攪乱されていた。	
関係文献					
No.	352	遺跡名	鶴田地区	所在地	玖珠町大字山田字鶴田
調査原因	老人保険施設建設			調査期間	平成10年4月22日
調査機関	玖珠町教育委員会			調査担当者	佐藤祐二
調査面積	700㎡	時期	弥生	遺物の保管	玖珠町教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
柱穴数個		弥生土器小片数点 高環脚部片		調査区は、弥生時代の包含層として確認できたが、後世の畑や水田耕作によりかなり攪乱されていた。	
関係文献					
No.	353	遺跡名	陣ヶ台地区	所在地	玖珠町大字山田字陣ヶ台
調査原因	配水場建設			調査期間	平成10年6月23日
調査機関	玖珠町教育委員会			調査担当者	佐藤祐二
調査面積	120㎡	時期	弥生	遺物の保管	玖珠町教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		弥生土器小片数点		調査区は、陣ヶ台遺跡の北側で、急な斜面であるため、遺構は検出されなかった。出土した土器片は流れ落ちたものと考えられる。	
関係文献 「陣ヶ台遺跡」玖珠町教育委員会 1999					
No.	354	遺跡名	箱瀬地区	所在地	玖珠町大字塚脇字箱瀬
調査原因	駐車場建設			調査期間	平成10年10月21日
調査機関	玖珠町教育委員会			調査担当者	佐藤祐二
調査面積	120㎡	時期		遺物の保管	玖珠町教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		調査区は、後世の宅地造成により攪乱され、遺構や遺物は確認されなかった。	
関係文献					
No.	355	遺跡名	坂口遺跡	所在地	玖珠町大字岩室字坂口
調査原因	スーパー店舗建設			調査期間	平成10年8月3日～平成10年11月30日
調査機関	玖珠町教育委員会			調査担当者	佐藤祐二
調査面積	17,000㎡	時期	弥生時代後期	遺物の保管	玖珠町教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
住居跡16棟 溝5条		竪や横や高環の脚部 磁石、石包丁		調査区は、弥生時代の後期の集落跡。	
関係文献					

No.	356	遺跡名	角半礼城跡	所在地	玖珠町大字森字角埋山
調査原因	保存目的の遺構確認			調査期間	平成11年2月15日～平成11年3月5日
調査機関	玖珠町教育委員会			調査担当者	佐藤祐二
調査面積	260m ²	時期	中世	遺物の保管	玖珠町教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
時期不明土坑数個		十部質土器片数点		調査区は、角埋山麓の山林で、遺構や遺物は確認されなかった。	
関係文献					
No.	357	遺跡名	傾城山古墳	所在地	玖珠町大字戸畑字傾城山
調査原因	保存目的の墳丘調査			調査期間	平成11年3月8日～平成11年3月19日
調査機関	玖珠町教育委員会			調査担当者	佐藤祐二
調査面積	200m ²	時期	古墳時代	遺物の保管	玖珠町教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
主体部石棺1基		墳丘測量だけなので特になし。		墳丘は、1/3が削られており、主体部の石棺が露出し、盗掘され、内部に土が混入している。	
関係文献					
No.	358	遺跡名	牧の原地区	所在地	玖珠町大字口出生字牧の原
調査原因	農業基盤整備事業			調査期間	平成10年9月28日～平成10年9月30日
調査機関	玖珠町教育委員会			調査担当者	佐藤祐二
調査面積	1,000m ²	時期	弥生	遺物の保管	玖珠町教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
不定形土坑数基		弥生土器片数点		調査区は、後世の畑や水田耕作によりかなり攪乱されていた。	
関係文献					
No.	359	遺跡名	平原地区	所在地	玖珠町大字森字平原
調査原因	広域農道整備事業			調査期間	平成10年11月16日～平成10年11月17日
調査機関	玖珠町教育委員会			調査担当者	佐藤祐二
調査面積	300m ²	時期	——	遺物の保管	玖珠町教育委員会文化財資料室
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
不定形土坑1基		なし		調査区は、後世の水田耕作によりかなり攪乱されていた。	
関係文献					
No.	360	遺跡名	玖珠地区	所在地	九重町大字松木
調査原因	広域農道整備事業			調査期間	平成10年10月28日～平成10年10月30日
調査機関	玖珠町教育委員会			調査担当者	原田昭一
調査面積	約1ha	時期	——	遺物の保管	——
主な遺構		主な遺物		遺跡の性格	
なし		なし		試掘調査は2箇所トレンチを設定して行った。その結果、わずかな上野質土器・近世陶磁器が出したが、本調査に及ぶほどのものではなかった。	
関係文献					
原田昭一「大分県内遺跡発掘調査概報7」大分県教育委員会 1999					

IV. 遺跡別時代一覧

(◎は特にあり ○はあり)

No.	調査年度	遺跡名	旧石器時代	縄文時代					弥生			古墳			飛鳥	奈良	平安			室町	江戸・明治	大正・昭和			
				早期	前期	中期	後期	晩前期	前期	中期	後期	7C	8C	9,10C			11,12C	13,14C	15,16C				17,20C		
1	○	定宿遺跡八反ガソウ地区													○	○	○	○	○						
2	○	福島遺跡東入道地区								○															
3	○	中津城下町遺跡殿町地区																							
4	○	舞下川築城遺跡											○	○	○										
5	○	定宿遺跡反ガソウ地区													○	○	○	○	○						
6	○	浜ノ上遺跡																							
7	○	天貝遺跡					○						○	○											
8		京ノ道遺跡																							
9		中津城下町遺跡金谷地区																							
10		岸の上遺跡				○		○																	
11	○	岸の上遺跡							○	○															
12	○	弥勒寺遺跡														○		○	◎	○					
13	○	法鏡寺遺跡														○									
14	○	丸塚遺跡														◎	○								
15	○	別府遺跡																							
16	○	小部遺跡														◎									
17	○	川部遺跡																							
18	○	小山村神社遺跡																							
19	○	中蔵遺跡																							
20	○	中蔵敷遺跡C区							○		◎								○	○					
21	○	正義寺遺跡																							◎
22	○	浮殿遺跡																			○	◎	○		
23	○	佐知久保須遺跡															◎	○							
24	○	御山糸水道跡															◎	○							
25	○	上ノ原平原遺跡															◎	○							
26	○	大塚寺横穴墓群															◎								
27	○	ト音掛遺跡																							
28	○	夷地区																							
29	○	夷地区																							
30	○	尾鼻遺跡																				○	○	○	
31	○	伏原遺跡																							○
32	○	吾々埜地区																							
33	○	北田遺跡																							
34	○	北田遺跡																							
35	○	北田遺跡																							
36	○	高山城下町																							○
37	○	那礼川地区																							
38	○	英ノ田坂碑																							◎
39	○	高川地区																							
40	○	御毛地区																							
41	○	露地区																							
42	○	那礼川地区																							
43	○	坂本遺跡																							○
44	○	阿波田遺跡																							○
45	○	糸水道跡																							
46	○	道ノ下遺跡																							
47	○	露寺山遺跡																							
48	○	在田地区																							
49	○	水車地区																							
50	○	尾立地区																							
51	○	舞ヶ畑地区																							
52	○	中山地区																							

(◎は特にあり ○はあり)

No.	種別 本調査 試掘	遺跡名	旧石器 時代	縄文時代						弥生		平安		鎌倉 南北期	室町	江戸・明治 大正・昭和
				早期	前期	中期	後期	前期	中期	後期	7C	8C	9.10C			
105	○	門前遺跡														
106	○	尾崎遺跡														
107	○	赤沼池地区														
108	○	二村川遺跡								○	○					○
109	○	玉沢地区幸田跡ガタンク地区														○
110	○	宮内地区														
111	○	松岡地区														
112	○	河原谷地区														
113	○	新田地区														
114	○	高敷・向原・毛川遺跡													○	
115	○	虫喰谷遺跡									○					
116	○	丹歩遺跡群								○						
117	○	霞茶店														
118	○	大友館第1次													○	
119	○	豊後園分寺跡									◎					
120	○	上野遺跡群(上野浜寺跡)								○	○	○				
121	○	大友館跡第2次													○	
122	○	横瀬地区														
123	○	萩原地区														
124	○	古国府遺跡群														
125	○	下部遺跡群														
126	○	下部遺跡群														
127	○	下部遺跡群														
128	○	下部遺跡群														
129	○	下部遺跡群														
130	○	下部遺跡群														
131	○	上野遺跡群														
132	○	中世大友城下町跡														
133	○	古国府遺跡群														
134	○	下部遺跡群														
135	○	中世大友城下町跡														
136	○	中世大友城下町跡														
137	○	大道遺跡群														
138	○	大道遺跡群														
139	○	榎ヶ丘地区														
140	○	榎ヶ丘地区														
141	○	榎ヶ丘地区														
142	○	古国府遺跡群														
143	○	下部遺跡群														
144	○	大道遺跡群														
145	○	榎ヶ丘地区														
146	○	榎ヶ丘地区														
147	○	榎ヶ丘地区														
148	○	大道遺跡群														
149	○	古国府遺跡群														
150	○	下部遺跡群														
151	○	大道遺跡群														
152	○	大道遺跡群														
153	○	大道朱瓦跡														
154	○	築野遺跡														
155	○	下部地区														
156	○	下部遺跡群														

(◎は特にあり ○はあり)

No.	類別 本調査	遺跡名	旧石器時代	縄文時代								弥生	古墳	飛鳥	奈良	平安	鎌倉	室町	江戸幕末 大正昭和
				草	早	前	中	後	晩	前	中								
157	○	中世大友城下町跡																	
158	○	上野遺跡群																	
159	○	下部地区																	
160	○	上野遺跡群																	
161	○	古国府遺跡群																	
162	○	大道遺跡群																	
163	○	大道糸里跡																	
164	○	大道遺跡群																	
165	○	大道遺跡群																	
166	○	大道遺跡群																	
167	○	大道遺跡群																	
168	○	大道遺跡群																	
169	○	麓地区																	
170	○	古国府遺跡群																	
171	○	中世大友城下町跡																	
172	○	下部遺跡群																	
173	○	中世大友城下町跡																	
174	○	大道遺跡群																	
175	○	大道遺跡群																	
176	○	大道遺跡群																	
177	○	中世大友城下町跡																	
178	○	下部遺跡群																	
179	○	大道遺跡群																	
180	○	中戸次地区																	
181	○	府内城下町跡																	
182	○	横尾遺跡群																	
183	○	横尾遺跡群																	
184	○	横尾遺跡群																	
185	○	横尾遺跡群																	
186	○	古国府遺跡群																	
187	○	中世大友城下町跡																	
188	○	下部遺跡群																	
189	○	横尾遺跡群																	
190	○	横尾遺跡群																	
191	○	下部遺跡群																	
192	○	大道遺跡群																	
193	○	玉沢地区糸里跡																	
194	○	大道糸里跡																	
195	○	古国府遺跡群																	
196	○	旗野遺跡																	
197	○	玉沢地区糸里跡																	
198	○	府内城下町跡																	
199	○	下部遺跡群																	
200	○	羽田遺跡																	
201	○	古国府遺跡群																	
202	○	古国府遺跡群																	
203	○	賀来糸里跡																	
204	○	向原遺跡																	
205	○	下部遺跡群																	
206	○	玉沢糸里跡																	
207	○	下部遺跡群第106次調査																○	
208	○	下部遺跡群第107次調査																○	○

(◎は特にあり ○はあり)

No.	編別 本調査 調査区	遺跡名	旧石器 時代	縄文時代										飛鳥 7C	奈良 8C	平安			室 15,16C	江戶-明治 大正-昭和 17,20C
				早	前	中	後	前	中	後	中	後	9,10C			11,12C	13,14C			
209	○	下部遺跡群第108次調査								○	○	○			◎	○	○		○	○
210	○	下部遺跡群第109次調査								◎	○				◎					○
211	○	下部遺跡群第110次調査								○	○								◎	○
212	○	下部遺跡群第111次調査									○									◎
213	○	下部遺跡群第112次調査																		◎
214	○	下部遺跡群第113次調査								◎					○			○	○	◎
215	○	下部遺跡群第114次調査																○	○	◎
216	○	下部遺跡群第115次調査							○	○	○				◎			○	○	◎
217	○	下部遺跡群第116次調査								○										◎
218	○	下部遺跡群第117次調査																		◎
219	○	多武見遺跡(横尾遺跡群67次)										◎							○	◎
220	○	多武見遺跡(横尾遺跡群68次)												○					◎	◎
221	○	多武見遺跡(横尾遺跡群69次)										◎							○	◎
222	○	多武見遺跡(横尾遺跡群70次)																	◎	○
223	○	多武見遺跡(横尾遺跡群71次)																	○	○
224	○	多武見遺跡(横尾遺跡群72次)										○							◎	○
225	○	多武見遺跡(横尾遺跡群73次)												◎						◎
226	○	多武見遺跡(横尾遺跡群74次)																	○	◎
227	○	中安遺跡(城原A)										○	○							
228	○	久土遺跡第4次															○	○	○	○
229	○	上野遺跡群・上野ヶ丘遺跡																		○
230	○	中世大友城下町跡(第4次)																		○
231	○	鎌守遺跡(第3次)																		○
232	○	上野遺跡群第2次												○	○	○				○
233	○	府内城下町跡(第11次)																		○
234	○	中世大友城下町跡																		○
235	○	大道糸屋跡																		○
236	○	中世大友城下町跡																		○
237	○	中世大友城下町跡																		○
238	○	中世大友館跡																○	○	
239	○	森の木遺跡							◎											
240	○	佐伯城下町																		○
241	○	佐伯城下町																		◎
242	○	佐伯城下町																		◎
243	○	池田地区																		
244	○	新ノ浦地区																		
245	○	井ノ上遺跡																		
246	○	門川地区																		
247	○	千塚地区																		○
248	○	千塚・西遺跡群																		○
249	○	大栗野津地区																		
250	○	下津尾地区								○										
251	○	原田第2遺跡							○	○					○					○
252	○	原田第2遺跡							◎						○					○
253	○	五郎丸遺跡																		◎
254	○	市原遺跡(泉原地区)																		◎
255	○	竜ヶ鼻洞穴群												◎						
256	○	岩戸遺跡							◎											
257	○	柚の木遺跡							○											
258	○	上山北地区																		
259	○	徳木・神村・飛熊野・塩手地区																		
260	○	牧ノ原・北遺跡																		○

(◎は特にあり ○はあり)

No.	種別 本調査 風 遺跡名	旧石器 時代	縄文時代						弥生古墳			平安			鎌倉 南北朝 13.14C	室町 15.16C	江戸・徳川 大正・昭和 17.20C
			早期	中期	後期	前期	中期	後期	7C	8C	9.10C	11.12C					
261	○ 黒指定有形文化財石鏡																
262	○ 須田遺跡		○	○					◎							○	
263	○ 高平城跡																○
264	○ 大平遺跡																
265	○ 緒方桑平・西白寺西遺跡																
266	○ 緒方宮沼黒山石仏															○	○
267	○ 中畑遺跡										○	◎				○	
268	○ 堀根遺跡															○	○
269	○ 上七里田遺跡																○
270	○ 宮柳遺跡群																○
271	○ 有氏地区													○			
272	○ 西福寺地区																
273	○ 岩ノ山遺跡																
274	○ 陣家の辻遺跡																
275	○ 下伏込遺跡																
276	○ 脱籠遺跡		◎	○	○	○			○								○
277	○ 史跡岡城跡																◎
278	○ 堀付地区																
279	○ 城原地区																
280	○ 城下町遺跡(立花陣跡)																◎
281	○ 城下町遺跡(殿沖跡)																◎
282	○ 片ヶ瀬遺跡					○			○								○
283	○ 中川午之助屋敷跡																○
284	○ 喜多村家屋敷北遺跡																○
285	○ 飯野家屋敷跡																◎
286	○ 稲荷社跡																◎
287	○ 野橋家屋敷跡																◎
288	○ 下石家屋敷跡																◎
289	○ 由学館跡																◎
290	○ 吹上遺跡(9次調査)								◎	◎	○						◎
291	○ 塔ノ本古墳																◎
292	○ 山口遺跡(2次)										○	○				○	○
293	○ 長沼遺跡C地点															○	○
294	○ 砥原谷遺跡																○
295	○ 平島遺跡E地点																○
296	○ 大黒条里・中村地区															○	○
297	○ 元宮遺跡																○
298	○ 上ノ馬場遺跡																○
299	○ 史跡成立屋跡																◎
300	○ 三和教田遺跡D地点	○															◎
301	○ 川原田遺跡																○
302	○ 内ノ下遺跡					○	○									○	○
303	○ 三和教田遺跡F地点					○	○										○
304	○ 後込遺跡																○
305	○ 天満古墳																◎
306	○ 尾濃遺跡																○
307	○ 梨山遺跡																○
308	○ 村崎遺跡																○
309	○ 日根城跡接点																○
310	○ 大宮遺跡隣接地																○
311	○ 山田原遺跡																○
312	○ 山田条里隣接地																○

V. 中世城館調査概要

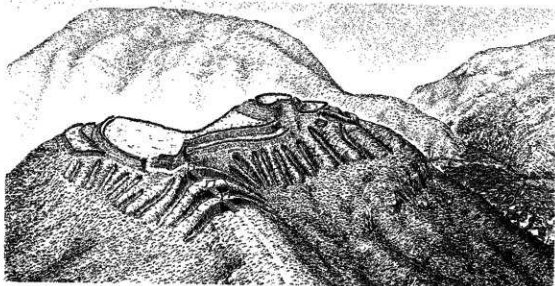
大分県教育委員会では、下表のように平成7年度から同14年度までの計画で中世城館の悉皆調査を行なっている。中世城館は、平成4年度の県文化課の遺跡台帳では約300ヶ所が知られているが、実数は500ヶ所にのぼるといわれている。それら全てについてその位置、規模、内容等を把握しようとするものである。

調査は山城に登り縄張り図を描くこと、城に関する文書や記録数を調べること、城や館周辺の地名や伝承を聞き取りし、更に明治21年調製の旧字図で、古い地割りを復元すること、など多岐にわたる。

近世に比べ圧倒的な数の中世山城は大部分が山林で、土に埋もれて良く残されてきたが、近年の山の荒廃や山の開発によりその存亡の危機に立たされているものも多い。また、館は市街化により、その姿を変えたものも多い。

これらに対応し、更に将来にわたって中世城館を文化財として伝えていく為に、基礎資料の蓄積は急迫な事業である。ぜひとも城館に関する情報があればお寄せいただきたい。

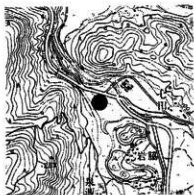
	縄張り図作製城館	旧字図マイクロ化市町村
7年度	観懸城(豊後高田市)、佐田城(安心院町)、鹿鳴越城(日出町)、甲ノ尾山城(山香町)、天面山城(大分市)、千歳城(大分市)、丸尾山砦(佐賀岡町)、山野城(久住町)、三船城(久住町)	玖珠町、九重町、天瀬町
8年度	まぐさ城(三光村)、高山城(宇佐市)、宮熊城(宇佐市)、山本砦(宇佐市)、生森城(杵築市)、岐部城(国見町)、城道跡(国東町)、御所の陣(国東町)、小城道跡(国東町)、小門山城(国東町)、亀城(国東町)、権梨岳城(杵内町)、烏帽子岳城(佐賀岡町)、朝日岳城(宇日町)、蔵小野砦(宇日町)、駒鳴砦(宇日町)、騎群城(竹田市)、王子ヶ城(野津町)、松尾城(三重町)、日隈城(日田市)、魚返城(玖珠町)、釘野城(九重町)、松本城(九重町)、岐部城(九重町)	竹田市、萩町、直入町、久住町、国東町、杵築市
9年度	池水城(中津市)、田丸城(中津市)、観懸城(豊後高田市)、金輪城(大田村)、竹ノ尾城(杵築市)、余多城(杵築市)、掛鐘城(山香町)、小松城(山香町)、龍ヶ鼻城(山香町)、城山城(山香町)、水ヶ城(臼杵市)、彦岳城(弥生町)、筒井ヶ城(野津町)、陣の城(野津町)、烏岳城(緒方町)、小牧城(緒方町)、高城(大野町)、出附城(大野町)、相ヶ鶴城(久住町)、田北城(直入町)、松牟礼城(直入町)、古後城(玖珠町)、観山道跡(九重町)、野上城(九重町)	宇佐市、中津市、三光村
10年度	長岩城(耶馬溪町)、佐田城(安心院町)、城山城(山香町)、皿内砦(宇日町)、荒内砦(宇日町)、津賀牟礼城(竹田市)、若山の陣跡(野津町)、南山城(久住町)、高井岳城(日田市)、野上城(九重町)	宇佐市、中津市、山香町



岐部城(九重町)永井 実作画

VI. 新発見遺跡一覧

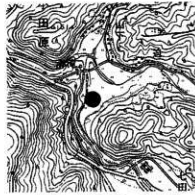
遺跡名	所在地	立地	種別	台帳番号
坂本遺跡	豊後高田市大字嶺崎字坂本	沖積地	その他	102173
屋敷田遺跡	豊後高田市大字浜田字屋敷田	河岸段丘	その他	102174
糸永遺跡	豊後高田市大字藤字糸永	自然堤防	集落	102175
道ノ下遺跡	豊後高田市大字道字道ノ下	自然堤防	集落	102176
蘇寺田遺跡	豊後高田市大字藤字寺田	河岸段丘	集落	102177
大源寺横穴墓群	三光村大字下株字大源寺	丘陵斜面	横穴墓	103039
尾島遺跡	香々地町大字夷字尾島	丘陵斜面	五輪塔群	112033
下吉掛遺跡	大田村大字下吉掛	河岸段丘	包蔵地	110064
岸の上遺跡	那馬浜町大字宮園字岸の上	河岸段丘	包蔵地・集落	105025
弥四郎遺跡	日出町大字藤原字弥四郎	台地	包蔵地	220091
壬子遺跡	日出町大字藤原字壬子	沖積地	包蔵地	220092
下野遺跡	日出町大字藤原字下野	台地	包蔵地	220093
毛井遺跡	大分市大字毛井字寺の前	沖積地	包蔵地	322332
中隠遺跡	久住町大字仏原字下市・石田	河岸段丘	包蔵地・集落	549065
上七里田遺跡	久住町大字有氏字上七里田	台地	集落	549066
頭田遺跡	緒方町大字大石字頭田	河岸段丘	包蔵地・集落	543094
塩付遺跡	竹田市大字平田字塩付	河岸段丘	集落	539156
塩付横穴墓群	竹田市大字平田字塩付	丘陵斜面	横穴墓	539157
坂口遺跡	玖珠町大字岩室字坂口	河岸段丘	集落	652102
塚田遺跡	天瀬町大字塚田	河岸段丘	集落	658034
山田遺跡	天瀬町大字塚田字山田	河岸段丘	包蔵地・集落	658035
松岡古窯跡群	大分市大字松岡字虫喰谷7005-1	丘陵斜面	生産遺跡	322333
金池南遺跡	大分市顕徳町1丁目2812-3	沖積地	集落	322334
炭竈遺跡	竹田市大字炭竈	河岸段丘	集落	539158



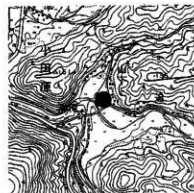
坂本遺跡 (1/25,000 「両子山」)



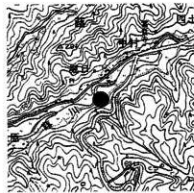
屋敷田遺跡 (1/25,000 「両子山」)



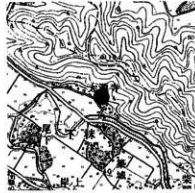
糸永遺跡 (1/25,000 「両子山」)



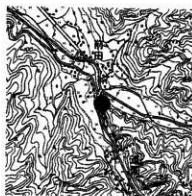
道ノ下遺跡 (1/25,000 「両子山」)



蘇寺田遺跡 (1/25,000 「両子山」)



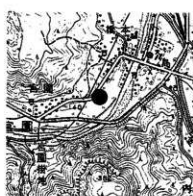
大源寺横穴墓群 (1/25,000 「土佐井」)



尾崎遺跡 (1/25,000 「香々地」)



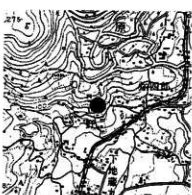
下高掛遺跡 (1/25,000 「若宮」)



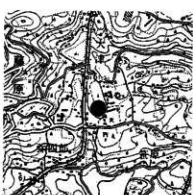
岸の上遺跡 (1/25,000 「耶馬溪西部」)



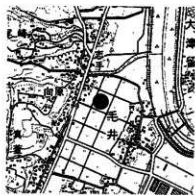
弥四郎遺跡 (1/25,000 「杵築」)



王子遺跡 (1/25,000 「杵築」)



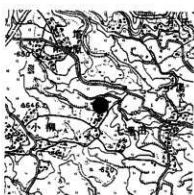
下野遺跡 (1/25,000 「杵築」)



毛井遺跡 (1/25,000 「鶴崎」)



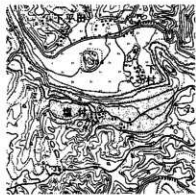
中殿遺跡 (1/25,000 「久住」)



上七里田遺跡 (1/25,000 「久住」)



頭田遺跡 (1/25,000 [小泉])



塚付遺跡 (1/25,000 [桜町])



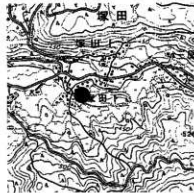
塚付横穴墓群 (1/25,000 [桜町])



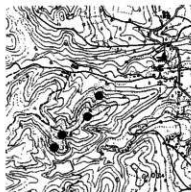
坂口遺跡 (1/25,000 [豊後森])



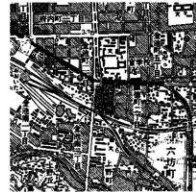
塚田遺跡 (1/25,000 [杖立])



山田遺跡 (1/25,000 [杖立])



松岡古塚跡群 (1/25,000 [鶴崎])



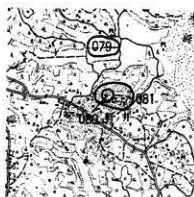
金池南遺跡 (1/25,000 [大分])



炭羅遺跡 (1/25,000 [桜町])

Ⅶ. 周知遺跡変更一覽

遺跡名	所在地	立地	種別	台帳番号
軒ノ井遺跡	日出町大字大神字軒ノ井	台地	集落	220080
下原遺跡	野津原町大字原村字下原	河岸段丘	集落・包蔵地	325012
和泉第1遺跡	日出町大字藤原字池田	台地	近世墓	220028
和泉第2遺跡	日出町大字藤原字池田	台地	集落・城跡	220029
龜石山遺跡	天瀬町大字出口字龜石山	台地	包蔵地	658025
高瀬遺跡	天瀬町大字塚田字高瀬	丘陵斜面	包蔵地・集落・生産遺跡	658019



軒ノ井遺跡 (1/25,000 [杆築])



下原遺跡 (1/25,000 [野津原])



和泉第1遺跡 (1/25,000 [杆築])



和泉第2遺跡 (1/25,000 [杆築])

龜石山遺跡 (1/25,000 [杖立])

高瀬遺跡 (1/25,000 [杖立])

- 110 -

Ⅷ. 現地説明会・展示会・講演会・シンポジウム・研修・指定物件一覧

現地説明会

名 称	主 催	内 容	期 日	参加人数
清太郎遺跡現地説明会	大分県教育委員会	九州横断自動車遺清太郎遺跡現地説明会	平成11年 3月28日	50人
八坂中遺跡現地説明会	大分県教育委員会	八坂川改修工事八坂中遺跡現地説明会	平成11年 2月13日	300人
弥勒寺跡発掘調査 現地説明会	宇佐市教育委員会	昨年度より実施している弥勒寺跡で検出された銅鑄跡・西塔跡の発掘調査成果や金立・瀧室の説明、及び宇佐市指定天然記念物であるヒメハルゼミの観察会を実施した。	平成10年 7月 5日	80人
川部遺跡発掘調査 現地説明会	宇佐市教育委員会	昨年度より実施している川部遺跡西内墳墓群の発掘調査の成果を、出土した銅・玉類・鉄器などを展示しながら説明した。	平成10年 9月23日	50人
北方下角遺跡現地説明会	挾間町教育委員会	遺跡の現地説明会	平成10年 3月23日	60人
荒田遺跡中間報告会	臼杵市教育委員会	中世地下式土坑と中世墓を中心とした解説	平成10年12月19日	150人
荒田遺跡総合報告会	臼杵市教育委員会	平成9・10年度調査の総合成果報告	平成11年 3月28日	60人
豊後国分寺跡、梵鐘跡 遺構説明会	大分市教育委員会	九州で初めて確認された古代の梵鐘跡遺構	平成10年 8月23日	300人
大友館現地説明会	大分市教育委員会	推定大友館の庭園遺構の説明会	平成10年11月28日	700人

展 示 会

名 称	主 催	内 容	期 日	会 場	参加人数
国民文化祭八幡フェスティバルオープニング	宇佐市教育委員会	県内7宗派により仏教音楽である聲明講演、黒岩重吉氏の記念講演、奈良市の観音による観音舞を実施した。	平成10年10月23日	宇佐文化会館ホール	参加 310人 観客 2,200人
国民文化祭八幡フェスティバル放生会の再現	宇佐市教育委員会	室町時代の放生会の再現として、宇佐市総合運動場より宇佐神宮まで陣形行列し、宇佐神宮では定講・重業・放生供養等の儀式を実施した。	平成10年10月24日	宇佐市総合運動場から宇佐神宮	参加 720人 観客 20,000人
国民文化祭八幡フェスティバル八幡民俗芸能祭	宇佐市教育委員会	全国の八幡系芸能団体より5団体、地元1団体による八幡系芸能を実演披露した。	平成10年10月24日	宇佐神宮	参加 127人 観客 3,500人
国民文化祭八幡フェスティバルポスター展	宇佐市教育委員会	県内をはじめ全国から応募のあった八幡関係神社・行事の写真及びポスターを宇佐神宮給湯室に展示した。	平成10年10月23日 ～10月25日	宇佐神宮	応募写真 43点 観客 3,000人
三光村の発掘展	三光村教育委員会	三光村内出土の遺物を展示	平成10年 3月13日 ～ 3月15日	イオン三光ショッピングセンター(イオンホール)	1,100人
テーマ展示Ⅱ 「下部遺跡展」	大分市歴史資料館	大分市下部遺跡出土品の展示	平成10年 7月 4日 ～ 9月27日	テーマ展示室	3,117人
第17回特別展 「おおいの遺立」	大分市歴史資料館	県内の指定有形文化財の展示	平成10年10月23日 ～11月23日	第2展示室 テーマ展示室	4,164人
吹上遺跡復元模型 一般公開展	臼田市教育委員会	高野を受けた、吹上遺跡6次調査地点風景復元模型の公開と、H9年度市内での発掘調査出土品の展示。	平成10年 5月25日 ～ 6月26日	臼田市埋文センター	約120人
出土遺物展示会	豊後高田市教育委員会	瀬崎遺跡等の遺物展示及びスライド上映	平成11年 3月16日	中央公民館	150人

講演会・シンポジウム

名 称	主 催	講 師	内 容	期 日	会 場	人 数
市民環境歴史講座 「原館川の自然と歴史」	宇佐市 教育委員会	WWF日本委員会 花 輪 伸一	「豊後(放生会)の海・豊前海」と題し、古代より宇佐人に豊かな帯を与えた豊前湾の自然環境を語る。	平成10年 7月11日	宇佐文化会館 小ホール	112人
市民環境歴史講座 「原館川の自然と歴史」	宇佐市 教育委員会	筑波大学名誉教授 賀 川 光夫	「原景樹文化」と題し、縄文時代において宇佐人が顕著樹林より得られた生活文化などを語る。	平成10年 8月 8日	別府大学研修 センター	87人
市民環境歴史講座 「原館川の自然と歴史」	宇佐市 教育委員会	別府大学教授 飯 沼 賢司	「原館川と宇佐大森」と題し、古代史における原館川と宇佐神宮との関わりについて語る。	平成10年 9月12日	宇佐文化会館 小ホール	86人
国民文化祭記念講演	宇佐市 教育委員会	作家 黒 岩 重吾	「八幡の歴史と文化」と題し、宇佐神宮の成立と日本文化に及ぼした影響を作家の立場から語る。	平成10年10月23日	宇佐文化会館 大ホール	1,100人
市民環境歴史講座 「原館川の自然と歴史」	宇佐市 教育委員会	大分市文化財調査委員 佐 藤 賢一	「豊後川の川」と題し、原館川水系の自然の豊さをオオサンショウウオを通して語る。	平成10年11月14日	別府大学研修 センター	68人
市民環境歴史講座 「原館川の自然と歴史」	宇佐市 教育委員会	別府大学教授 後 藤 宗俊	「先史、古代と原館川」と題し、宇佐人と原館川とのかかわりを通して宇佐の歴史について語る。	平成10年12月12日	別府大学研修 センター	70人
市民環境歴史講座 「原館川の自然と歴史」	宇佐市 教育委員会	別府大学教授 後 藤 康己	「原館川の水路開拓」と題し、南下有数の戦乱地帯である宇佐平野における農業の発展を語る。	平成11年 1月 9日	別府大学研修 センター	73人
市民環境歴史講座 「原館川の自然と歴史」	宇佐市 教育委員会	宇佐市文化財調査委員 中 島 二夫	「原館川の足跡」と題し、宇佐の歴史に多くの影響を与えた原館川の水質の変化を昆虫を通して語る。	平成11年 2月13日	別府大学研修 センター	63人
第1回文化財研究所セミナー	別府大学文化財研究所	福岡市教育委員会 比 左 陽一郎	今回は福岡市教育委員会の比左陽一氏を招き、レプリカ製作とその留意点について研修をおこなった。	平成10年10月 3日 ～10月 4日	別府大学	35人
第2回文化財研究所セミナー	別府大学文化財研究所	天理市教育委員会 泉 武	天理市教育委員会の泉武氏を招き最近の奈良県における古墳の発掘調査の成果に関してお話をいただいた。	平成11年 2月22日	別府大学	30人
ふるさとの歴史発見 「考古」のコース	大分市 歴史資料館	木 村 幾 多郎 (鑑賞)	「下郡遺跡とその周辺」	平成10年 7月 4日	大分市 歴史資料館	96人
ふるさとの歴史発見 「考古」のコース	大分市 歴史資料館	大分市教育委員会 坪 根 伸也	「下郡遺跡の概要」	平成10年 7月11日	大分市 歴史資料館	84人
ふるさとの歴史発見 「考古」のコース	大分市 歴史資料館	大分県教育庁 坂 本 嘉弘	「おおいの縄文土器」	平成10年 7月18日	大分市 歴史資料館	84人
ふるさとの歴史発見 「考古」のコース	大分市 歴史資料館	大分県教育庁 田 中 裕介	「大分川流域の古墳文化」	平成10年 8月 1日	大分市 歴史資料館	84人
ふるさとの歴史発見 「考古」のコース	大分市 歴史資料館	大分県教育庁 小 林 昭彦	「大分の須恵器」	平成10年 8月 8日	大分市 歴史資料館	78人
ふるさとの歴史発見 「考古」のコース	大分市 歴史資料館	大分県教育庁 宮 内 克己	「上城遺跡」	平成10年 8月22日	大分市 歴史資料館	71人
ふるさとの歴史発見 「考古」のコース	大分市 歴史資料館	大分県教育庁 高 橋 信武	「大分市電土畑遺跡について」	平成10年 9月 5日	大分市 歴史資料館	69人
ふるさとの歴史発見 「考古」のコース	大分市 歴史資料館	大分県歴史博物館 高 橋 徹	「思塚古墳の観」	平成10年 9月12日	大分市 歴史資料館	80人
ふるさとの歴史発見 「考古」のコース	大分市 歴史資料館	雙葉大学助教授 田 崎 淳之	特別講演「水田稲作時代の大分一時代はいかにして変わったか」	平成10年 9月19日	大分市 歴史資料館	79人
大友時代の城と館を語るⅢ	文化廳	飯沼 賢司 芦刈 政治 他	城郭からみた豊前戦争	平成10年11月 1日	三重町 中央公民館	200人
歴史講座	大南公民館	藤 沢 敏夫	亀塚古墳と遺跡保存	平成10年 6月 9日	大南公民館	32人
歴史講座	グリーンカルチャーセンター	藤 沢 敏夫	遺跡保存と歴史散歩	平成10年11月 7日	グリーンカルチャーセンター	35人
歴史講座	大分県立生涯教育センター	藤 沢 敏夫	亀塚古墳と遺跡保存	平成11年 3月27日	大分県立生涯教育センター	34人

研 修

名 称	主 催	場 所	内 容	期 日	参加人数
宇佐文化財愛護少年団 赤松寺跡発掘体験学習会	宇佐市 教育委員会	宇 佐 神 宮 赤 松 寺 跡	宇佐文化財愛護少年団の団員が、赤松寺跡の体験発掘調査を実施し、埋蔵文化財の重要性・赤松寺跡などの学習を行った。	平成10年11月28日	団員 30名
文化財調査委員研修	香々地町文化財調査委員会	香々地町 中央公民館	坂口・信重遺跡についての研修	平成11年 3月 3日	文化財調査委員
埋蔵文化財農政部 担当者等研修会	大分県教育庁 文化課	文化課文化財資料室	県内の農業林業関係事業担当職員に対して、埋蔵文化財の重要性および埋蔵文化財行政の法則と留意点を説明することにより、関係部局と教育委員会との連携を強め、埋蔵文化財調査と農業林業関係事業との円滑・迅速化を図ることを目的とする。	平成10年 6月29日	34人
埋蔵文化財土木建築 部担当者等研修会	大分県教育庁 文化課	文化課文化財資料室	県内の土木建築部・公社事業関係関係部局担当職員に対して、埋蔵文化財の重要性及び埋蔵文化財行政の法則と留意点を説明することにより、関係者の埋蔵文化財に対する意識を高め、関係部局と教育委員会との連携を強め、埋蔵文化財調査と土木建築部・公社等関係関係部局の事業との円滑・迅速化を図ることを目的とする。	平成10年 6月16日	62人
大分県文化財行政 担当者研修会	大分県教育庁 文化課	文化課文化財資料室	県及び市町村文化財行政担当者の共通理解と資質の向上を図ることを主目的とする。	平成10年 6月25日	50人
初任者研修会文化財 からのメッセージ	大分県教育庁 文化課	文化課文化財資料室	新任教職員文化財研修	平成10年 5月14日 6月 4日 11月26日	223人

指定物件一覽

県指定 有形文化財

名称又は物件	所 在 地	所有者又は管理団体	指定年月日	備 考
下山角塔婆	速見郡山香町大字山浦 4217	和田 美久	平成11年 3月23日	南北朝時代
老松花原石幢	大野郡野津町大字老松 1215	河野 正雄	平成11年 3月23日	室町時代
床木河野家石幢	南海部郡弥生町大字床木 1197-1	河野 李義	平成11年 3月23日	室町時代
絹本着色阿弥陀 米迦図 (1幅)	大分市大字森町549	尊想寺	平成11年 3月23日	室町時代
木造阿弥陀如来 立像 (1躯)	大分市大字森町594	尊想寺	平成11年 3月23日	鎌倉時代
巴形銅器	大分市大字中判田 1977 文化課文化財資料室	大分県(大分県教育委員会)	平成11年 3月23日	弥生時代

県指定 無形民俗文化財

名 称	保存者又は保存団体	所 在 の 場 所	指定年月日	備 考
豊前瀬瀬神楽	豊前岩戸神楽瀬瀬神盛会	中津市大字瀬瀬436-1	平成11年 3月23日	八坂神社ほか 毎年10月21日の祭典ほか

市町村指定 無形民俗文化財

名称又は物件	指 定 区 分	所有者又は管理団体	指定年月日	備 考
麻生神楽	無形民俗文化財	岳藤 広 (宇佐市)	平成10年12月24日	選択文化財

IX. 平成10年度埋蔵文化財関係文献一覧

A 県教育委員会

- 染矢和徳 『堂ノ間遺跡』(大分県文化財調査報告101) 1998-11
吉田 寛 『府内城下町遺跡—国道197号高砂歩道橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』1999-3
吉田 寛 『中尾近世墓地—国道10号線目の原欠差点弧橋に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』1999-3
原田昭一 編 『大分県内遺跡発掘調査概報』7 1999-3
吉田 寛 編 『大分県埋蔵文化財年報』7 (平成9年度版) 1999-3
小林昭彦 『ナシカ谷遺跡—大分県北部中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』1999-3
坂本嘉弘・児玉美香・衛藤麻衣 『龜ノ原遺跡—一般国道210号道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』1999-3
吉田 寛 『龍頭遺跡—県道山香院内線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』(大分県文化財調査報告102) 1999-3
牧尾義則 編 『スポーツ公園内遺跡群発掘調査報告書』(大分県文化財調査報告103) 1999-3
田中裕介 編 『小迫辻原遺跡Ⅰ』(九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書10) 1999-3
江田 豊 編 『荏原杉下遺跡』(九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書11) 1999-3
村上久和 編 『古国府遺跡群 上芦原地区・土毛地区・甲斐本地区』(大分県文化財調査報告104) 1999-3
江川 豊 編 『玉沢地区冬甲跡遺跡群』(九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書12) 1999-3
染矢和徳 『馬姓遺跡 北ノ後遺跡 乙院屋敷遺跡』(九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書13) 1999-3
友岡信彦 編 『夕田遺跡群』(九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書14) 1999-3

B 宇佐風土記の丘歴史民俗資料館・大分県立歴史博物館

- 小倉正五 『川部遺跡南西墳墓群』『USM歴史ニュース』45 1998-1 宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
後藤一重 『八坂遺跡群』『おおい歴史博』1、1998-8
『おおい歴史博』2、1998-10
『おおい歴史博』3、1999-3
『豊の国・おおいの歴史と文化』(常設展示図録) 1998-10
櫻井成昭 編 『豊後国香々地荘の調査 本編』(大分県立歴史博物館報告書第1集) 1999-3
高橋 徹 編 『大塚山寺院遺構確認調査報告書』Ⅶ (大分県立歴史博物館報告書第2集) 1999-3

C 市町村教育委員会

- 高崎幸一・花崎 徹 『福高遺跡(IV) 東入垣地区 定留遺跡八反ガソウ地区』(中津地区遺跡群発掘調査概報XI、中津市文化財調査報告23) 中津市教育委員会 1999-3
佐藤良二郎・川谷 浩・江藤和幸 『宇佐地区遺跡群発掘調査概報』XI 宇佐市教育委員会 1999-3
河野典之・岩男真吾・江藤和幸 『野津原遺跡—栄地区遺跡群発掘調査報告書—』(豊後高田市文化財調査報告書5) 豊後高田市教育委員会 1999-3
河野典之・岩男真吾 『豊後高田地区遺跡群発掘調査概報』XV 豊後高田市教育委員会 1999-3
甲斐寿美 『鬼籠当中心塔群』(団体宮農遺鬼籠地区に伴う埋蔵文化財調査報告書) 国見町教育委員会 1999-3
村上久和・河野真二 『ヒヨウ遺跡』(大田村文化財調査報告書6) 大田村教育委員会 1999-3
永松みゆき・藤本啓二 編 『原遺跡七郎丸地区・口寺川遺跡』(国東町文化財調査報告書18) 国東教育委員会 1999-3
大分市歴史資料館 編 『大分市歴史資料館年報(平成8年度)』大分市歴史資料館 1997-10
『大分市歴史資料館ニュース』44 大分市歴史資料館 1998-9
『人物地誌編』P1-2、『下郡遺跡展』P3-5、『高崎城と市内の山城6—鶴賀城—』P7
『大分市歴史資料館ニュース』45 大分市歴史資料館 1999-1
『高崎城と市内の山城7—千歳城—』P6
『大分市文化財だより』1998年度号 大分市教育委員会文化財室 1999-3
『大分市埋蔵文化財調査年報』7 (1995年度) 大分市教育委員会 1996-12
『大分市埋蔵文化財調査年報』9 大分市教育委員会 1998-12
堀地潤一・豊後史 『東田宮遺跡』大分市教育委員会 1998-12
河野史郎 『豊後国分寺跡—平成10年度確認調査概要報告書—』大分市教育委員会 1999-3
江田 豊 編 『町裏遺跡』(野津原町文化財調査報告書1) 野津原町教育委員会 1998-10
宮内克己・高橋信武 『板切遺跡群(第Ⅰ～Ⅴ)・小原田遺跡』久住町教育委員会 1999-3
宮田 剛 『五郎丸遺跡』(千歳地区遺跡群発掘調査概報IV) 千歳村教育委員会 1999-3
宮田 剛 『原田第2遺跡原地区』(千歳地区遺跡群発掘調査概報V) 千歳村教育委員会 1999-3
橋 昌信 編 『牟礼遺跡』(三重町文化財調査報告書5) 三重町教育委員会 1999-3
諸岡 郁 『三重地区遺跡群発掘調査概報』Ⅲ 三重町教育委員会 1999-3
坂本嘉弘 編 『千人塚遺跡』緒方町教育委員会 1999-3
村上久和 『岩戸遺跡の調査—村道岩戸線拡幅工事に伴う試掘調査概報—』清川村教育委員会 1999-3

- 城戸 誠「一般国道57号竹田掘埋蔵文化財発掘調査報告書」竹田市教育委員会 1999-3
- 佐伯 治「史跡岡城跡Ⅳー平成10年度史跡岡城跡保存修理事業報告書ー」竹田市教育委員会 1999-3
- 行時志郎 編「平成7年度(1995年度)日田市埋蔵文化財年報」日田市教育委員会 1997-3
- 土屋和幸 編「平成8年度(1996年度)日田市埋蔵文化財年報」日田市教育委員会 1998-3
- 土屋和幸 編「平成9年度(1997年度)日田市埋蔵文化財年報」日田市教育委員会 1999-3
- 下村 智・七野淳也 編「遺上遺跡ー第9次調査の概要報告ー」日田市教育委員会 1999-3
- 日田市教育委員会 編「石田塚ヶ原遺跡群」(リーフレット) 日田市教育委員会 1999-3
- 坂本憲弘 陣ヶ台遺跡(玖珠町文化財調査報告9) 玖珠町教育委員会 1999-3
- 河野典之・大久保謙一郎「寺田今藤遺跡ー小田原地区遺跡群発掘調査報告書(1)ー」(豊後高田市文化財調査報告会3) 1994-3 豊後高田市教育委員会
- 佐藤良二郎「宇佐地区崇雲広域農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書ー上山田横穴墓・観音山横穴墓・観音山板碑ー」1994-10 宇佐市教育委員会
- 河野典之・今田秀樹・小谷桂太郎「寺田卯月遺跡ー小田原地区遺跡群発掘調査報告書(2)ー」(豊後高田市文化財調査報告会4) 1995-3 豊後高田市教育委員会
- 河野典之・大久保謙一郎「豊後高田地区遺跡群発掘調査概報」XI、豊後高田市教育委員会 1995-3
- 村上久和「妙ヶ野遺跡」(耶馬溪町文化財調査報告書1) 耶馬溪町教育委員会 1997-3
- 村上久和「大迫岩ノ下遺跡」(千歳村文化財調査報告書3) 千歳村教育委員会 1997-3
- 真田博幸「一般国道57号竹田掘埋蔵文化財発掘調査概報Ⅳー穴井道2遺跡・穴井道3遺跡ー」竹田市教育委員会 1997-3
- 城戸 誠「竹田地区遺跡群平田地区 城下町遺跡群Ⅱ」竹田市教育委員会 1997-3
- 城戸 誠「城下町遺跡 立花塚敷」竹田市教育委員会 1997-3
- 城戸 誠・上野淳也「一般国道502号線改良工事埋蔵文化財発掘調査概報Ⅲー中川川之助農歌群・稲荷谷近世墓地群ー」竹田市教育委員会 1998-3
- 真田博幸「市道岡城跡道路改良工事埋蔵文化財発掘調査概報ー中川川之助農歌群・稲荷谷近世墓地群ー」竹田市教育委員会 1998-3
- 真田博幸「竹田地区遺跡群 史跡岡城跡周辺遺跡群Ⅲ」竹田市教育委員会 1998-3
- 佐伯 治「史跡岡城跡ー平成9年度史跡岡城跡管理施設事業報告書ー」竹田市教育委員会 1998-3
- 佐伯 治「史跡岡城ⅡⅢー平成9年度史跡岡城跡保存修理事業報告書ー」竹田市教育委員会 1998-3
- 行時志郎「森ノ元遺跡」(日田市埋蔵文化財調査報告書13) 1998-3 日田市教育委員会
- 土屋和幸・行時志郎・永田裕久「馬形遺跡」(日田市埋蔵文化財調査報告書16) 1998-3 日田市教育委員会
- 吉田博嗣「口が原遺跡」(日田市埋蔵文化財調査報告書17) 1998-3 日田市教育委員会

D 別府大学関係

- 中口吉人 編「史前文化調査関係国際学術研究討論会」(柳川国際シンポジウム発表要旨) 1994-11 別府大学
- 橋 昌信「日本列島における旧石器時代および新石器時代初期の調査研究の現状」P6~9
小方丘彦「聖岳遺跡の形質」P48~49
- 坂田邦洋「足(跡)の研究」別府大学文学部史学科世界文化史研究室 1999-2
『別府大学付属博物館だより』42 別府大学付属博物館 1999-3
大坪芳典「筑後川流域の先史文化ー川下遺跡の資料ー」P9~10、遠部 慎「大野川流域における先史文化ーヤトコ遺跡の資料ー」P10~11
- 坂田邦洋「足の研究ーメコンデルタの住人ー」『別府大学紀要』第40号 別府大学 1998-12
- 別府大学中世史研究会「あせみち」4号 別府大学中世史研究会 1999-3
『別府大学博物館研究報告』14 1993-3 別府大学博物館学課程
- 橋 昌信「駒方津室遺跡におけるスクレイパーの遺存ー遺跡復元へのアプローチー」P1~16
『別府大学博物館研究報告』19、1998-2 別府大学博物館学課程
- 橋 昌信「いわゆる博物館学・文化財学の学問領域」P1~5、田内幸子「文化財保護と修復ー白杵層崖仏を例としてー」P20~26、橋 昌信「九州における後期旧石器時代の起源と前半期の石器群」P27~38
『院生研究報告抄』1 (1997年度) 1998-3 別府大学大学院文学部研究科歴史学専攻
『史学論叢』29 別府大学史学会 1999-3
賈川光夫「縄文中期農耕論(昭和初期)」P1~29

E 県内雑誌等

- 『大分県地方史』170 1998-7 大分県地方史研究会
- 渋谷忠章「大分県の碑石経」P1~16、小柳和宏「中世城館調査の紹介」P17~31、
大分市教育委員会・萩周辺総合整備発掘調査班「中世大友城下町(中世府内町)発掘調査事始め」P32~43
吉田博嗣「日田の中世第一近年の発掘調査からー」P44~55
『大分・大友土器研究』22 1998-7 大分・大友土器研究会
林 潤也・中西武尚・幸しるふ「豊後における都城系土器器について」P1~5

- 『大分・大友土器研究』23 1998-10 大分・大友土器研究会
 長田大輔「野津川中央公民館所蔵の土師質土器について」P1~2、甲斐壽義「土師の内瀧跡出土資料の検討」P3~4
 『大分・大友土器研究』24 1998-12 大分・大友土器研究会
 高島 豊「中世大友城下町跡出土の貿易陶磁」P1~9、小野貴史「文献から見た大友歴史」
 『別府史談』12 1998-12 別府史談会
 賀川光夫「黒塚古墳と三角縁神獣鏡」P1~8
 『佐伯史談』180 1999-2 佐伯史談会
 「(表紙解説) 山部のキリシタン塔」P44
 『おおいた考古』11 1999-3 大分県考古学会
 木村幾多郎「大分市亀甲古墳の所在地について」P1~15、田中裕介「大分県埋蔵資料集Ⅰ」P19~38
 遠部 慎「下城遺跡群の整理ノート」P39~48、林 潤也「大分川河床採集の縄文晩期土器」P49~57
 『大分県地方史』173 1999-3 大分県地方史研究会
 高橋信武「上野遺跡群竜王畑遺跡の発掘調査—豊後国府河内遺跡の発見—」P15~29、坪根伸也「大分市下郡
 遺跡群の古代道路状遺構について」P30~60、田中裕介「大分平野の古代道路遺構と「海部路」の復元」P61~79
 『豊日史学』218~220 豊日史学会 1999-3
 山本義孝「英彦山をめぐる諸問題」P1~58、山本義孝「英彦山研究会十年の歩みとその成果」P59~94
 木村達美「蔵持山の遺跡と構成」P95~106
 『二豊の石造美術』19 大分県石造美術研究会 1999-3
 川島善雄「花巻のキリシタン墓」P6~10、渋谷忠章「石造塔婆入門」P22~40
 坪根伸也「東九州における異種系統土器の共存事例の検討—素描—」第1回弥生土器研究セミナー資料 1998-9
 坪根・高島・塩地「第17回中世土器研究会に参加して」『中世土器研究』第92号中世土器研究会 1999-2
 橋本丈太郎「中世瓦器の生産と流通—関東半島地域の追加補足資料より—」P1~8
 山路康弘「華人の存在と畿内との関わり—古墳時代から古代において—」P9~14

F 九州内誌誌等

- 『九州研通信』2 九州前方後円墳研究会 1998-4
 村上久和「宇佐市川部遺跡南西地区の墳墓群」P10~11、蔵富士寛・若杉竜太「地域別・近年の研究動向に肥後」
 『九州研通信』3 九州前方後円墳研究会 1998-10
 田中裕介「大分県の研究動向—豊後を中心に—」P3~4
 『九州研通信』4 九州前方後円墳研究会 1999-3
 小柳和宏「日出町真那井城山遺跡の調査」P6、齋田 都「三重町電ヶ鼻古墳の調査」P6~7

G 九州外の雑誌等

- 『旧石器考古学』56 1998-6
 萩 幸二「旧石器時代の九州地方の器種と石器石材に関する一考察(1)」P29~41
 『日本考古学年報』49 (1996年度版) 1998-7 日本考古学協会
 坂本憲弘「各都道府県の動向—大分県—」P438~443、宮内克己「大分県直入郡久住町原田遺跡群」P591~595
 『旧石器考古学』57 1998-12
 萩 幸二「旧石器時代の九州地方の器種と石器石材に関する一考察(2)」P27~38
 『考古学ジャーナル』437 ニューサイエンス社 1998-10
 坂田邦洋「松坂古墳の足跡」P41~43
 『長野県考古学会誌』87・88 長野県考古学会 1999-3
 遠部 慎「九州押型文土器の再編成にむけて—田村遺跡・ヤトコロ遺跡・大貫貝塚出土資料—」P79~99
 『考古学に学ぶ』(同志社大学考古学シリーズ) 1999-3
 原田昭一「大分県における中世集約変遷略史」P701~724
 『博多研究会誌』第6号 博多研究会 1998-10
 塩地潤一「大友領国内における京都系土師器の分布とその背景」

H 一般書

- 藤本啓二「九州における古代・中世の製鉄遺跡」『人間・社会・環境との新しい調和を求めて—福〜西日本から見た
 製鉄の歴史—』第136回秋季講演大会 社会鉄鋼工学会シンポジウム 1998-9
 原田明一「海軍者の興津城」『古代探求』中央公論社 1998-6
 『宇佐航空隊の世界』Ⅳ 豊の国字佐市塾 1998-3
 林 一也「城井」号埴埴塚の調査と保存」P48~54
 『原始・古代の長崎県』歴史編 1998-3 長崎県教育委員会
 賀川光夫「狩猟・漁業と採集の生活—縄文時代—」P193~332